末日聖徒イエス・キリスト教会・2012年9月号

# リアホナ

## 伝道——今がその時です，20ページ

混沌とした時代についてのモルモン書の見解，30ページ

どっちのオオカミを養い育てますか，52ページ

家族の活動——総体会を指折り数える，63ページ

2012年9月20日発行（毎月1回20日発行）第14巻第9号　昭和42年12月18日第3種郵便物認可　ISSN 1344-8595

© ELSPETH YOUNG, 複写は禁じられています

「手ずから望みのように仕上げる」 エルスペス・ヤング

*ルデヤはテアテラの町で紫布の商人でした。*
*箴言31章に描かれている純粋な女性のように，ルデヤは「手ずから望みのように」仕上げました（箴言31：13）。*
*使徒パウロの言葉を聞いたうちの一人で，「主は彼女の心を開いて，パウロの語ることに耳を傾けさせ〔ました〕。」（使徒行伝16：14）*
*ルデヤと家族がバプテスマを受けた後，パウロに家に来てもっと教えてくれるように頼みました（使徒行伝16：15参照）。*

12

# リアホナ2012年9月号


## メッセージ

4 **大管長会メッセージ——真心を込めて福音を分かち合う**
ヘンリー・B・アイリング管長

7 **家庭訪問メッセージ——特別な必要と行った奉仕**

## 特　集

12 **キリストを信じる信仰を築く**
D・トッド・クリストファーソン長老
*わたしたちの信仰を，行動の原則以上のものにすることができます。*

16 **良い模範となって福音を伝える**
ステファニー・J・バーンズとダーシー・ジェンセン
*自分自身が改宗するときに，自分の生活を通して福音を分かち合うことができます。*

20 **シニア宣教師——預言者の呼びかけにこたえる**
ケンドラ・クランドール・ウィリアムソン
*伝道をするための障害を乗り越えるには信仰が必要ですが，すばらしい報いがもたらされます。*

30 **キリストの弟子は戦争と暴力の時代をどう生きるか**
デビッド・ブレント・マーシュ
*モルモン書は，信仰深い弟子は困難なときにも希望を持つことができると教えています。*

35 **刈り入れの時は来る**
マイケル・R・モリス
*従順でいるときに，神の祝福が必ず来ます。*

## シリーズ

8 **４月の大会ノート**

9 **若人の強さのために——選択の自由を賢明に使う**

10 **キリストについて語る——自分の敵を愛する**
匿　名

26 **わたしたちの家庭，わたしたちの家族——神殿に焦点を当てることによりもたらされる祝福**
ジョシュア・J・パーキー

38 **末日聖徒の声**

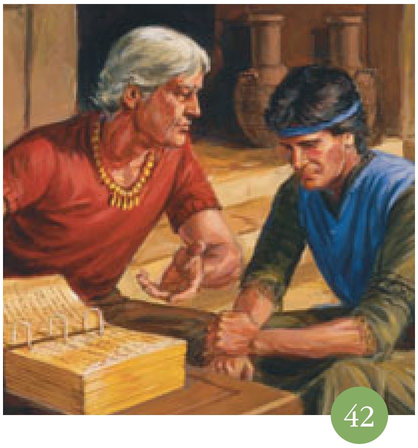
74 **教会のニュース**

79 **家庭の夕べのためのアイデア**

80 **また会う日まで——わたしにはどんな価値があるのだろうか**
アダム・C・オルソン


**表　紙**
表紙——写真／ロバート・ケーシー。
裏表紙——写真／グラント・ホワイトサイズとテリー・ホワイトサイズの厚意により掲載。

## ヤングアダルト





42 **わたしたちに対する指導者の言葉——あなたがたは世の光である**
エードリアン・オチョア


## 青少年


46 **そこが知りたい**

48 **生活のバランスを保つ**
M・ラッセル・バラード長老
*8つの原則が，不安定な世界でバランスを保てるように助けてくれます。*

51 **ポスター——時間を賢明に使いましょう**

52 **若人の強さのために——選択の自由と責任**
シェーン・M・ボーエン長老

54 **模範による祝福**
O・ビンセント・ハレック長老
*良い模範でいれば，幅広い影響を持つことができます。*

57 **最強の軍隊**
H・ダニエル・ウォルケ・カナレス
*奉仕したいことはわかっていました。でも，軍隊の兵役で，それとも神の軍隊のどちらで奉仕するべきでしょうか。*

58 **わたしたちのスペース**

*今月号の中に隠れているリアホナを捜しましょう。*
*ヒント——「初等協会」に出席する*

## こども

59 **読み方を習う**
ラリー・R・ローレンス長老
*読み方を学ぶことが，福音を見つける助けになりました。*

60 **お友達宣教師**
ジェーン・マクブライド・チョート
*福音を分かち合うことは，お友達を初等協会に誘うよりも，ほんとうに簡単でしょうか。*

62 **わたしたちのページ**

63 **総大会を指折り数える**
*この活動を利用して，総大会に備えましょう。*

64 **しょとうきょうかいをかていでも——じっかいは，かみとその子どもたちをあいすることを教えてくれます**

66 **こんにちは！ウクライナのキエフに住んでいる，ティモフェイです。**
チャド・E・ファレス
*ティモフェイは3人の友達を神殿のオープンハウスに招待しました。*

68 **イエス様のお話——ニーファイ人をおとずれられたイエス様**
ダイアン・L・マンガム

70 **ちいさな　おともだちへ**

81 **モルモン書に　出てくる　じんぶつなどの　絵**

リアホナ　2012年9月号
第14巻9号(10489 300)
末日聖徒イエス・キリスト教会国際機関誌(日本語版)
**大管長会:**トーマス・S・モンソン,ヘンリー・B・アイリング,ディーター・F・ウークトドルフ
**十二使徒定員会:**ボイド・K・パッカー,L・トム・ペリー,ラッセル・M・ネルソン,ダリン・H・オークス,M・ラッセル・バラード,リチャード・G・スコット,ロバート・D・ヘイルズ,ジェフリー・R・ホランド,デビッド・A・ベドナー,クエンティン・L・クック,D・トッド・クリストファーソン,ニール・L・アンダーセン
**編集長:**ポール・B・パイパー
**顧問:**キース・R・エドワーズ,クリストフェル・ゴールデン・ジュニア,ペア・G・マーム
**実務運営ディレクター:**デビッド・L・フリッシュニクト
**編集ディレクター:**ビンセント・A・ボーン
**グラフィックスディレクター:**アラン・R・ロイボーグ
**編集主幹:**R・バル・ジョンソン
**編集主幹補佐:**ジェニファー・L・グリーンウッド,アダム・C・オルソン
**共同編集者:**スーザン・バレット,ライアン・カー
**編集スタッフ:**ブリタニー・ビーティー,デビッド・A・エドワーズ,マシュー・D・フリットン,ラリーン・ポーター・ガーント,キャリー・カステン,リア・マクラナハン,メリッサ・メリル,マイケル・R・モリス,サリー・J・オデカーク,ジョシュア・J・パーキー,チャド・E・ファレス,ジャン・ピンボロー,ポール・バンデンバーグ,マリッサ・A・ウィディソン,メリッサ・ゼンテノ
**実務運営アートディレクター:**J・スコット・クヌーセン
**アートディレクター:**スコット・バン・カンペン
**制作主幹:**ジェーン・アン・ピーターズ
**主任デザイナー:**C・キンボール・ボット,コリーン・ヒンクレー,エリック・P・ジョンセン,スコット・M・ムーイ
**制作スタッフ:**コレット・ネベカー・オーヌ,コニー・ボウソーブ・ブリッジ,ハワード・G・ブラウン,ジュリー・バーデット,レジナルド・J・クリステンセン,ブライアン・W・ギュギ,キャスリーン・ハワード,デニス・カービー,ギニー・J・ニルソン
**製版:**ジェフ・L・マーティン
**印刷ディレクター:**クレーグ・K・セドウィック
**配送ディレクター:**エバン・ラーセン
**日本語版翻訳課長:**デレック・リン・ウェスマン
●定期購読は,「『リアホナ』注文用紙」でお申し込みになるか,郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会　振込口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ,直接郵送いたします。●『リアホナ』のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057 東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会　管理本部配送センター　電話:03-5668-3391
発行所　末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047 東京都港区南麻布5-10-30
電話　03-3440-2351
定　価　年間予約/海外予約　830円(送料共)
普通号/大会号　120円
**『リアホナ』へのご投稿およびご質問は,英語版ホームページ liahona.lds.org からお送りください。また,下記の連絡先でも受け付けています。**
**Rm. 2420, 50 E. North Temple St.,**
**Salt Lake City, UT 84150-0024, USA**
**電子メール:liahona@ldschurch.org**
『リアホナ』(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は,以下の言語で出版されています。
アルバニア語,アルメニア語,ビスラマ語,ブルガリア語,カンボジア語,セブアノ語,中国語,中国語(簡体字),クロアチア語,チェコ語,デンマーク語,オランダ語,英語,エストニア語,フィジー語,フィンランド語,フランス語,ドイツ語,ギリシャ語,ハンガリー語,アイスランド語,インドネシア語,イタリア語,日本語,キリバス語,韓国語,ラトビア語,リトアニア語,マダガスカル語,マーシャル語,モンゴル語,ノルウェー語,ポーランド語,ポルトガル語,ルーマニア語,ロシア語,サモア語,スロベニア語,スペイン語,スウェーデン語,タガログ語,タヒチ語,タイ語,トンガ語,ウクライナ語,ウルドゥー語,ベトナム語(発行頻度は言語により異なります。)
©2012 Intellectual Reserve, Inc. 版権所有。印刷:日本
『リアホナ』に掲載されている文章や視覚資料は,教会や家庭において一時的に,また非営利目的に使用する場合は複写することができます。視覚資料に関しては,作品の著作権表示に制限が記されている場合に複写できないことがあります。著作権に関するご質問は,Intellectual Property Office, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150, USA に郵送するか,電子メール――cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。
**For Readers in the United States and Canada:**
September 2012 Vol. 36 No. 9. LIAHONA (USPS 311-480) English (ISSN 1080-9554) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is $10.00 per year; Canada, $12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Poste Information: Publication Agreement #40017431)
POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, P.O. Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

# インターネットで得られる追加情報

Liahona.lds.org〔英語〕

## 成　　人

シニア宣教師が,障害を乗り越えて伝道に出る霊的な話を読んでみてください(20ページ参照)。様々な地域のシニア宣教師の写真や証は **liahona.lds.org** で見ることができます。

## 青　少　年

52ページに,新しい『若人の強さのために』のパンフレットに掲載されている,標準に関する特集の最初の記事があります。標準についての追加情報は **youth.lds.org** を参照してください。

## こ　ど　も

63ページにある「総大会を指折り数える」の活動をやってみてください。その他の総大会の活動は **lds.org/general-conference/children** にあります。

## あなたの言語で

**languages.lds.org** で,『リアホナ』や教会のその他の資料を多くの言語で入手できます。

## 今月号に取り上げられているテーマ

*数字は記事の最初のページを表します。*

**愛**, *10*
**証**, *47*
**イエス・キリスト**, *68*
**戒め**, *64*
**改宗・改心**, *26, 54, 59*
**家族**, *26, 40, 66*
**家庭訪問**, *4*
**逆境**, *30*
**悔い改め**, *30*
**個人の価値**, *80*
**死**, *26, 30, 38*
**従順**, *30, 35, 64*
**祝福**, *35*
**初等協会**, *70*
**自立**, *35*
**信仰**, *12, 20*
**神殿活動**, *26*
**神殿のガーメント**, *47*
**聖約**, *12*
**選択の自由**, *9, 51, 52*
**総大会**, *8, 41, 63*
**伝道活動**, *4, 12, 16, 20, 39, 40, 41, 42, 46, 57, 60*
**バランス**, *48, 51*
**標準**, *40*
**復活**, *68*
**平和**, *38*
**奉仕**, *7, 20, 44*
**模範**, *42, 54*
**モルモン書**, *30, 68, 81*
**赦し**, *10*
**読み書きの能力**, *59*
**労働**, *35*

大管長会第一顧問
**ヘンリー・B・アイリング管長**

# 真心を込めて 福音を分かち合う

神は福音を受け入れる備えのできた人々を，福音を分かち合いたいと望んでいる，備えのできた僕のもとに導かれます。皆さん自身もそのような経験をしてきたことでしょう。そうした経験をどのくらい頻繁にするかは，皆さんの思いと心の準備にかかっています。

わたしの友人は，福音を受け入れる備えのできた人に出会えるよう毎日祈っています。そしてモルモン書を1冊持ち歩いています。短い旅行に出る前の晩，友人はモルモン書の代わりにパスアロングカードを持って行くことにしました。しかし出かける仕度ができたときに，「モルモン書を持って行きなさい」という霊的な促しを感じました。そこで，かばんに1冊入れました。

旅行中，顔見知りの女性と隣の席になり，「この人だろうか」と思いました。帰りもまた一緒になりました。「どうやって福音の話を持ち出したらよいだろうか」と友人は考えました。

ところが，女性の方からこう言ってきたのです。「あなたは教会に什分の一を納めていらっしゃるのですよね。」 友人はそのとおりだと答えました。女性は，自分も自分の集っている教会に什分の一を納めることになっているが，納めていないと言いました。そして，次のように尋ねてきました。「モルモン書について話していただけませんか。」

そこで友人は，モルモン書はジョセフ・スミスによって翻訳された聖典で，イエス・キリストについてのもう一つの証であることを説明しました。興味があるようだったので，友人はかばんに手を入れ，言いました。「この本を持って行くべきだと感じたのです。きっとあなたに渡すためだったのでしょう。」

女性はモルモン書を読み始め，別れ際にこう言いました。「このことについて，もっとお話しさせていただくことになりそうです。」

その女性は教会を探していたのです。友人はそのことを知る由もありませんでしたが，神は***御存じでした***。女性が友人のことをずっと見ていて，教会を通して大きな幸せを得ているのはなぜだろうと思っていたことも御存じでした。女性がモルモン書について尋ねることも，喜んで宣教師から福音を学ぶことも御存じでした。女性は備えができていました。友人もそうです。同じように，皆さんやわたしも備えることができます。

わたしたちは思いと心を備える必要があります。その女性は，モルモン書や回復された主の教会，神に什分の一を納めるという戒めについて聞いたことがあり，覚えていました。そして真理についての証が心の中に生じ始めるのを感じていました。

主は聖霊によってわたしたちの思いと心に真理を示すと言っておられます（教義と聖約8：2参照）。皆さんが出会う人のほとんどは，その備えをすでに始めています。神について，また神の言葉について，聞いたり読んだりしたことがあります。もし心が十分に柔らかいならば，どんなにかすかであったとしても，真理について心に確認を受けたことがあります。

その女性は備えができていました。友人もそうでした。

イラスト／ダン・バー

末日聖徒であった友人は，モルモン書を研究し，それが真実であるという証を感じていました。そしてモルモン書を持って行くようにという御霊の導きに気づきました。思いも心も備えができていたのです。

回復された真理についての皆さんの証を受け入れるよう，神は人々を備えておられます。そして神は皆さんに，自分や愛する人々にとってかけがえのないものとなっているものを恐れずに分かち合う信仰と，次に行いをお求めになります。

毎日福音の真理で思いを満たすことによって，分かち合う備えをしてください。戒めを守り，聖約を尊ぶとき，御霊の証を感じ，皆さんと皆さんが出会う人々に対する救い主の愛をより強く感じることでしょう。

もし自分のなすべきことを行うなら，真理について皆さんの証を聞く備えのできた人々と出会うすばらしい経験が増えていくことでしょう。真心を込めて，人々の心に証を伝える機会を得ることでしょう。■

### このメッセージから教える

家族の人たちと一緒にメッセージを読み，最後から2番目の段落について話し合うとよいでしょう。この段落で，アイリング管長は証を強める方法について語っています。福音を分かち合うときに証することの大切さについて家族の人たちと話し合ってください。子供たちは，友達にどのように証するかロールプレイをするとよいかもしれません。

## 青少年

### 言うべきことを知る

自分は人と分かち合えるほど福音をよく知らないと感じるなら，聖文にある次の約束に慰めを見いだしてください。

「この民に向かって声を上げなさい。わたしがあなたがたの心の中に入れる思いを語りなさい。そうすれば，あなたがたは人々の前で辱められることはないであろう。

あなたがたの言うべきことは，まさにそのときに，まことにその瞬間にあなたがたに授けられるからである。」（教義と聖約100：5－6）

「助け主，すなわち，父がわたしの名によってつかわされる聖霊は，あなたがたにすべてのことを教え，またわたしが話しておいたことを，ことごとく思い起させるであろう。」（ヨハネ14：26）

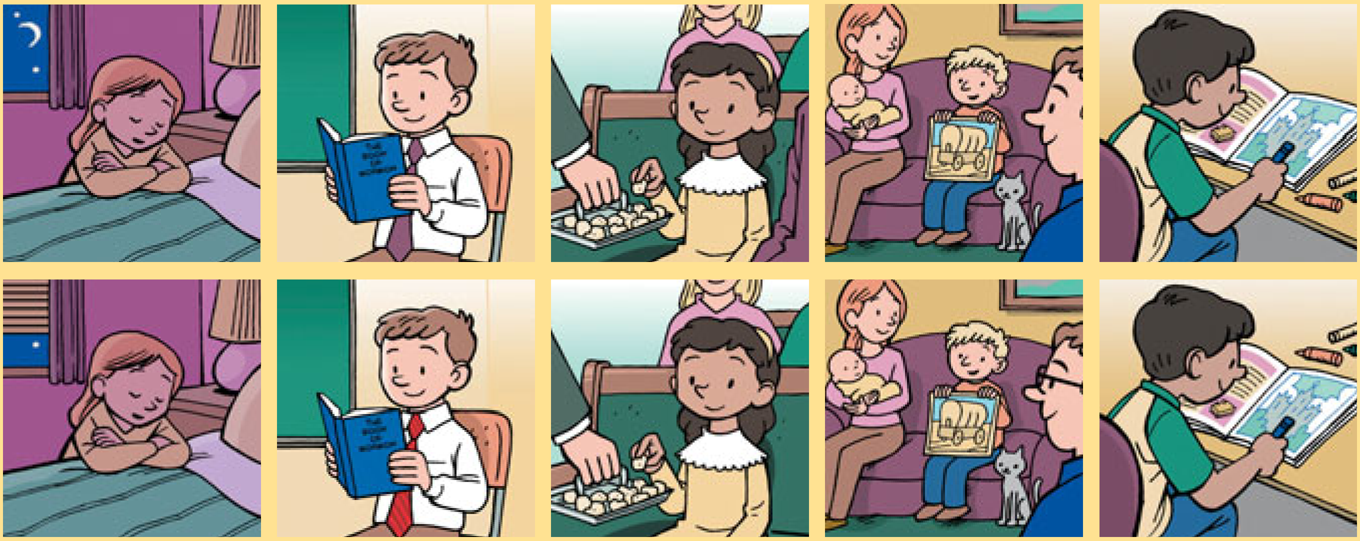
これらはすばらしい約束ですが，それを受けるためには，自分のなすべきことを行わなければなりません。このメッセージの中で，アイリング管長はどうすればよいかを教えてくれています。「毎日福音の真理で思いを満たすことによって，〔福音を〕分かち合う備えをしてください。」 福音の真理で思いを満たすために，どのようなことができるでしょうか。

## こども

### 分かち合う　じゅんびを　しましょう

アイリングかんちょうは，ふくいんを　分かち合うための　大切な　じゅんびについて　教えています。それは，下の　子どもたちが　しているように，ふくいんの　しんりで　おもいを　いっぱいに　することです。

下の　だんの　絵を　見て，上の　絵と　ちがう　ところを　見つけましょう。



ふくいんを　分かち合う　じゅんびを　するために，ほかに　どのような　ことが　できますか。

フォトイラスト／クリスティーナ・スミス©IRI，イラスト／アダム・コフォード

*祈りをもってこの資料を学び，必要に応じて訪問先の姉妹と話し合ってください。質問を使うことによって，訪問先の姉妹を強め，あなた自身の生活の中で扶助協会を生かすようにしてください。*

**信仰・家族・扶助**

# 特別な必要と行った奉仕

「困っている人はいつでもおり，わたしたちはそれぞれ，だれかを助けるために何かすることができます」と，トーマス・S・モンソン大管長は言っています。「自分を捨てて人に奉仕しなければ，自分自身の人生の目的などほとんど〔ありません〕。」[1]

訪問教師として，わたしたちは真心から訪問先の姉妹一人一人を知り，愛することができます。訪問先の姉妹たちに対する愛から，彼女たちへの奉仕の行いが自然とあふれ出ることでしょう（ヨハネ13：34－35参照）。

必要なときに奉仕できるように，どうすれば姉妹たちの霊的および物質的な必要を知ることができるでしょうか。訪問教師であるわたしたちには，担当の姉妹たちについて祈るときに霊感を受ける資格があります。

担当の姉妹たちに定期的にコンタクトし続けることも大切です。直接訪問すること，電話，励ましの短い手紙，電子メールによって連絡を取ること，一緒に座ること，心から褒めること，教会で声をかけること，病気のときや困っているときに助けること，そのほかの奉仕の行いはすべて，互いに見守り合い，強め合う助けとなります。[2]

訪問教師は，姉妹たちの状況や彼女たちが抱えている特別な必要と，自分たちが行った奉仕を報告するように求められています。このような報告や姉妹たちへの奉仕を通して，わたしたちは自分が主の弟子であることを示すことができます。[3]

### 聖文から

ヨハネ10：14－16；3ニーファイ17：7，9；モロナイ6：3－4

**注**

1. トーマス・S・モンソン「今日（きょう）われ善（よ）きことせしか」『リアホナ』2009年11月号，84－85
2. 『手引き　第2部──教会の管理運営』（2010年）9.5.1参照
3. 『手引き　第2部』9.5.4参照
4. メアリー・エレン・スムート『わたしの王国の娘──扶助協会の歴史と業』117で引用
5. 『歴代大管長の教え──スペンサー・W・キンボール』82

### 何ができるでしょうか？

**1.** 自分が担当しているそれぞれの姉妹の霊的および物質的な必要に対処する方法を知るために，個人的な啓示を求めているでしょうか。

**2.** あなたが担当の姉妹とその家族の人たちを気にかけているということを，彼女たちはどのようにして知るでしょうか。

### わたしたちの歴史から

互いに仕え合うことは，常に家庭訪問の中心となってきました。継続的な奉仕によって，わたしたちは毎月の訪問以外のときにも優しさと友情を届けます。大切なのは心から気にかけることです。

「姉妹の皆さんにお願いしたいのは，電話や毎月あるいは四半期ごとの訪問がきちんと行われるかについて心配するのはやめ……ていただきたいということです」と，中央扶助協会第13代会長であるメアリー・エレン・スムート姉妹は述べています。「芽生えたばかりの柔らかな霊を養うことに心を尽くして〔ください〕」と，スムート姉妹はわたしたちに求めています。[4]

スペンサー・W・キンボール大管長（1895－1985年）は，「王国で互いに仕え合うことがきわめて大切〔である〕」と教えています。しかし，キンボール大管長はすべての奉仕が英雄的行為である必要はないことを認め，次のように述べています。「わたしたちに奉仕の行いとして求められているのは，誠意を込めた励ましや，日常の仕事の……手伝いであることがほとんどです。しかし，……小さいながらも思慮深い行いから，どれほどすばらしい結果が引き出されることでしょう。」[5]

詳しくはreliefsociety.lds.org〔英語〕をご覧ください。

フォトイラスト／マシュー・ライアー

# 4月の大会ノート

*「主なるわたしが語ったことは，わたしが語ったのであ〔る。〕……*
*わたし自身の声によろうと，わたしの僕(しもべ)たちの声によろうと，それは同じである。」*（教義と聖約1：38）

2012年4月の総大会を復習する際に，このページ（および今後の「大会ノート」）を使って，生ける預言者と使徒の最近の教えを学び，生活に取り入れることができます。

**大会で話された物語**

## 最初の召し

ドイツのフランクフルトで，わたしは家族とともにある支部に出席していました。この小さな支部にはすばらしい人がたくさんいました。支部会長のランツシュルツ兄弟がその一人でした。……

ある日曜日，ランツシュルツ会長はわたしに話があると言いました。……

集会所に支部会長室がなかったので，〔彼〕は小さな教室にわたしを招き入れました。そして，執事定員会会長として奉仕する召しをわたしに告げました。

支部会長は「これは大切な責任ですよ」と言ってから，時間を取って，その理由を説明してくれました。主と支部会長がわたしに何を期待しておられるか，またわたしがどのように助けを受けられるかを説明してくれたのです。

支部会長が何を言ったかはほとんど忘れてしまいましたが，自分がどう感じたかははっきりと覚えています。彼が話している間，聖なる神の御霊(みたま)を感じました。この教会が救い主の教会であり，支部会長から受けた召しが聖霊によって霊感を受けたものであることを感じました。わたしは随分と大人になったような気持ちでその小さな教室を後にしたことを覚えています。……

……わたしは誇りを感じ，最善を尽くして奉仕したい，支部会長や主を失望させたくないと思いました。

今考えると，支部会長は形だけわたしをその職に召すこともできました。廊下で簡単に告げることも，あるいは神権会の間に，わたしが新しい執事定員会会長になったと発表することもできたのです。

しかし彼は時間を取って，わたしの割り当てと新しい責任が*何か*ということだけでなく，それよりもはるかに重要である，割り当てが*なぜ*あるのかを理解できるように助けてくれました。……

……これは神権指導者に備わっている，人を動かす力，すなわち霊を呼び覚まし行動を起こさせる力についての教えです。

**大管長会第二顧問　ディーター・F・ウークトドルフ管長**
**「神権の奉仕をする*理由*」『リアホナ』2012年5月号，58参照**

### 考えるための質問

- 教会の召しを受けることによって，あなたとあなたが奉仕する人々はどのように強められるでしょうか。
- たとえ忙しくても教会の召しを受ける備えをするために何ができるでしょうか。

あなたの考えを日記に書くか，ほかの人と話し合ってみてください。

フォトイラスト／ルース・シブス

このテーマに関するその他の資料 ──『聖句ガイド』「召す，神から召される，召し」の項，scriptures.lds.org/jpn；ヘンリー・B・アイリング「神からの召し」『リアホナ』2002年11月号，75－78

総大会の説教を読んだり，見たり，聴いたりするには，conference.lds.org にアクセスしてください。

# 選択の自由を賢明に使う

若いときに学ぶことのできる最も大切な真理の一つは，真の自由と永続する幸福は選択の自由を使って神の戒めを守ることでもたらされるということです。[1] 今月号の52－53ページで，七十人のシェーン・M・ボーエン長老はこの原則を強調しています。

「皆さんは，御父が持っておられるすべてを受け継ぐ可能性を秘めています。それを選ぶのは皆さんです。」ボーエン長老は若人にそう語っています。

罪悪と危険に満ちた世の中で，正しい選択をし，誘惑に打ち勝つことができるよう子供たちを備えるうえで，両親は重要な役割を担っています。実際，主は両親に「〔自分の〕子供たちを光と真理の中で育てるように」と命じておられます（教義と聖約93：40）。

教会は子供たちがこの標準を学び実践できるように援助手段を両親に提供しています。以下の提案が役立つことでしょう。

## 青少年に教えるための提案

- 10代の子供たちと一緒に『若人の強さのために』の「選択の自由と責任」の項を読みます。それは標準について話し合い，子供たちが持っている疑問に答える良い機会となります。
- 今月号の52－53ページに収められているボーエン長老の記事を読みます。その中から，正しいオオカミを養い育てることについての話を使ってもよいでしょう。この話は，10代の子供たちが良い決定を下すことの大切さを理解するのに役立ちます。
- youth.lds.orgにアクセスし，「青少年のメニュー」の下にある「若人の強さのために」をクリックし，次に「選択の自由と責任」をクリックします。そこに参照聖句，動画，質疑応答，そして様々な記事（英文）が収められています。
- 家庭の夕べや祈り会を開いて，自分たちが信じることを雄々しく擁護することの大切さについて話し合ってもよいでしょう。[2]

## 子供に教えるための提案

- 今月の「しょとうきょうかいを　かていでも」は，戒めを守ることを選ぶのがテーマです（今月号の64－65ページ参照）。家族でこの話を読み，その中で決断したことが幾つあるか把握するよう子供に言います。天の御父はわたしたちが決断を下すことで学び成長できるようにしてくださっている，ということについて話します。決断することで学んだ幾つかの事柄を紹介します。
- 「しょとうきょうかいを　かていでも」に載っているCTRの活動を行います。次に良い決断を下すことによってもたらされる結果について話し合います。義にかなった決断を下すことによって受けた祝福についての証（あかし）を分かち合います。
- 選択の自由と責任について教えることに関するその他の情報については，『2012年度分かち合いのための概要』の1月の項を参照してください（この資料は，オンライン上でlds.org/service/serving-in-the-church/primary/sharing-time-2012）に収められています〔英文〕）。■

**注**

1.『若人の強さのために』（小冊子，2011年），3参照
2. トーマス・S・モンソン大管長「一人でも気高く立ち」『リアホナ』2011年11月号，60参照

### 選択の自由に関する聖句

申命11：26－28；30：15－20
ヨシュア24：14－15
2ニーファイ2章
ヒラマン14：30－31
モロナイ7：15－19
教義と聖約58：26－28；101：78
モーセ4：3－4

イラスト／スコット・グリアー

**内なる癒し**

「わたしたちの多くは，〔キリストのような〕哀れみ，愛，赦しの段階にまだ到達してはいません。確かにそれは容易なことではありません。自分の限界を超えた自己訓練が必要です。しかし，努力するならば，依り頼むことのできる癒しの源がある，すなわちキリストには力強い癒しの力が秘められていることが分かるようになります。そしてもしイエスの真の僕になろうとするならば，その力をほかの人のために使うだけでなく，もっと大切なことでしょうが，自分自身の心の中で使わなければならないことが分かるようになります。」

**ゴードン・B・ヒンクレー大管長**
**（1910－2008年）**
**「キリストの癒しの力」**
**『聖徒の道』1989年2月号，60**

# 自分の敵を愛する

**匿　名**

*わたしは周囲の人々を，敵も含めて，*
*愛するという主の戒めについて知っていましたが，*
*その兵士を見たとき，愛することができませんでした。*

わたしは占領下にある国で育ちました。占領国兵士はわたしの国の人々に対して残酷な扱いをしました。わたしの町では，人々の多くが，そのような兵士から逮捕され，殴られ，銃で撃たれ，さらにははっきりとした理由もなく殺されました。ある日のこと，わたしが16歳のときに，兵士がわたしの大学にやって来て，生徒の一人の頭を銃で撃ちました。2時間も，兵士はその生徒を病院に連れて行かせませんでした。その日，わたしはこの兵士たちに対する憎しみを募らせました。わたしの国の人々に与えた苦痛のゆえに彼らを赦すことができませんでした。また，その生徒の姿を忘れることができませんでした。

25歳で教会に入ったとき，教会に行くのは大変なことでした。検問所や外出禁止令，そのほかの移動にかかわる制限が課せられていたからです。聖餐を受け，末日聖徒の仲間に会うために，命がけで家を抜け出しました。家族で，また町で教会員が一人だけというのはつらいことでした。教会員に会いたいと思いましたが，ほとんど毎週のように兵士から追い返されました。

ある安息日のこと，検問所を横切ろうとしていたとき，その兵士はわたしに外に出ることはできないと言い，家に帰るように命じました。彼を見たとき，わたしは救い主の言葉を思い出しました。「敵を愛し〔なさい〕。」（マタイ5：43－44参照）

そのときわたしはその兵士を愛していないことに気づきました。教会に入って後，10代のころに感じた憎しみは消えていましたが，敵を愛するまでには至っていなかったのです。救い主イエス・キリストはわたしたちにこの戒めをお与えになりましたが，わたしは心の底ではそれらの占領国兵士を愛していませんでした。そのような気持ちがあることに，わたしは何日も悩みました。特に，そのころ神殿に参入するために準備をしていたのでなおさらでした。

ある日のこと，次の聖句に出会いました。「あなたがたは，御父が御子イエス・キリストに真に従う者すべてに授けられたこの愛で満たされるように，また神の子となれるように，熱意を込めて御父に祈りなさい。」（モロナイ7：48）　わたしはモルモンが個人的にわたしに語りかけ，どのように愛すればよいか教えてくれているように感じました。

わたしは天の御父に助けを求めることにしました。断食をし，敵を愛することができるように助けを祈り求めました。何日もの間，何の変化も感じませんでし

写真／ブサス・フォトグラフィー社。「それだけでやめなさい」ウォルター・レーン，複写は禁じられています

たが，気づかないうちに天の御父はわたしの心を少しずつ変えてくださっていたのです。約1年がたち，検問所の一つを通り抜けようとしていたとき，そこにいる兵士が中に入ることはできないと言いました。そのとき感じた気持ちは以前とは違っていました。その兵士の目をのぞき込んだとき，彼に対して驚くほどの愛を感じました。また，天の御父も彼を深く愛しておられると感じました。彼も神の子供であることが分かったのです。

ニーファイのように，わたしは今，分かりました。主が命じられることには，それを成し遂げられるように主が道を備えてくださっていて，それでなくては，主は何の命令もわたしたちに下されないのです（1ニーファイ3：7参照）。キリストがわたしたちに敵を愛するように命じられたとき，主の助けがあれば，それが可能であることを御存じでした。わたしたちが主を信じ，主の偉大な模範から学びさえすれば，主はほかの人々を愛するようわたしたちに教えることがおできになるのです。■

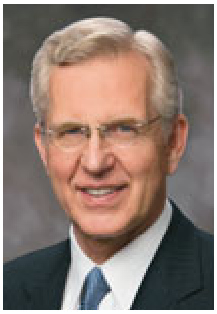
*「キリストはここでもまたわたしたちの模範です。主はその生き方と教えによって道を示されました。邪悪な者，不道徳な者，御自分を傷つけ危害を加える者を赦されました。」（ディーター・F・ウークトドルフ「憐(あわ)れみ深い人たちは憐れみを受ける」『リアホナ』2012年5月号，75－76）*

**どうすれば人を赦すことができるようになるか**

『歴代大管長の教え——ジョージ・アルバート・スミス』第23章に収められているジョージ・アルバート・スミス大管長（1870－1951年）の言葉は，この質問に答えるための助けとなります。

- 「御父の栄光に入り，忠実さによって受けたいと望んでいる祝福を享受する前に，わたしたちは忍耐の律法に従って生活し，自分に対して過ちを犯す人を赦し，そのような人を憎む気持ちをすべて心の中から取り除かなければなりません。」
- 「主の晩餐である聖餐を受けるとき，……互いに対する，また信仰を異にする兄弟姉妹に対するあらゆる不親切な感情を心の中から取り除きましょう。」
- 「主の御霊がわたしたちの内にとどまりますように。わたしたちが主から命じられているようにすべての人を赦し，自分に対して犯されたすべての過ちを，唇でだけでなく心の底から赦すことができますように。」

***だれを赦す必要があるでしょうか。祈りの気持ちで，その人（あるいはそれらの人々）と話し，愛と赦しを言い表す適切な時と場所について考えます。***



十二使徒定員会
**D・トッド・
クリストファーソン長老**

# キリストを信じる信仰を築く

*信仰は聖なる御霊を通して授けられますが，この賜物を得る過程に影響を与え，それを拡大するために，わたしたちにできることはたくさんあります。*

使徒パウロが語った信仰の定義は恐らく最もよく知られているものでしょう。「さて，信仰とは，望んでいる事がらを確信し，まだ見ていない事実を確認することである。」（ヘブル 11：1） アルマはそれに加えて，信仰とはまだ見ていない「真実の」ことを待ち望むことであると語っています（アルマ 32：21）。

イエス・キリストを信じる信仰は次の事柄に対する確信と確証です。（1）イエスが神の独り子であられること，（2）主の永遠の贖罪，（3）主が文字どおり復活されたこと。またこれらの基本的な事実によってわたしたちが受けるすべてのことが含まれます。

パウロは，わたしたちが受ける霊的な賜物の一つとして信仰を挙げています（1コリント 12：9参照）。確かに信仰は御霊によって授けられますが，『聖書辞典』（Bible Dictionary）には次のように記されています。「信仰は賜物であるが，信仰の小さな種が立派な木に生長するまで，養い育て，願い求めなければならない。」信仰は聖なる御霊を通して授けられますが，この賜物を得る過程に影響を与え，それを拡大するために，わたしたちにできることはたくさんあります。

### 信仰は神の言葉を聞くことによって得られる

イエス・キリストを信じる信仰の芽生えは神の言葉であるイエス・キリストの福音を聞くことによって起こり始めます。福音の教えを「真理の御霊」である聖霊によって与えられ，受け入れるとき（教義と聖約 50：17－22 参照），キリストを信じる信仰の種が植えられます。パウロはローマ人にこれを教え，すべての人が信仰の賜物を受けるように次のように説明しました。「信仰は聞くことによるのであり，聞くことはキリストの言葉から来るのである。」（ローマ 10：17） 言い換えれば，信仰はキリストの言葉，福音のメッセージを聞くことによって得られるのです。

天使の務めについて書き記したモルモンは，信仰は福音を聞くことによって得られるという規範が常に存在してきたことについて教えています。

「天使の務めは，人を招いて悔い改めさせることと，御父が人の子らに立てられた聖約の業を果たして実行することと，主の選ばれた器にキリストの御言葉を告げ知らせることによって彼らがキリストについて証を述べるようにして，人の子らの中に道を備えることである。

このようにして，主なる神は道を備えて，残りの人々もキリストを信じる信仰を持ち，聖霊が

イラスト／ケアリー・ヘンリー

*確かに信仰は御霊（みたま）によって授けられますが，『聖書辞典』には次のように記されています。「信仰は賜物（たまもの）であるが，信仰の小さな種が立派な木に生長するまで，養い育て，願い求めなければならない。」*

その力によって彼らの心の中に宿られるようにされるのである。このような方法で，御父は人の子らに立てられた聖約を果たされる。」（モロナイ7：31－32）

「イエスについて証を述べる」という命を受けた宣教師は，召され，任命され，使徒職の鍵（かぎ）と権能の下に力を授けられています。そのようにして彼らは「主の選ばれた器」に数えられます。言い換えれば，彼らは権能を受けた主の使いとして，聖霊の力によって教え，証することを通して，その言葉を聞く人々の心に，キリストを信じる信仰の種をまくのです。

わたしたちが宣言する言葉，キリストを信じる信仰を生じさせる言葉は，イエス・キリストの福音であり，良い知らせです。この良い知らせとは，簡単に言えば，死によってわたしたちの存在が終わるわけではなく，神から引き離されるのも一時的であるということです。また，わたしたちは救い主，神の御子であるイエス・キリストを頂いており，キリストが贖罪によって死と地獄に勝利を得られたことによって全人類が復活し，悔い改めて主の名によってバプテスマを受けるすべての人が永遠に天の神の王国で住めるということです。

### 信仰は悔い改めによって得られる

悔い改めはキリストを信じる信仰を築くうえで非常に重要な役割を果たします。キリストの言葉を受け入れることによって，悔い改めに必要な信仰が生み出されます。また次に，悔い改めは育ちつつある信仰に養いを与えます。モルモンは次のように宣言しています。「また，『地の果てに至るすべての人よ，悔い改めて，わたしのもとに来て，わたしの名によってバプテスマを受けなさい。救われるためにわたしを信じなさい』と，キリストは言われた。」（モロナイ7：34）

例えば，賢明な宣教師は求道者一人一人がたどるべき悔い改めの過程について，霊感を求めながら同僚とともに話し合い，祈ります。そしてそれに従って何を教えるかを計画します。また求道者と会うときにどのような勧めをなすべきかをよく祈りながら決めていきます。その勧めに関連した教えを準備し，求道者がその勧めに応じるために理解する必要のある教義は何かを明らかにします。

宣教師は教える相手一人一人が完全に明らかに理解し，はっきりとした確信を得られるよう助けるために，それらの教義をどのように教えるかを決めます。会員の助けも含め，利用可能なあらゆる助けを受けられるように方法や手段を計画します。求道者が，問題となっている原則や戒めに従って行動するという決意を持続できるように助けます。宣教師がこのように教え，証することにより，悔い改めの過程を歩む求道者を導くのです。

### 信仰は聖約を通して得られる

悔い改めのもう一つの欠かせない要素は，水に沈めるバプテスマです。それによってわたしたちはキリストの名を受け始めます。多くの聖句で「悔い改めのためのバプテスマ」や「悔い改めのバプテスマ」と表現されています（使徒19：4；アルマ5：62；7：14；モロナイ8：11；教義と聖約35：5－6参照）。これらの表現は，水によるバプテスマは悔い改め

の過程の最終段階，あるいは最高の段階であることを示しています。罪を捨て，従順の聖約を交わすことにより，悔い改めは完了します。確かに聖約の伴わない悔い改めはまだ終わっていないのです。聖約により，わたしたちは御霊によるバプテスマを通して，イエス・キリストの恵みによって罪の赦（ゆる）しを受けるにふさわしくなれるのです（2 ニーファイ 31：17 参照）。さらに言えば，バプテスマの聖約は過去に対してだけでなく，将来に対しても有効に働きます。わたしたちが真に悔い改める度に，聖約は新たにされ，わたしたちは再び罪の赦しを受けるにふさわしくなります。

これらの儀式とそれに関連する聖約は，信仰を築くこととどのような関係があるのでしょうか。キリストを信じる信仰は，神との聖約に入るための必須（ひっす）条件です。しかし聖約はまた，ほかの方法では得られないような形でわたしたちの信仰を増し加えてもくれます。聖約によって，大いなる天の神は，わたしたち一人一人に対して義務を負ってくださいます（教義と聖約 82：10 参照）。わたしたちが神と交わした聖約を守るかぎり，神はその王国においてわたしたちに一つの場所を授けるという義務を負ってくださいます。さらに高い聖約を守るなら，その王国における昇栄を与えてくださるのです。主は一切の権威を持っておられる神であり，偽りを言うことはおできになりません。ですからわたしたちは，神が必ず約束を成就してくださるという揺るぎない信仰を持つことができるのです。神との聖約によって，わたしたちはキリストを信じる信仰を強めることができ，最終的にはわたしたちの救いは確約されていることを知って，どのような問題や試練も耐え抜くことができるまでになります。

**信仰は増し加えられる**

宣教師たちから教えを受ける人々の中にキリストを信じる信仰を築くことに関して話しましたが，これはわたしたちすべてに当てはまります。主から権能を受けた僕（しもべ）が教える神の言葉をわたしたちが聞くとき，御霊によってキリストを信じる信仰が生じます。この僕には生きている僕も亡くなった僕も含まれます。その基の上に築き上げていくとき，わたしたちの信仰は日々の生活の一部となっている祈り，時には毎時間ささげられる信仰の祈りによって，強められます。

モルモン書やほかの聖典に記されたキリストの言葉をよく味わい続けることで，その言葉を源とする信仰はさらに増し加えられ，深められます。従順さが極められていくにつれて，信仰に根ざした悔い改めにより，さらに信仰が養い育てられます。悔い改めと，水と御霊によるバプテスマにより，バプテスマの前だけでなく後に犯した罪についても赦しが得られます。隣人に対するキリストのような奉仕は，聖約を守るうえで非常に重要な部分を占めており，それによってキリストを信じる信仰が培われます。時を経て，神に従順な人々に約束されている祝福がわたしたちの生活で現実に起こるのを目にし，信仰は確かなものとなり，強められます。

**信仰は力の原則でもある**

ここまで説明してきたことは，霊的な確信に基づいたレベルの信仰であり，その信仰があると人は善の働きをなし，何よりも特に福音の原則と戒めに従順になります。これこそキリストを信じる真の信仰であり，求道者を教える際には，このレベルの信仰を目指さなければなりません。

しかしながら，信仰もあるレベルに達すると，わたしたちの行動を支配するだけでなく，現状を変える力や，信仰がなければ決して起こらなかったであろうことを実現させる力をわたしたちに授けてくれます。ここでわたしは信仰を，行動の原則としてだけでなく，力の原則として語っています。パウロは預言者たちがこの信仰によって成し遂げた事柄を書き記しています。「彼らは……国々を征服し，義を行い，約束のものを受け，ししの口をふさぎ，火の勢いを消し，つるぎの刃をのがれ，弱いものは強くされ，戦いの勇者となり，他国の軍を退かせた。女たちは，その死者たちをよみがえらさせてもらった。」（ヘブル 11：33 − 35）　確かにこれらは大いなることです。しかしある意味で，改宗とバプテスマを妨げる強い依存症や，同等の障害を克服することほど偉大なことはないと言えるでしょう。

信仰を通して力を得るための鍵は，主の御心（みこころ）を学び，求め，それに従って行動することです。「キリストは言われた。『あなたがたはわたしを信じるならば，わたしの心にかなうことを何事でも行う力を持つであろう』と。」（モロナイ 7：33）

しかし主は次のように注意を促しておられます。「あなたがたが自分にとって必要でないものを求めるならば，それはあなたがたの罪の宣告となる。」（教義と聖約 88：65）

皆さんが抱いているキリストを信じる信仰は，日々神の御心を知り，行いたいと願い求めるなら，見事なまでに生長するでしょう。すでに皆さんの中で行動の原則となった信仰は，さらには力の原則ともなるのです。■

# 良い模範となって

# 福音を伝える

*福音を伝える最善の方法は，*
*福音を実践することです。*

ステファニー・J・バーンズとダーシー・ジェンセン

中にはごく自然に福音を伝えることのできる人もいます。しかし，多くの教会員にとって，福音を伝えるのはそれほど簡単なことではありません。実際わたしたちは，友達や家族，隣人に福音のことを気兼ねなく話すことがいかに大切か分かっているにもかかわらず，そうすることに恐れすら感じているのではないでしょうか。

さらに言えば，伝道活動というと，個人を助けることよりも，方法や活動，結果の方を優先してしまいがちです。困ったことに，個人を考えないで伝道活動をすると，押しつけがましく不誠実な感じを与えかねません。

もっと良い方法があるかもしれません。

それは，自分自身がさらに深く福音に帰依し，自分の生き方や気さくな会話をきっかけとして福音を伝えることです。より深く改心するにつれて，福音に対してさらに深い心の安らぎを感じるようになり，ほかの人にも福音の祝福を味わってほしいという望みが膨らみ始めます。そうなると，福音が自然に伝えられるようになるのです。

実際のところ，当人は福音を伝えているという自覚すらないかもしれません。主の弟子としてさらに忠実に歩むようになると，それが行いや言葉に表れ，顔つきまで変わってきて，無視できないほどになります。十二使徒定員会のラッセル・M・ネルソン長老はこう説明しています。「皆さんが行う善いことは人々にはっきりと分かるでしょう。主の光が皆さんの目に輝きます。その輝きを持ったら，質問に答える準備もしておくとよいでしょう。」[1]

### 証にふさわしい生き方をする

『伝道活動のガイド――わたしの福音を宣べ伝えなさい』には次のような説明があります。「救い主はその道を示しておられます。救い主は完全な模範を示して，御自分のようになるよう命じておられます（3ニーファイ27：27参照）」[2]救い主について学び，主の贖いの力によって救い主の特質を生活に取り入れるよう努めるならば，会員はさらにキリストに似た者となり，ほかの人々を主のもとに導くことができるようになるのです。[3]

アメリカ合衆国ワシントン州で最近改宗したある人は，会員たちと出会って福音に興味を持つようになったと言い，次のように話してくれ

ました。「彼らと一緒にいると幸せでしたし，彼らの周りにいると何か特別なものを感じました。これは紛れもない事実です。彼らは別に神様についてわたしに説き伝えたわけではありません。わたしが気になったのは彼らの存在そのものでした。つまり，彼らの生活習慣や判断の基準，行動，物事への対処の仕方だったのです。彼らを見て，『これこそわたしの求めていた生き方だわ。わたしもあんな風になりたい』と思いました。」

福音のおかげで生活が充実してくると，福音の影響力について話しやすくなります。それは話したくなるからであり，福音のメッセージから受けてきた恩恵について話すことができるからでもあります。

イタリアのミリアム・クリスクオロ姉妹は，隣人としっかりと友情を築き上げてからであっても，福音についてどう話したらいいのか分かりませんでした。こう言っています。「新しい友達とは出会ってから大分たっていましたし，福音について話すのは自分の義務だということは分かっていたのですが，その勇気がわいてきませんでした。」

しかし，福音が自然に会話に出て来るようになると変化が訪れました。ミリアムはこう言っています。「友人に初等協会の発表を見せると，彼女はそこに出ていたわたしの娘に興味を持ちました。そして『初等協会って何？』と問いかけてきたのです。それを皮切りに，次々に質問してきました。彼女は長い間何かを探していたのでした。『あなたが探している心の平安なら，この教会で見つかると思うわ』とわたしは言いました。

彼女はその後教会に入りました。それは祈りの答えでした。わたしは伝道活動を行う方法について，また，どうすれば

フォトイラスト／デビッド・ストーカー

## もう一言

「昔，わたしたち家族は教会員がほとんどいない地域に住んでいたことがあります。『週末はどう過ごしましたか』と聞かれると，……家族で教会に行った話をしようと心がけていました。例えばある青少年が『若人の強さのために』の標準について話したことや，伝道に出るためにこれから故郷を離れる若者の言葉に胸を打たれたこと……などを話題にしました。」

**ディーター・F・ウークトドルフ管長**
**「ダマスコに行く途中でとどまる」『リアホナ』2011年5月号，76**

伝道できるのかを子供たちに示す方法について祈り求めていたのです。」

### まず友達になる

ミリアムと同様，わたしたちは往々にして福音を分かち合うのは義務だと感じてしまいます。義務感があると，話しても，押しつけがましくぎくしゃくとした印象を与えかねません。それに，責任感に押しつぶされて，福音の原則をうまく説明することができなくなってしまうこともあるでしょう。

福音をすんなりと伝えられる機会は，会員がほかの人と，とにかく良い友達，ほんとうの友達になっているときに見つかることが多いようです。十二使徒定員会のM・ラッセル・バラード長老はこう言っています。「ごく早い時期からわたしたちが教会員であることを伝えていれば，……友人や知人は，わたしたちの一部として福音を受け入れ……るようになるでしょう。」[4]

福音を伝えることを前提に友達を作るよりは，現在いる友達に福音を伝える方が，伝道がうまくいく可能性は高くなります。アルゼンチンの教会員であるエリアナ・ベルヘス・デ・レルダ姉妹がアナベルに出会って友達になったのは，二人が6歳のときでした。一緒に学校に行くようになって友情がはぐくまれました。その間，エリアナは自分が教会員であることを決して隠したりはしませんでした。

「アナベルは教会員ではなかったにもかかわらず，彼女とは気楽に福音の話ができました」とエリアナは言います。

二人が14歳のころ，アナベルは宣教師の話を聞きましたが，バプテスマは受けませんでした。

エリアナはがっかりしました。しかし，友達としての付き合いも，福音について話すこともやめませんでした。それから2，3年後，エリアナはセミナリーに一緒に出ないかとアナベルを誘いました。セミナリーのレッスン中，アナベルは御霊をとても強く感じました。2，3日後，エリアナが神殿に行く準備をしていると，アナベルはこう言ったのです。「約束するわ。次に神殿に行くときにはわたしも一緒に行く。」 それから間もなく，アナベルはバプテスマを受けました。

アナベルの改宗には数日などではなく，何年もかかりました。改宗できたのは，アナベルが福音を受け入れようとしているかどうかに関係なく，エリアナがもともとアナベルの友達だったからです。

### 愛をもって話に耳を傾ける

エリアナとアナベルのような友情は，関心や標準などに共通点を発見したことから芽生えることが多いのです。このような友情は，経験談や感じたこと，愛を伝え合うことによってさらに深まります。それにもちろん，愛は回復された福音の中心となるものです。

わたしたちは教会員として，友達と一緒に活動や奉仕を行い，語り合うことによってキリストのような愛を伝えることができます。実際，このような友達を探している人は多いものです。

人との交流について，十二使徒ジェフリー・R・ホランド長老は次のように勧告しています。「しかし恐らく，話すよりもはるかに大切なのは聞くことでしょう。これらの人々はバプテスマの統計のためにいるのではありません。彼らは神の子供であり，わたしたちの兄弟姉妹であり，福音を必要としている人々なのです。誠実に接してください。心から手を差し伸べてください。この友人たちに，彼らが最も関心を持っていることについて尋ねてください。……お約

束します。彼らの話を聞くうちに，皆さんが証を伝えたり，もっと分かち合ったりすることのできる福音の真理が，常に，浮き彫りになることでしょう。」[5]

福音の知識を矢継ぎ早に友人に話す必要はありません。良い友達でありさえすればいいのです。機会が来たときに，福音の概念を伝えることを恐れる必要はありません。サタンは恐れを利用して会員が証を伝えるのをやめさせようとします。恐れという感情には，行動を思いとどまらせる力があります。ウークトドルフ管長は次のように言っています。「信仰と宗教の話題を友達や職場の同僚に持ち出すくらいなら，手車を引いて平原を歩いた方がましだと思う人もいるでしょう。自分がどう思われるか，相手との関係に支障を来さないかが気になるのです。そんな心配は要りません。わたしたちが伝えようとしているのは良きおとずれであり，わたしたちには喜びのメッセージがあるのですから。」[6]

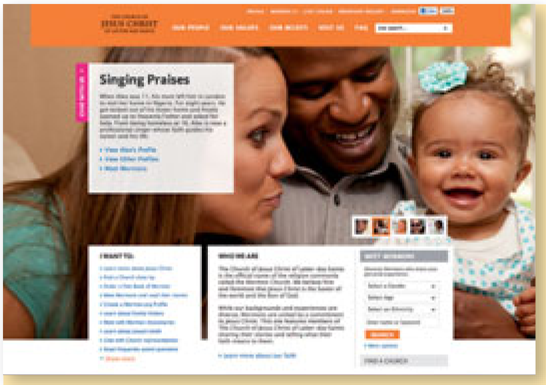
預言者モロナイは「完全な愛はあらゆる恐れを取り除く」と教えています（モロナイ8：16）。わたしたちがさらに福音に忠実な生活をするようになると，友人や家族，隣人に対するキリストの純粋な愛を心に満たすことによって，恐れを取り除くことができるようになります。この愛で心が満たされると，福音を伝えたいという気持ちが自然とわいてくるものです。[7]

## ごく自然に福音を伝える

天の御父の子供たちには，福音が与えてくれる物の見方が必要です。福音の規範に従う会員にとって，その生き方はキリストの愛の証となっています。会員がイエス・キリストのようになり，友情を大切にはぐくみ，慈愛を育てようと積極的に努力するならば，その結果として，自然に福音を分かち合うことができるようになります。良い模範になるよう心がけることによって，会員は救い主が弟子たちに言われた次の言葉に安らぎを覚えるようになり，それを道しるべにすることができるようになるのです。「わたしはあなたの信仰がなくならないように，あなたのために祈った。それで，あなたが改心したときには（訳註：日本聖書協会訳では「立ち直ったときには」），兄弟たちを力づけてやりなさい。」（ルカ22：32）■

**注**

1. ラッセル・M・ネルソン「信者の模範になりなさい」『リアホナ』2010年11月号，48
2. 『わたしの福音を宣べ伝えなさい――伝道活動のガイド』（2004年），115
3. 『わたしの福音を宣べ伝えなさい』115参照
4. M・ラッセル・バラード「福音を伝える家庭を築く」『リアホナ』2006年5月号，86
5. ジェフリー・R・ホランド「わたしの証人」『リアホナ』2001年7月号，16
6. ディーター・F・ウークトドルフ「ダマスコに行く途中でとどまる」『リアホナ』2011年5月号，76
7. バーバラ・トンプソン「透き間に注意」『リアホナ』2009年11月号，120参照




### 「わたしはモルモン」（“I’M A MORMON”）の影響力

2010年に始まった「わたしはモルモン（“I’m a Mormon”）」キャンペーンは，教会員が自分の信仰について感じていることを簡単かつ効果的に伝えることのできる機会となっています。このキャンペーンについてはオンラインに載せるだけでなく，アメリカ合衆国の多くの都市でテレビコマーシャルを放送したり看板広告を出したりしてきました。ウェブサイトMormon.orgで，末日聖徒は自分の経験談を語り，「モルモンはクリスチャンですか」とか「モルモンは聖書についてどう考えているのですか」など，数多くの質問に答えています。

アメリカ合衆国テキサス州のロシェル・タルマッジ姉妹はこう言っています。「伝道する機会を求めて祈っていました。すると，この新しいMormon.orgのプログラムに参加してみないかという誘いの電話が来たのです。

息子たちに障がいがあるため，このサイトへの書き込みはほとんど，自分か家族に障がいのある人からのものです。いちばんうれしかったのは，ミアとの交流でした。ミアはノルウェーのオスロの人で，車椅子の生活をしています。彼女は障がいに関することをMormon.orgで検索していて，わたしたちのビデオを見つけました。とても感動して宣教師と連絡を取ったのです。わたしたちは夏の間ずっと連絡を取り合い，彼女は８月中旬にバプテスマを受けました。これは奇跡だとミアもわたしたちも思っています。主は海を越えてわたしたちを結びつけることがおできになるのです。」

# 預言者の呼びかけに

*世界各地のシニア宣教師たちが，伝道に出る妨げとなる事柄を乗り越えるときに受けるすばらしい報いについて語ります。*

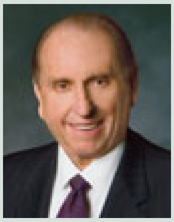
ケンドラ・クランドール・ウィリアムソン

アメリカ合衆国カリフォルニア州の自宅で，チャンタ・ルアンラット長老と妻ソウンタラ姉妹はどうするべきか考えながら腰を下ろしていました。これまでに4人の子供を伝道に備えさせてきたので，次は自分たちの番であることは分かっていました。でもそれは思っていた以上に大きな決断でした。孫たちに会えず，とても寂しく思うでしょう。健康面でも幾つかの不安があります。そして留守中，家や家財はどうすればいいでしょうか。

伝道に出ることに関して，このような懸念を抱くのはルアンラット夫妻だけではありません。実際，十二使徒定員会のロバート・D・ヘイルズ長老は，シニア宣教師としての奉仕を妨げる障害として，恐れ，家族の問題，適切な伝道の機会を見いだすこと，そして財政の4つを挙げています。[1]

これらの障害を乗り越えるには，深い信仰

# こたえる



「わたしたちは熟年の夫婦をもっと大勢必要としています。……家を離れて専任宣教師として奉仕してください。夫婦そろって専任で主の業に携わることで得られる，すばらしい御霊と充実感を味わう機会は，人生にそうめったにあるものではありません。」

**トーマス・S・モンソン大管長**
**「再びともに集い」**
**『リアホナ』2010年11月号，6**

*現在，宣教師として奉仕している任地のラオスを指さすチャンタ・ルアンラット長老とソウンタラ姉妹。アメリカ合衆国カリフォルニア州に移住した彼らにとって，ラオスは自分たちが生まれ育った場所であった。*

上——写真／ロバート・ケーシー

が必要です。ルアンラット夫妻がそのような特質を発揮したのは，2010年10月の総大会でトーマス・S・モンソン大管長の呼びかけを聞いたときでした。もっと大勢の宣教師が必要ですという大管長の言葉を聞いたとき，「御霊をとても強く感じました」と，彼らは回想します。「預言者に従いたいと思い，伝道の申請書を提出しました。」

ルアンラット夫妻は人道奉仕宣教師として，自分たちが生まれ育ち，結婚した地であるラオス

*左上——ユタ州ソルトレーク・シティーで，様々な国からの難民が新たな地での生活に移行するのを支援するシニア宣教師。ルワンダのナボバ家族（中央）は最近神殿で結び固められた。*

*マーシャル諸島の女性たちの間で奉仕した*
*ソンドラ・ジョーンズ姉妹*
*（左。夫のネルドン長老と）。*

で奉仕するよう召されました。伝道の準備を進めるにつれて不安は消えていきました。家族は応援してくれましたし，健康面での問題も解決できました。家は貸すことになりました。「行きなさい。そして自分の十字架を負って，わたしに従ってきなさい」という救い主の言葉に従うとき，自信を持つことができました（マルコ10：21参照）。

*メキシコ・プエブラの職業支援センターで*
*専任の奉仕者として働いた*
*マルタ・マリン姉妹（右端）。*

シニア世代の人たちは様々な方法で，また様々な場所で宣教師として奉仕することができます。次に紹介する話が示しているように，専任であろうとパートタイムであろうと，夫婦であろうと独身であろうと，自国であろうと外国であろうと，成熟したシニア世代の人々は深い信仰をもって，行く手に立ちはだかる障害を乗り越えることができるのです。

### 恐れに立ち向かう

*「まだ見ぬものへの恐れ，聖文を使う技術や必要な言語を習得していないという恐れは，伝道へ行くのをためらわせるかもしれません。しかし，主はおっしゃっています。『備えていれば恐れることはない。』（教義と聖約38：30）人生は備えの時期です。……ただ行って，自分らしく振る舞ってください。」*[2]

**十二使徒定員会　ロバート・D・ヘイルズ長老**

恐れが伝道活動の妨げとなることがあります。奉仕に必要な技能や知識がないことを心配する人もいれば，世界のどこか異国の地に住むことや，知らない人々とともに働くことを不安に思う人もいます。

メキシコ，ベラクルスのマルタ・マリン姉妹は，メキシコ，プエブラの職業支援センターで専任の奉仕者として働いたときに，そのような恐れに直面しました。職業センターでの業務に欠かせないコンピューターの操作について不安を感じたのです。しかし，同僚や一緒に働く人たちの助けと支えを得ながら，必要な技能を身に付けました。「この障害は祝福となりました」とマリン姉妹は言います。「この業に携わるとき，自分が独りではないことを知っています。」

アメリカ合衆国ユタ州のソンドラ・ジョーンズ姉妹は，夫のネルドン長老とともにマーシャル諸島で奉仕するよう召されました。「これから先どうなるのか不安でたまりませんでした。福音を教えようとすると，いつも胸がどきどきしました」とジョーンズ姉妹は言います。最初は何の貢献もできないと感じましたが，自分の才能や技能に目を向けることにしました。

やがてマーシャル諸島の人々を愛するようになり，散髪をしたり，裁縫を教えたりすることによって奉仕しました。

18 か月後には，ジョーンズ姉妹が行った散髪の回数は延べ 700 回にも及びました。熱心に才能を分かち合うことによって，ジョーンズ姉妹は教会員や求道者，地域の人々を含めて何百人もの人々に奉仕し，彼らと良い関係を築くことができました。

サモアの末日聖徒たちの中で２度伝道したレイモンド・ピーターセン長老とグウェン姉妹。

### 家族の問題を解決する

*「『わたしたち家族は伝道に出る』という言葉以上に，祖父母が子孫に与えられるすばらしいプレゼントがあるでしょうか。」*[3]

**十二使徒定員会　ジェフリー・R・ホランド長老**

困難に立ち向かっている子供たちや成長しつつある孫たちを後に残して行くことは，多くの人にとって堪え難く思われることでしょう。それでも，宣教師たちは自分が奉仕することによって家族が思いも寄らない方法で強められることを知ります。

アメリカ合衆国ワイオミング州のレイモンド・ピーターセン長老と妻グウェン姉妹は，これまで 4 度伝道に出ました。２度目の伝道に出ようとした当初（伝道地は再びサモアでした），子供たちは難色を示しました。なぜ両親が***もう一度***伝道に出る必要があるのか理解できなかったのです。

しかし家族は，夫妻が奉仕することによってどれほどすばらしい祝福がもたらされるかをすぐに実感するようになりました。「だれもが恵みにあずかりました」とピーターセン姉妹は言います。「それまで子供に恵まれなかった夫婦は男の子を授かり，別の夫婦は奇跡的に癌(がん)から救われました。難しい問題に苦しむ子供を持つ夫婦は大きな進展を目にしましたし，そのほかの夫婦にとっては仕事が最も成功した年になりました。」

ピーターセン夫妻の熱心な働きは，彼らの家系に信仰による足跡を残しました。「今，4 人の孫が伝道に出ていますが，彼らによると，わたしたちに鼓舞されて伝道に出ることにしたそうです」と，ピーターセン姉妹は言います。「これ以上の報いがあるでしょうか。」

### 適切な伝道の機会を見いだす

*「世界中の伝道活動は様々な状況の中で行われていますが，それぞれの宣教師や夫婦の特質や必要に応じて，召される場所を聖霊が*

パプアニューギニアで人道支援ディレクターとして奉仕したジョージ・チェイス長老とハイン姉妹。

**シニア宣教師に関する方針の変更**

- 夫婦宣教師は6か月，12か月，18か月，または23か月の任期を選ぶことができる。
- シニア宣教師の夫婦が負担する住居費は月額1,400米ドルを上限とする。
- シニア宣教師は家族の緊急な用件のために自費で（最長10日間まで）自宅に帰ることが許可される。

詳しくは，http://lds.org/church/news/changes-in-senior-missionary-rules をご覧ください。

*配慮しておられるのにはいつも驚かされます。」*[4]

**十二使徒定員会　リチャード・G・スコット長老**

シニア宣教師の奉仕は，特に職業センターや伝道本部，家族歴史センター，神殿，訪問者センターで必要とされています。申請する際，どこで奉仕したいか希望を出すことができますが，最終的には，召しは預言者を通して主から与えられます。主は進んで奉仕しようとする独身の姉妹や夫婦それぞれにとって，どのような伝道の機会が適切かを御存じです。

ニュージーランドのジョージ・チェイス長老と妻ハイン姉妹は，与えられた伝道の召しがまさに自分たちにとって適切なものであることを知りました。パプアニューギニアで人道支援活動を行ったとき，職場や家庭で磨いてきた実に多くの才能が役立ったことに，喜びと驚きを覚えました。

大工として働いてきたチェイス長老は，井戸の設置などのプロジェクトの評価や計画を手助けすることができました。チェイス姉妹は，18年にわたって事務管理の仕事をしてきました。「管理業務とコンピューターの技能は計り知れないほど重宝しました」とチェイス姉妹は言います。チェイス長老姉妹は互いの能力をうまく組み合わせてキャリアワークショッププログラムを運営し，現地の人々が時間管理や組織運営，リーダーシップ，衛生，コミュニケーションなどに関する技能を学べるよう助けました。

チェイス夫妻はともに，教会の召しを通して得た経験や，何よりも親としての経験を生かしました。学用品の配布や乳幼児の世話の改善に携わったときには，現地の家族や学校が直面している問題を理解するうえで親としての経験が役立ちました。

*香港（ホンコン）地域管理本部で奉仕したピーター・サックリー長老とケリー姉妹。*

## 財政問題に対処する

*「親族やビショップまたは支部会長に相談してください。主の僕（しもべ）は皆さんの現状をよく理解しているので，皆さんは専任宣教師としての永遠の祝福を受けられることでしょう。」*[5]

**十二使徒定員会　ロバート・D・ヘイルズ長老**

十分な伝道資金がないことを心配する夫婦が大勢います。生活費や医療費，住居費について考え，一体どうすればすべてを賄えるのだろうと思うのです。教会指導者はこうした現実的な懸念があることを認め，重荷を取り除く助けとなるよう方針に変更を加えました（左の補足記事参照）。それでもなお，財政問題に対処するには，信仰と綿密な計画と多少の犠牲が求められます。

ジンバブエのレナード・チサンゴ長老と妻のベラ姉妹は，堅実な計画を立てていたにもかかわらず試練に遭いました。結婚して以来ずっと伝道に出る準備をしてきた二人は，年金と投資金によって，南アフリカ・ヨハネスブルク神殿で最初の奉仕をする間の生活費を賄えると確信していました。ところが奉仕期間中，突然経済が急激に悪化し，投資金が大幅に減ってしまったのです。

家族の援助を受けながら，チサンゴ夫妻は伝道生活を続けました。その犠牲を通してすばらしい祝福がもたらされました。息子の事業がうまくいき，娘は職場で昇進し，子供たちは力を合わせて両親を支えることを学んだのです。

奉仕がもたらす祝福は物質的な犠牲を補って余りあるものだと，多くのシニア宣教師が証しています。妻のケリー姉妹とともに香港地域管理本部で奉仕しているカナダ出身の宣教師，ピーター・サックリー長老は，多くの人々の気持ちを簡潔にこう述べています。「給料を得る仕事から祝福を頂く仕事に転職したのです。」

## 信仰を築くことによって障害を乗り越える

*「多くの謙遜な末日聖徒が，自分は伝道の業にふさわしくないのではないかと恐れています。しかし伝道を考えているそのような人に対して，主は次の約束を与えておられます。『神の栄光にひたすら目を向けて，信仰，希望，慈愛，愛を持つ者には，その業に携わる資格がある。』」*[6]

**十二使徒定員会　ラッセル・M・ネルソン長老**

シニア宣教師としての奉仕を妨げる4つの障害に打ち勝つために，ヘイルズ長老は簡潔な解決法を提案しています。「信仰を持ってください。主は，皆さんがどこで必要とされているかを御存じです。」[7]　信仰は恐れを打ち破り，家族を強め，シニア宣教師が適切な奉仕の機会を見いだし，財政的な安心を得られるように助けてくれます。

何年も前，そのような信仰がポーランドの少女，スタニスラワ・ハーベルの中ではぐくまれていました。その信仰に導かれて，彼女は後に回復された福音を受け入れ，大人になってからユタ州で家族歴史宣教師として奉仕しました。

奉仕を通して，ハーベル姉妹はあまり知られていないある秘訣を学びました。「伝道は若さを保つ」ということです。ハーベル姉妹はほほえんでこう言います。「自分の前にある障害を忘れるとき，感謝できるようになります。ほかの人々に奉仕することによってさらにキリストのようになることを学び，ひいては天の御父とともに住むための準備となるのです。伝道には熟年の人たちの人生を変える力があります。」

実際，伝道は彼らが謙遜に仕える人々の人生だけでなく，彼ら自身の人生も変えるのです。■

*南アフリカ・ヨハネスブルク神殿（右）で奉仕したレナード・チサンゴ長老とベラ姉妹。*

**注**

1. ロバート・D・ヘイルズ「夫婦宣教師——奉仕の時」『リアホナ』2001年7月号，28－31参照
2. ロバート・D・ヘイルズ『リアホナ』2001年7月号，29
3. ジェフリー・R・ホランド「戦い止むまで」『リアホナ』2011年11月号，46
4. リチャード・G・スコット「今こそ伝道に出る時です」『リアホナ』2006年5月号，89
5. ロバート・D・ヘイルズ「夫婦宣教師——犠牲と奉仕から得られる祝福」『リアホナ』2005年5月号，40
6. ラッセル・M・ネルソン「夫婦宣教師と福音」『リアホナ』2004年11月号，81
7. ロバート・D・ヘイルズ『リアホナ』2001年7月号，31

「専任宣教師として奉仕すること以上に，全能者に感謝を表す良い方法は恐らくないでしょう。」

**レナード・チサンゴ長老，ジンバブエ**

*ユタ州ソルトレーク・シティーの家族歴史図書館で利用者を手助けするスタニスラワ・ハーベル姉妹。*

南アフリカ・ヨハネスブルク神殿の写真／クレーグ・ダイモンド© IRI

# 神殿に焦点を当てることによりもたらされる祝福

*永遠の家族を築くことに勝る業はありません。そしてその業は，主の宮で実現します。*

「さて，死と復活の間の人の状態についてであるが，見よ，天使がわたしに知らせてくれたところによれば，すべての人の霊は，この死すべき体を離れるやいなや，まことに，善い霊であろうと悪い霊であろうと，彼らに命を与えられた神のみもとへ連れ戻される。」

**アルマ40：11**

教会機関誌
**ジョシュア・J・パーキー**

愛する人を失うことほどわたしたちの感情に大きな影響を与える出来事はあまりありません。リチャード・ロドリゲスビショップとその妻ルースは，家族の死を経験しました。それでも二人は見る目と聞く耳，そして神殿の神聖な儀式を通して，この困難に信仰をもって立ち向かいました。そして，救い主と幸福，平安にさらに近づいたのです。

### 家族の死に対処する

リチャードとルースは，エクアドルのクエンカに程近い，アンデス山脈に位置するアソゲスという町のセメント製造会社に勤めているときに出会いました。リチャードは数年前に母と兄とともにこの教会に加わった改宗者でした。当時，ルースは教会員ではありませんでした。

「ルースと出会ったとき，彼女から離れられませんでした」とリチャードはほほえみながら言います。

二人は1996年に結婚しました。その数か月後にルースの父が亡くなりました。

「父の死により，わたしは深く沈み込むようになりました」とルースは説明します。「愛する人を失った人は，立ち直ることができません。常に喪失感にさいなまれるのです。」

2001年，リチャードの母が亡くなりました。またしても愛する人を失ったことにより，深い悲しみが生じました。しかし，福音に対するリチャードの知識と証（あかし）は年を経るごとに深みを増していたため，新たな視点を持ち慰めを得ることができました。

リチャードはこう話します。「福音のおかげで，母が今どうしているかを少し理解することができました。ルースにアルマ書40章11節を教えて，霊が肉体を離れるとどうなるかを説明しました。このことはルースにとってもわたしにとっても大きな慰めとなりました。」

### 選択の自由を尊重する

ルースは教会員や宣教師に友好的でしたが，それでも教会には関心がありませんでした。「自分の宗教を変える必要性を感じなかったのです」とルースは話します。

リチャードはこのことについてしつこくルースに話さない

「永遠の街」の一部，キース・ラーソン画©2000，エクアドル・グアヤキル神殿の写真／ジャネイ・ビンガム

ことにしました。「教会の話をする度に，会話はいやな終わり方をしました。また，彼女を無理やり説得しようとしてもうまくいきませんでした。そこで，やめました。ルースに対してそうしたくないと思ったのです。」

2001年の秋，宣教師はルースをあるバプテスマ会に招待しました。ルースはその招きを受け入れ，すべてが変わりました。

バプテスマを受ける姉妹がバプテスマ会で証を述べました。「その女性は，教会を知るようになってから経験した様々な奇跡について話してくれました。健康や幸福の奇跡や，力を受けた奇跡について話したのです」とルースは振り返ります。「この姉妹はほとんど独りで生活しているのにこのような証を持っていました。」

ルースは，このような困難な試練に遭った女性がそのような信仰を持てたのはなぜだろうかと考えました。その疑問に加え，バプテスマ会に出席するようにとの招きに応じたことにより，ルースの心は動かされ御霊から証を受ける備えができました。

「そのとき，わたしはバプテスマを受ける決意をしました。その後リチャードと二人きりになると，わたしはこう尋ねました。『リチャード，12月にバプテスマを受けようと思うんだけど，どうかしら。』　やっと言えました。わたしはすでに教会と福音に親しんでいました。しかし，それでも宣教師から福音を聞く必要がありました。」

「神は人々の心を備えてくださいます」とリチャードは付け加えます。「確かにわたしたちができることはあります。わたしもいろいろなことをしました。でもルースが備えられるまで，彼女はバプテスマを受ける決心はできませんでした。」

ルースも同意します。「結婚当初，わたしは様々な問題を克服しなければなりませんでした。これらの問題をついに克服したとき，もう次の奇跡を待つ必要はないことに気づいたのです。バプテスマを受ける準備ができたのはそのときでした。」

「家庭生活における幸福は，主イエス・キリストの教えに基づいた生活を送るときに達成されるに違いありません。」

**「家族——世界への宣言」『リアホナ』2010年11月号，129**

***上：リチャード・ロドリゲス兄弟と妻ルースと子供たち。（左から）マリア・ジュディス，ジョージ，リチャード・ジュニア，フレディ。エクアドル・グアヤキル神殿（右）で結び固められた。***

## 信仰をもって困難に立ち向かう

2001年12月にルースはバプテスマを受け，家族の目標に変化が生じました。その結果，家族は霊的な力と祝福を受け，今日(こんにち)まで導かれてきました。

リチャードは次のように話します。「わたしたちは2003年6月28日に神殿で結び固められました。そのおかげでわたしたちの生活には多くの祝福がもたらされました。上の二人の子供がわたしたちに結び固められ，その下二人は聖約の子として生まれました。子供たちはわたしたちにとって祝福です。」

リチャードは，教会で忠実に奉仕することにより家庭に調和が生まれたと説明します。「妻とわたしは釣り合うくびきを共にしました。

「神の幸福の計画は，家族関係が墓を超えて続くことを可能にしました。聖なる神殿において得られる神聖な儀式と聖約は，わたしたちが個人として神のみもとに帰り，また家族として永遠に一つとなることを可能にするのです。」

**「家族——世界への宣言」『リアホナ』2010年11月号，129**

困難や試練に遭いましたが，一致して乗り越えることができました。わたしたちは同じことを信じています。神殿で結び固められたわたしたちは，忠実に堪え忍ぶならば主が助けてくださることを知っています。」

### 神殿に焦点を当てることによりワードが変わる

ルースがバプテスマを受けたとき，当時のアソゲス支部には会員が25人しかいませんでした。アソゲス支部は現在ではワードとなっており，たいてい75人以上の会員が聖餐会に出席しています。

ルースは次のように話します。「家族を強めると個人も強まります。会員が戒めを守り，指導者の教えることすべてに耳を傾けるならば，家族もワードも強められます。それぞれの家族は，ワードの発展のためにワードを一つにまとめるセメントの一部のようなものです。」

リチャードはビショップとして，神殿で聖約を交わしそれを守り，頻繁に神殿で礼拝することにより家族を強める努力をするよう促してきました。約5時間かかるエクアドル・グアヤキル神殿へのワード参入ツアーにも，神殿を重視する姿勢が表れています。

ルースは次のように語ります。「ワードとしてできるだけ頻繁に神殿に参入しています。わたしたちの目標は，すべての家族が神殿で結び固められることです。」

「結び固められるために神殿に参入することにより家族は霊的に成長してきました」とリチャードは付け加えます。「ここ数年でたくさんの家族が結び固められました。そして彼らは現在自分の家族の名前を準備し先祖のために儀式を執行しています。このように行う人々はイエス・キリストの福音に対する献身の度合いをさらに増し，さらなる幸福を見いだしています。神殿は会員のビジョンを変えました。」

### 神殿に焦点を当てることにより個人が変わる

ロドリゲス家族は，神聖で個人的な経験を通して，神殿の聖約と，先祖のための身代わりの儀式を執行することについて力強い自分の証を得てきました。

ルースは次のように話します。「わたしのおじやおば，父のきょうだいのために儀式を家族で受けました。自分たちの家族の儀式は自分たちが行うべきだと感じています。わたしたちが携わっているこの身代わりの儀式が真実であることを知っています。自分たちの先祖のために儀式を行えたことに深い平安を感じています。これはとても特別な業です。」

リチャードは次のように証します。「待っている人々のために神殿の儀式を行うのが大好きです。これは生涯をかけて行う業です。これこそわたしたちが行いたいと望む業です。」

神殿に参入することにより家族は変わりました。「わたしたちが神殿で結び固められたとき，様々なことが大きく変わりました」とルースは言います。「わたしたちの霊的な力は増しました。」

リチャードも同意します。「わたしの家族の場合，神殿に参入することにより家族はさらに一致しました。結局すべての初めであり終わりである家族のきずなこそが前進するための力となることを知ったからです。人生には常に様々な困難があります。しかし，神殿に焦点を当てることにより，将来に対して異なった見方をすることができます。これらの祝福をほかの人と分かち合うこと，特にほかの家族が同じように神殿に参入できるように助けることにより，生活に大きな喜びがもたらされます。また，わたしは家族に対してさらに献身的でありたいと感じるようになりました。」

神殿に行く備えをして儀式を受け，結び固められ，さらに先祖のための身代わりの儀式を執行するという家族の決意は，家族にとって最も大きな祝福の一つだとリチャードは感じています。「信仰を働かせてイエス・キリストの回復された福音を受け入れ，特に神権を通して結び固めや救いの儀式を受けるために神殿に行くときに，生活は変わります。神殿の聖約を受けた人は，もはや同じ状態ではなくなるのです」とリチャードは言います。■

**作用する者として行動する**

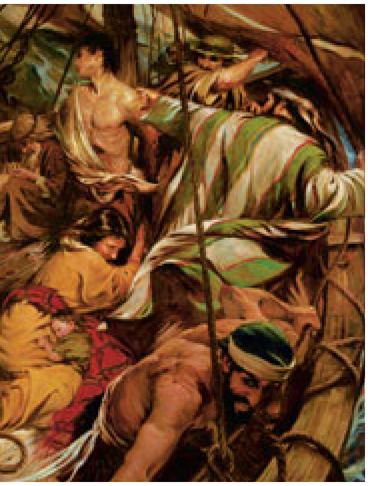
「神が創造された万物は『作用するもの』と『作用されるもの』に大きく分けられます（2ニーファイ2：14）。わたしたちは天の御父の子供として，選択の自由，すなわち自分で行動を起こす能力を頂いています。選択の自由を与えられたわたしたちは，自ら行動する者であり，本来は作用する者であって，作用されるだけの者ではないのです。『研究によって，また信仰によって学問を求め』るときには特にそうです（教義と聖約88：118）。」

**十二使徒定員会**
**デビッド・A・ベドナー長老**
**「目を覚ましてうむことがなく」**
**『リアホナ』2010年5月号，42**

家族の写真／ジョシュア・J・パーキー

# キリストの弟子は戦争と暴力の時代をどう生きるか

*モルモン書から学ぶ原則は，苦難の時代に信仰と希望をもって生活するのに役立ちます。*



**上――ニーファイは，レーマンとレムエルが悔い改めて彼を解放するまでの4日間，縄で縛られていました（1ニーファイ18：9－21参照）。**
**右――ヒラマンの軍隊の2,000人の青年たちはだれ一人として戦闘で死にませんでした（アルマ56：44－57参照）。**

神権部
**デビッド・ブレント・マーシュ**

わたしたちは戦争と暴力が広範囲に及んでいる時代に生きています。ニュースでは毎日これらの恐ろしい出来事が報じられています。主の預言者であるトーマス・S・モンソン大管長は，「わたしたちは困難な時代に地上に来ました」[1]と述べ，ゴードン・B・ヒンクレー大管長（1910－2008年）の次の言葉を肯定しています。「わたしたちは，粗暴な者が恐ろしく卑劣な行いをする時代に生きています。戦争の時代に生きています。」[2]

冷静に考えてみると，これは驚くに及びません。終わりの時にサタンが忠実な者に対して「戦いをいどむ」（黙示12：17），そして「平和が地から取り去られ〔る〕」（教義と聖約1：35）と，聖文は教えています。

神はわたしたちの時代を先見し，預言者ジョセフ・スミスを召して，わたしたちを助けるためにモルモン書を世に出してくださいました（教義と聖約1：17，29；45：26参照）。モルモン書の全239章のうちの174章（73パーセント）に，戦争，テロリズム，殺人，政治的陰謀，秘密結社，脅迫，一族の共謀，その他の敵対行為のことが述べられています。

どうしてモルモン書の記録者は戦争に関する出来事をそれほど多く記録に残したのでしょうか。エズラ・タフト・ベンソン大管長（1899－1994年）は次のように答えています。「モルモン書を読めば，キリストの弟子たちが戦争の時代をどのように生きたかが分かります。」[3] 以下に挙げるのは，わたしたちが苦難の時代を生きるときに指針とすることのできる教えです。

**従順であることによって救われる**

モルモン書に何度も記されているように，主の弟子が戒めに従ったとき，主は彼らを救い出されました。[4] ニーファイはこう教えています。「主の深い憐（あわ）れみは，信仰があるために主から選ばれたすべての者のうえに及び，この人たちを強くして自らを解放する力さえ与える……。」（1ニーファイ1：20） その後ニーファイは，主がどのようにして，父親を殺そうとした人々から父親を救い出し，エルサレムの滅亡から家族を救い出し，ラバンの殺害の企てから自分と兄たちを救い出し，レーマンとレムエルから暴力を振るわれたときに自分を救い出してくださったかを記録しています（1ニーファイ2：1－3；3：28－30；4章；7：16－19；18：9－23参照）。

アルマは息子シブロンにこう告げました。「神を信頼すればするほど，あなたはそれだけ

右――「絶えず神に頼っています」ウォルター・レーン画，教会歴史博物館の厚意により掲載
左――「情け容赦なくわたしを扱った」ウォルター・レーン画，教会歴史博物館の厚意により掲載

モルモン書に
何度も記されているように，
主の弟子が戒めに従ったときに，
主は彼らを救い出されました。

**神はわたしたちを守ってくださいます**

「神はわたしたちとともにいてくださいます。わたしたちを見守ってくださいます。わたしたちが誠実で，忠実で，従順で，御言葉に耳を傾けるならば，……神はわたしたちを守ってくださいます。」

**ゴードン・B・ヒンクレー大管長（1910－2008年）“God Will Protect Us in These Perilous Times,” *Church News*，2003年2月22日付，3**

試練や災難や苦難から救い出され，そして終わりの日に高く上げられるということを覚えていてもらいたい。」（アルマ38：5） モルモンも次のように述べています。「主の命令を忠実に守っていた人々はいつも救い出された。」（アルマ50：22） 十二使徒定員会のラッセル・M・ネルソン長老はこの原則を再確認してこう述べています。「従順であれば，神の祝福が限りなく注がれます。神は従順な子供たちを祝福し，束縛と災いから解放してくださいます。」[5]

モルモン書はまた，義人が少数であっても町全体の平安と安全が確保されることを明らかにしています（ヒラマン13：12－14参照）。

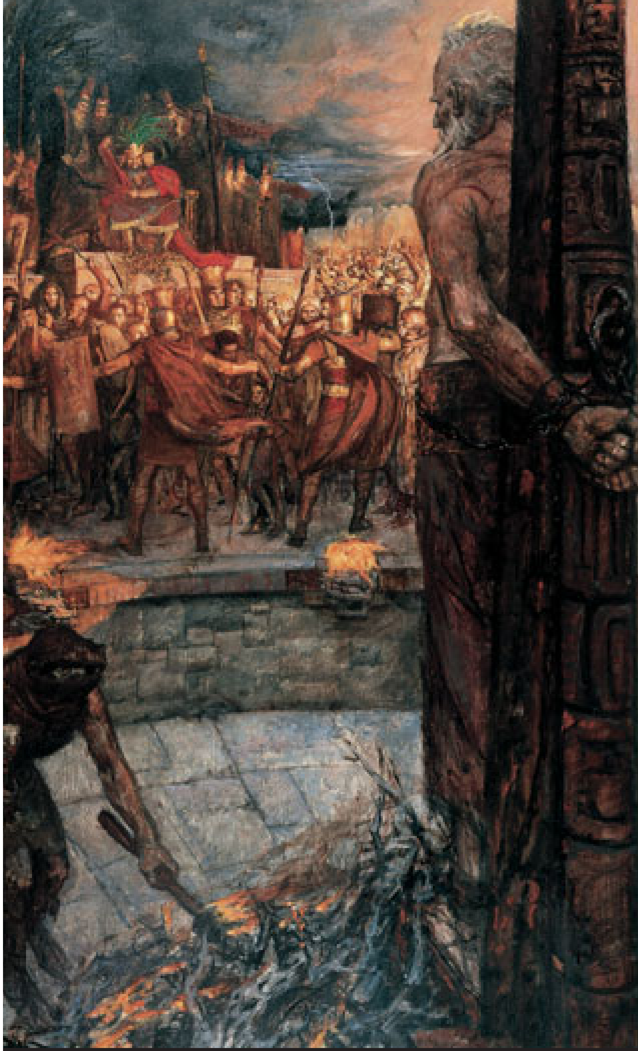
**戦争によって悔い改めを呼びかけられることがある**

わたしたちが神を忘れると，神はわたしたちに呼びかけられます。まず神は，個人的な促しや預言者など，憐れみに満ちた手段を用いられます。しかし，わたしたちがそれに応じなければ，神はその働きかけを次第に強くされます。時には，神に立ち返らせるのに役立つ最後の手段として戦争と暴力を容認されます。[6]

モルモンはこう述べています。「またこのことから，主が多くの苦難をもって御自分の民を懲らしめられなければ，まことに，死と恐怖と飢饉とあらゆる疫病を下されなければ，彼らは主を思い起こそうとしないことが分かる。」（ヒラマン12：3） 戦争が，悔い改めて神に立ち返ることを思い起こさせる手段となることがあるのです。

**神は戦時に安らぎを与えてくださる**

神の弟子たちが戦争の影響を受けざるを得ない場合，神は安らぎを与えてくださいます。アルマと彼に従った人々は囚われの身となったとき，すぐに主に頼りました（モーサヤ23：27－28参照）。すると，主はすぐにこたえてくださいました。「わたしは，あなたがたの肩に負わされる荷を軽くし，あなたがたが奴隷の状態にある間，あなたがたの背にその荷が感じられないほどにしよう。……また主なる神であるわたしが，苦難の中にいる自分の民を訪れるということを，あなたがたが確かに知ることができ



**アビナダイ（上と下の絵）のように，悪人に対する証人となるために苦しみを受けるように，あるいは死ぬように求められる弟子たちがいます。**

るようにするためである。」（モーサヤ 24：14）

ヤコブは彼の時代の心の清い人々にこう告げています。「確固とした思いをもって神に頼り，篤い信仰をもって祈りなさい。そうすれば，神は苦難のときにあなたがたを慰めてくださる。また，あなたがたのことを弁護してくださり，あなたがたを滅ぼそうとする者たちに罰を下される。」（モルモン書ヤコブ 3：1）

現代の預言者たちもこの真理を確認しています。十二使徒定員会のジョセフ・B・ワースリン長老（1917－2008年）はこう教えています。「〔神は〕必ずしも物事の過程に干渉されません。しかし試練や艱難のさなかにあっても忠実な者に確かな平安を約束しておられます。」[7]

ベンソン大管長はこう述べています。「たとえ危険な時代になったとしても，……神に頼り，戒めを守りさえすれば，わたしたちは恐れる必要はありません。」[8]

### 悪事に対する証人となるように求められる人々がいる

キリストの弟子たちは戦争から救われることがありますが，悪人に対する証人となるために苦しみを受けるように，あるいは死ぬように求められる弟子たちもいます。これは容易には受け入れ難い，あるいは理解し難い厳しい現実です。十二使徒定員会のニール・A・マックスウェル長老（1926－2004年）はわたしたちに次のことを思い起こさせています。「忠実な人であっても，この世での出来事から完全に逃れることはできません。」[9]　ヒンクレー大管長も，わたしたちの中のある人々は「苦しみを受けるかもしれません」と述べています。[10]

モルモン書には，預言者と罪のない女性や子供を含む主の弟子たちが時折苦しんだり戦争で死んだりする理由をわたしたちに理解させるために，非人道的な虐待や野蛮な行為の記録が多少残されています。例えば，ノアの邪悪な祭司たちは預言者アビナダイを縛り上げ，「薪を燃やしてその肌を焼き苦しめ，火あぶりにして」殺しました。しかし，アビナダイは死ぬ前に，「わたしを殺すならば，あなたは罪のない者の血を流すことになり，これもまた，終わりの日にあなたを責める証となるでしょう」と証しました（モーサヤ 17：10，13）。

モルモン書に記録されている残酷な殺害のもう一つの例として，アモナイハの邪悪な法律家たちとさばきつかさたちが，教えに改宗した人々の妻子を火あぶりにしたという出来事があります。アルマとアミュレクは殉教の場に連れ出され，この無慈悲な虐殺を見せられました。

「アミュレクは，火で焼かれている女や子供たちの苦しみを見て自分も苦痛を感じ，アルマに向かって，『この痛ましい有様をどうして見ていられましょうか。わたしたちの手を伸べ，わたしたちの内にある神の力を行使して，彼らを炎から救い出しましょう』と言った。」

アルマはそれに対してこう言いました。「御霊が，手を伸べてはならないとわたしを制されます。まことに，主はこの人々を栄光のうちに御自分のみもとに受け入れられるからです。主は彼らがこのことを行うのを，すなわち人々が，心のかたくなままにこの人々にこのことを行うのを黙認しておられます。それは，主が怒って彼らに下される罰が公正なものとなるためです。罪のない者の血は彼らを責める証拠となり，終わりの日に彼らを非難して激しく叫ぶことでしょう。」（アルマ 14：10－11）

### 戦争で死ぬ義人は主の安息に入る

忠実な愛する人々を失って悲しむとき，わたしたちは彼らがすでに主の安息に入っていて幸せを感じているという確信をモルモン書から得ることができます。モロナイは次のようにはっきりと述べています。「主は御自分の罰と裁きを悪人に下せるように，義人が殺されるのをそのままにしておかれます。したがって，あなたがたは，義人が殺されても捨てられたと思うには及びません。まことに，彼らは主なる神の安息に入るのです。」（アルマ 60：13）

ある戦いの後，「地の面に積み上げられたまま朽ちている遺体〔が〕何千とあ〔り〕」，その中にはキリストの忠実な弟子たちもいました。モルモン書には，その戦いに生き残った人々の

***エテル（上）とモロナイ（34ページ）は戦争のために文明が滅びるのを見ました（エテル 13：13－14；モロナイ 1：1－4参照）。***

右──「エテルの預言は大いなる驚くべきものであった」ウォルター・レーン画，教会歴史博物館の厚意により掲載

左上──「アビナダイは証を結び固める」ロナルド・クロスビー画，複写は禁じられています。左下──「アビナダイは証を述べた」ウォルター・レーン画，教会歴史博物館の厚意により掲載

ことが次のように記録されています。「親族を失ったことをまことに悲しみながらも，彼らがよみがえって，決して終わることのない幸福な状態で神の右に住むであろうという望みに喜びを感じ，また主の約束によってそれを知ってさえいる人々が何千人もいる。」（アルマ 28：11 − 12）

**平和の君**

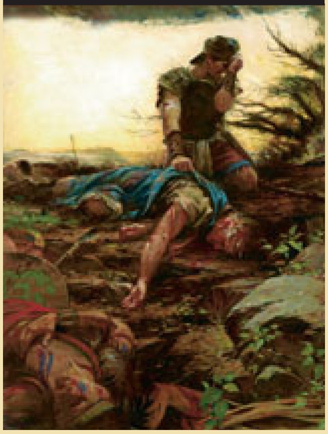
モルモン書は戦争と暴力の時代を生きる人々に祝福をもたらすため世に出されました。この書物に記録されている出来事と教えは，大きな希望を抱かせ，慰めをもたらし，神聖な展望を与えます。わたしたちは，神に従順であることによって多くの人が救われること，戦争が神に立ち返るようにとの呼びかけとなること，また苦しむように求められる弟子たちに神が安らぎを与えられることを学びます。また，戦争や暴力で死ぬように求められる義人は悪人に対する証人となること，そしてこれらの弟子たちは主の安息に入ることについても学びます。

結局，モルモン書はわたしたちに，キリストの弟子がその心の中に，また家庭と国で，平安を得ることのできる方法を教えているのです。モルモン書はわたしたちを平和の君であるイエス・キリストに導くすばらしい書物です。■

**注**

1. トーマス・S・モンソン「神権の力」『リアホナ』2011 年 5 月号，66
2. ゴードン・B・ヒンクレー「時満ちる時代に生きる」『リアホナ』2002 年 1 月号，6
3. エズラ・タフト・ベンソン「モルモン書―わたしたちの宗教のかなめ石」『リアホナ』2011 年 10 月号，56
4. モルモン書には，主が戦争やその他の危険な状況から人々を救い出された方法を教えている聖句が少なくとも 56 あります。
5. ラッセル・M・ネルソン「信仰をもって将来に臨む」『リアホナ』2011 年 5 月号，34 − 35
6. 主が御自分のことを人々に思い出させる方法として戦争と自然災害を用いられたことが，少なくとも 35 の聖句で教えられています。そのうちの 11 がモルモン書にあります。
7. ジョセフ・B・ワースリン「安全な港を見いだす」『リアホナ』2000 年 7 月号，71 参照
8. エズラ・タフト・ベンソン，Conference Report，1950 年 10 月，146
9. ニール・A・マックスウェル「愛の腕の中に抱かれて」『リアホナ』2002 年 11 月号，17
10. ゴードン・B・ヒンクレー「わたしたちが生きている時代」『リアホナ』2002 年 1 月号，86

## なぜ戦争と暴力があるのでしょうか



「わたしだけが一人生き残り」ウォルター・レーン画、教会歴史博物館の厚意により掲載

モルモン書は，罪悪が戦争を招くということをはっきりと証しています。不義な人々がほかの人々を支配する権力を求めるか，あるいは普通の住民が罪悪のはびこるのを容認するか，いずれの場合も，結果的に戦争，対立，暴力が引き起こされます。

**不義な人々が権力を求めるとき**

アムリサイは論争と法律に基づいた選挙に敗れましたが，人々を統治したいという欲望を捨てることを拒み，何としても自分を王にするよう支持者を説得しました。その後，神の教会を滅ぼして民を自分に従属させるために，戦争に出るよう新たな自分の臣民に命じました。一人の人がほかの人々を支配する権力を得たいと欲したことで，おびただしい数の人々が不必要な暴力に苦しんだのです（アルマ 2 章参照）。

レーマン人の指揮官ゼラヘムナは，自分の民をそそのかしてニーファイ人を奴隷にしようとしました。戦争が起こり，死者の数は非常に多くて数えることができませんでした（アルマ 43：6 − 8，37；44：21 参照）。

ニーファイ人の離反者であるアマリキヤは，欺きと暴力と戦争を利用して権力を手に入れました。彼はニーファイ人を束縛し，ニーファイ人はその後の 5 年間，戦争と暴力に苦しみました（アルマ 46 − 48 章参照）。

**住民が罪悪のはびこるのを容認するとき**

ニーファイは，様々な民が「代々……彼らの罪悪のために滅びてきた」と述べています（2 ニーファイ 25：9）。司令官モロナイは，民は自らの背きによって自分の身に災いを招くまで滅ぼされることはないと断言しています（アルマ 46：18 参照）。そして，「〔ニーファイ人〕の中に口論や争い，殺人，略奪，偶像礼拝，みだらな行い，忌まわしい行いがあって，それらが彼らに戦争と滅亡を招いた」と述べています（アルマ 50：21）。

一家の写真／マイケル・R・モリス。地図 © ISTOCKPHOTO.COM

# 刈り入れの時は来る

教会機関誌
**マイケル・R・モリス**

オスカル・フィリッポーニ兄弟の家族にとって，農業で生計を立てることが楽だったことはありません。強風，干ばつ，機械の故障，市場の停滞などの問題によって，精いっぱいの努力がくじかれているように感じることもあります。

アルゼンチン南部のチュブト州にあるチュブト川盆地南部で100エーカー（40ヘクタール）の農地を耕しているオスカルは言います。「わたしたちの小さな農場では，大地の実りで生活するために日々霊感と啓示を求めなければなりません。試しは毎日やって来ます。」

フィリッポーニ家の最大の試しの一つは，自分たちの努力がいつ実を結ぶのかが必ずしも分からないことです。しかし，彼らは勤勉と粘り強さがいつかは報われることを学びました。

「農業では，1日，あるいは1週間単位で努力の報いを得ることはできません」とオスカルは説明します。「わたしたちは日曜日を除いて毎日，毎週，毎月働きますが，必ずしも金銭的な報酬があるわけではないので，適切な財政計画を立てておかねばなりません。努力が実を結ぶまでに数か月，あるいは1年かかることさえあります。今している作業が，後に収穫をもたらすということをいつも覚えておく必要があります。」

*フィリッポーニ家族は，*
*物理的にも霊的にも，*
*刈り入れの律法は*
*粘り強さ，忍耐，そして祈りが*
*必要であることを学びました。*

*オスカル・フィリッポーニ一家の人は，地道な努力がいつ実を結ぶか必ずしも分かるわけではありません。しかし，彼らは，勤勉さと忍耐はいつかは報われることを学びました。*

オスカルは妻のリリアナ，そして子供たちのうち二人，ダニエルとマリア・セレステとともに，アルファルファを育て，家畜を飼育しています。

「お金があるときもあれば，ないときもあります。農場の経営に全額を充てるからです。機械が故障することもあれば，売り時の家畜が売れないこともあります。しかし，深く思い巡らせて祈り，忍耐強くあって，希望を持ち続ければ，１日か２日でおのずと解決します。だれかが我が家に立ち寄って，『チェ,[1] 売り出し中の家畜はいますか』と言うかもしれません。万事うまくいき，先に進みます。農業を営むのは大変ですが，わたしたちは日々努力することを通して支えられてきました。」

**基準点**

ダニエルは，農作業をしていると，日々福音の観点から祝福や問題について深く考える機会があると言います。彼は，農作業について，「騒音や音楽や宣伝広告にじゃまされることなく，主と話し，御霊の影響に注意を向けられるのは祝福です」と語ります。

「愛する家族や自然に囲まれたこのような場所に住んでいると，教会員であることは簡単です」とリリアナは言います。「ここにいると，わたしたちが主に頼っていること，そしてわたしたちの持ち物はすべて主から頂いていることを覚えていられます。オスカルはいつも畑や家畜の世話をしながら様々なことを深く考えて家に帰って来ます。」

例えば，オスカルが畑を耕すときには，畝をまっすぐ作るために，遠くの木や石を選んで基準点とします。「途中に障害物があっても彼にとって問題ではありません」とリリアナは言います。「畝をまっすぐ作りたいので，進路からそれるわけにはいかないのです。」

オスカルはこう付け加えます。「畝の仕上がり具合を見ようと後ろを向けば，進路からずれて

**主の決算日**

「隣り合わせの畑を持つ二人の農夫がいました。一人は日曜日には畑作業を一切しませんでした。隣人はそのことでいつも彼をたしなめました。隣人はこう言いました。『君の作物はうちのほど育っていないよ。日曜日も働いたらどうだい。』

もう一人の農夫は答えました。『ぼくは主の言われたとおりにしたいんだ。主の祝福を受けたいんだよ。』

10月のある日，二人は柵の所に立っていました。〔隣人〕は言いました。『見てごらん。うちの畑を見てごらん。すばらしいじゃないか。背丈が伸びていて，穂には麦がぎっしり詰まっている。それに比べて，君の畑は少々手入れを怠ったことが分かるね。君はぼくほどよく手入れしていなかったからだよ。ぼくの収穫と君の収穫を比べてごらんよ。君が受けるはずだった祝福について，今度は何て弁解するんだい。』

〔安息日を守っていた〕農夫は少し考えてからこう言いました。『主の決算日は10月じゃないさ。』」

**十二使徒定員会会長　ボイド・K・パッカー会長**
*Mine Errand from the Lord*（2008年），193

しまいます。ですから，基準点に集中して前に進むのです。」
わたしたちの小さな農場と同じことが教会にも当てはまると彼は語ります。「人生の進路からそれないよう，わたしたちは主に目を向けて，聖文を読み，戒めを守らねばなりません。妨害を許すと，基準点を見失い，進路が曲がってしまいます。」

**霊的な刈り入れ**

フィリッポーニ家族は近くの町，ガイマンにある教会の支部に通っています。人口6,000人のこの町は1870年代にウェールズ人移民によって開拓されました。支部の会員が自分たちの光を掲げる機会はたくさんあります。「みんながいつも見ているので，わたしたちは日々最良の自分でいなければなりません」とリリアナは言います。

人々が福音に興味を持てるように助けるには時間がかかることがあります。物理的な刈り入れの法則と同じように，霊的な刈り入れの法則にも忍耐が必要です。しかし，この家族が一貫して福音の原則に従って生活しているので，人は末日聖徒の標準を知り，敬意を示すようになりました。

以前，オスカルが政府の仕事をしていたとき，コーヒーや紅茶，アルコールを勧められてもいつも断っていました。「何年か後には，同僚が気を利かせて助けてくれるようになり，『どのソーダにする？』と聞いてくれました。教会に興味を持つ人もいました。それが刈り入れです。」

福音の原則を学んでそれに従って生活することがもたらす霊的な刈り入れが特に豊かなのは，家庭の中です。

この刈り入れは，アルゼンチン・トレレウ北ステークの祝福師としてオスカルが奉仕してきたこと，リリアナが支部の扶助協会会長として奉仕したこと，そして長年の間，家族がそれぞれ様々な召しを受けて奉仕したことによってもたらされています。

また，安息日を守り，什分（じゅうぶん）の一の律法に従ったことによって刈り入れがもたらされています。「天の窓はほんとうに開きます。すぐでなくとも，従順であり続けることによって開くのです」とオスカルは語ります。

フィリッポーニ家の子供全員が高校を卒業したこと，また，4人の息子全員が専任宣教師として伝道に出たことによっても刈り入れがもたらされています。教育と伝道のおかげで，彼らは就職し，指導者となる機会を得ました。教育を受けず，伝道にも出ていなければ，このような機会を得ることはなかったでしょう。

マリア・セレステが同級生から兄たちの伝道や彼女の信仰，そして土曜日の夜遅く開かれるパーティーに彼女が行かない理由について受けた質問からも刈り入れがもたらされています。

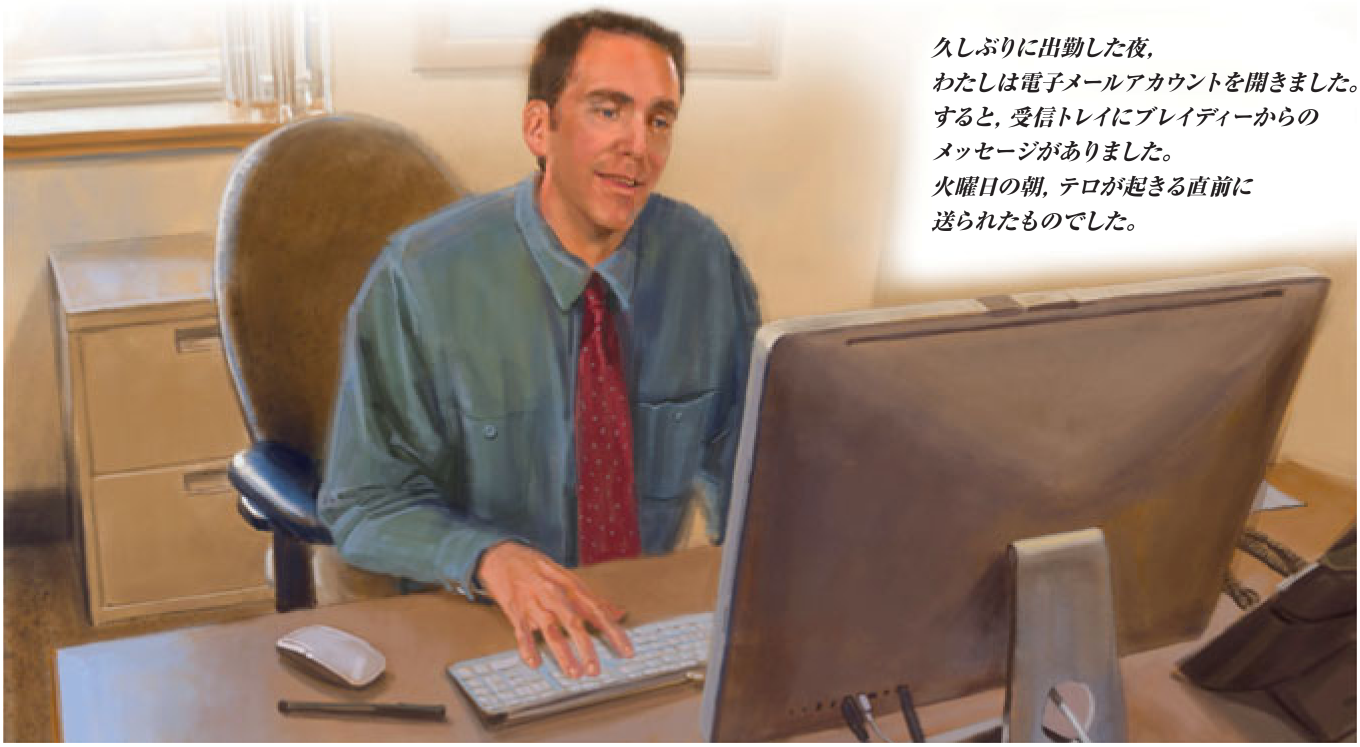
また，聖霊のささやきと心を静める影響を通して刈り入れはもたらされています。ある夜遅く，フィリッポーニ家がどろぼうに入られたと思ったとき，聖霊のおかげで悲劇を回避することができました。ダニエルは物音が聞こえて目を覚まし，家を守ろうと身構えました。ところが，侵入者だと思った相手は，車が故障して助けを求めて来た近所の人でした。

「過剰反応をしないで解決できるように，御霊がわたしの心を落ち着かせてくださったことに気づきました」とダニエルは言います。「後に家族で祈り，悪い事態に至らなかったことを天の御父に感謝しました。」

真に自らを神にささげるなら，神はわたしたちの必要を満たしてくださり，わたしたちは主の手に使われる者となるとフィリッポーニ家の人は言います。この過程には粘り強さと忍耐と祈りが求められます。また，たくさんの信仰と努力も必要とされますが，主の時が来れば，刈り入れがもたらされるのです。■

**注**

1. アルゼンチンで一般的に用いられる表現。「友」「仲間」または「相棒」という意味。




# 兄は平安を残した

2001年9月11日のテロが起きたとき，兄のブレイディーは合衆国ペンタゴンの海軍情報部で大統領管理研修員として働いていました。わたしは当時，合衆国アイダホ州で働いており，その日の朝，事件のことをニュースで見て，すぐに上司に連絡し，数日間出勤できないことを伝えました。

家族の何人かで，政府が状況説明の会場として指定していたワシントンD.C.のあるホテルの舞踏室に集まりました。そこでは継続的に行われている救助活動の最新情報が被害者の家族に伝えられていました。わたしたちはブレイディーが犠牲になったのかどうかを知るために何日も待ちました。堪え難い悲しみと絶望がその場を包んでいました。それでも，家族が一つになり，何があっても信仰を失わないようにと祈りました。

テロが起きてから約1週間後の9月17日，ブレイディーの死亡が確認されました。

それまでは「なぜわたしが?」と思ったことはありませんでしたが，当然のことながら「なぜ兄が?」と思いました。わたしは子供のときからブレイディーが大好きで，彼にあこがれて，彼のようになりたいと思っていました。また，「なぜ今?」とも思いました。ブレイディーは数週間前から，アイダホに里帰りして家族と一緒に過ごす計画を立てていました。予定では、亡くなった日の2日後の，9月13日木曜日に帰って来るはずだったのです。

アイダホに戻って初めて出勤した夜，わたしは仕事の電子メールアカウントを開きました。9月10日以来のことでした。すると，受信トレイにブレイディーからのメッセージが届いていました。火曜日の朝，テロが起きる直前に送られたものでした。それには家族で一緒に集まることや，予定していたいろいろな楽しい活動について書かれていました。結びの言葉は，簡潔に「平安を」と書かれていました。

これはブレイディーがいつもメールを締めくくるときに書く言葉ではありませんでしたが，彼がそのように書いてくれたことは，主の深い憐(あわ)れみであったと思います。その後起きる事件についてブレイディーが知っていたとは思いませんが，彼がわたしに残してくれた最後の言葉が「平安を」であったことをうれしく思います。

あれから10年が過ぎた今でも，あの電子メールを時々読み返します。そうするときにいつも，救い主が約束された平安は福音を通して見いだせるのだということを思い出します。「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは，世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな，またおじけるな。」（ヨハネ14：27）

もちろん，今でもブレイディーに会えないことは寂しいですが，福音のおかげで，この試練に立ち向かう信仰を失わずにいます。救い主の助けを通して，わたしは希望と平安をもって前に進むことができたのです。■

カーソン・ハウエル（アメリア合衆国，ユタ州）

イラスト／ブライアン・コール

# モルモン教徒に聞こう

フィンランドでは，18歳以上のすべての若い男性に1年間の兵役義務が課せられます。兵役に就いて間もなく，多くの同僚たちのものの見方や態度がわたしの従っている原則と異なることに気づきました。それで，わたしはいつも御霊（みたま）を身近に感じられるように策を講じ，最低でも1日に2回は祈り，また聖典を読みました。

最初のころ，同僚がどのように反応するかが心配でとても緊張しましたが，だれも気にしていないようだったので，安心しました。しばらくして，近くのベッドを使っている同僚たちから何を読んでいるのかと聞かれました。「モルモン書」と，わたしは率直に答えました。次の質問はもちろん，わたしが末日聖徒かということでした。そうだと答えました。しばらくの間，そのことについてだれも触れませんでした。

そのうち，数人の同僚がモルモン書の起源や内容などについて質問するようになりました。後に，質問は人生の目的から教会の原則にまで及びました。わたしの宗教について話し合うことが，普段の会話の一部となり，たいていいつも話題に上りました。

すぐそばのベッドを使っていた同僚の一人が，わたしのモルモン書を読んでもいいかと聞いてきました。もちろん，「いいよ」と答えました。あるとき，ルームメートが友人の葬儀から帰って来るなり，葬儀に行ったら人生の目的についていろいろな質問が浮かんできたと話し，教会がそのようなことについて信じていることを教えてほしいと言いました。わたしたちは長い時間をかけて，人生の目的や，贖（あがな）い，創造，そのほかの福音のテーマについて話し合いました。その後，ほかのルームメートたちも教会の教えや標準に興味を持ち始めました。

わたしたちはルームメートとしての残りの期間を通じて，いろいろなことを話し合いました。何を話すときにも，いつも最後は教会の教えが話題になりました。ルームメートたちは，この話し合いを「モルモン教徒に聞く会」と呼びました。訓練期間を修了した後で，一人のルームメートが悪い言葉を言わないことにしたと話してくれました。

軍隊にいる間に気づいたことがありました。それは，自分が教会員であるということについて心を開いて伝えれば伝えるほど，福音の教えに忠実に従えば従うほど，人々ももっと心を開いてわたしに接してくれるようになり，福音を分かち合う機会ももっと多くなるということです。

兵役の間に福音について話す祝福と機会が何度も与えられたことに感謝しています。もしわたしたちが自分の価値観を大胆に擁護するならば，伝道活動の機会に恵まれること，そして，生活の中で惜しみなく福音の光を放つならば，悪から自分を守り，周りの人たちに良い影響をもたらせると証（あかし）します。■

カリ・コポネン（フィンランド，ウーシマー）

*すぐそばのベッドを使っていた同僚の一人が，わたしのモルモン書を読んでもいいかと聞いてきました。もちろん，「いいよ」と答えました。*

***話し出すと，御霊から平安と力が注がれるのを感じました。神が御自分の子供たちを深く愛しておられるということと，人は神の特質を受け継いでいるということについて証しました。***

# 主はわたしの嵐を静めてくださるだろうか

アメリカ合衆国マサチューセッツ州にある私立学校で5年生の教師をしていたわたしは，その学校における多様性教育のカリキュラムについて，管理役員と何度か話し合いました。カリキュラムの内容は，「家族──世界への宣言」の原則に反していました。結婚と家族に関する真理を擁護するために，また，客観性や敬意，理解を促すために努力しましたが，結果として誤解や冷やかし，迫害の嵐を招いてしまいました。

当時，自分の心境は，荒れ狂うガリラヤ湖を舟で渡っていたときに，同じ舟の中でイエス様が眠っておられたときの使徒たちの心境と似ているのではないかと思うことがよくありました。彼らの信仰が揺らいだように，わたしの信仰も揺らぎ，彼らと同様「わたし……がおぼれ死んでも，おかまいにならないのですか」という疑いを抱きました（マルコ4：38）。イエス様が荒れ狂う風と波を叱責されたことは確かに信じていましたが，試練が増してくるにつれ，主がわたしの経験している嵐を静めてくださると確信することが難しくなりました。

ある日，学校の管理役員から，多様性教育についての勉強会で，わたしが心配していることを教職員全体に説明してほしいと頼まれました。このための発表を準備している間，祈りや，聖典学習，神殿参入に対するわたしの熱意は高まり，何を話すべきかについて御霊から導きを受けていると感じました。

同僚の前で発表する時間が来たときに，預言者ジョセフ・スミスの次の言葉から勇気を得ることができました。「わたしたちの力の限りすべてのことを喜んで行おう。そして願わくは，その後，わたしたちがこの上ない確信をもって待ち受けて，神の救いを目にし，また神の腕が現されるのを見ることができるように。」（教義と聖約123：17）

話し出すと，御霊から平安と力が注がれるのを感じました。神が御自分の子供たちを深く愛しておられるということと，人は神の特質を受け継ぎ，すばらしい可能性が与えられ，永遠の価値があるということについて証しました。神の戒めはこの上ない幸福への道を示すものなので，戒めは神の愛の表れであるということを教えました。そして，イエス・キリストは，生まれながらの傷も，環境による傷も，両方癒すことがおできになることを宣言しました。

あっという間に持ち時間の30分が過ぎました。ゆっくりと演壇から離れ，書類を集め，顔を上げました。神聖な静けさが部屋中を満たしていました。ほほえんでいる人や，泣いている人がいました。わたしの意見に反対していた教師たちが，わたしの勇気と信念に感謝してくれました。ある同僚が，わたしが話したときに「特別な何か」を感じたと打ち明けてくれました。ほかの人たちは，そのような信念がそのように繊細にまた敬虔に語られるのを聞いたことはないと言い，わたしの話を聞いたおかげで学校のカリキュラムを変えなければいけないことが理解できたと話してくれました。

主が荒れ狂う波に命じて「静まれ，黙れ」と言われると，波は静まりました（マルコ4：39）。その主が再び波を静めてくださいました。今回はわたしのために！

この経験を通して，真実を擁護する

ときには決して独りではないことを学びました。主の助けはいつもそばにあります。主は次の約束を守られます。「わたしはあなたがたに先立って行こう。わたしはあなたがたの右におり，また左にいる。わたしの御霊はあなたがたの心の中にある。また，わたしの天使たちはあなたがたの周囲にいて，あなたがたを支えるであろう。」（教義と聖約84：88）

わたしは全身全霊で証します。神は，解放の神であられます。自分が救助されたので，それが真実であることを知っています。主はわたしの嵐を静めてくださったのですから。■

ニック・ジェンタイル（アメリカ合衆国，ユタ州）

## 総大会から答えを得ました

2006年に，わたしはカトリック系の大学で人類学のクラスを受講していました。特定の宗教を調べてクラスで発表するという課題が先生から出されました。わたしは，末日聖徒イエス・キリスト教会について発表することにしました。21年間教会員だったので，当然と言えば当然の選択です。これが，わたしが信じていることを40人の同僚や友達と分かち合う，希少で，すばらしい機会になることは間違いないことでした。

2か月の間，発表の準備をしながら，わたしにとって大切な教義をクラスメートに理解してもらえるように，簡潔な説明方法を必死で考えました。何について話すべきか，また，それをどのように伝えるべきか分かりませんでした。発表が1週間後に迫っても，まだどうしたらいいのか分かりませんでした。必死の思いで，主の助けを得るために祈り願いました。

するとその週末の総大会を通して，答えを受けました。2006年4月の大会で，大管長会第二顧問のジェームズ・E・ファウスト管長（1920－2007年）が「万物の回復」[1]という題で話しました。ファウスト管長が分かち合った真実と方法に従ってクラスで発表できると聖霊が確認してくださるのを感じました。

大会後にインターネットからその話をダウンロードして，それに基づいてスライドを準備しました。クラス発表はその翌週でした。割り当てられた時間は20分でしたが，先生やクラスメートからたくさんの質問を受けたために，わたしの発表は40分，つまり授業時間が終わるまで続きました。

*先生やクラスメートからたくさんの質問を受けたために，教会についてのわたしの発表は40分続きました。*

わたしが発表を終えると，先生が，これまでの中で最も良いプレゼンテーションだったと言いました。先生は，わたしの発表に高得点を付けてくれました。そして，満点にしなかった理由は，中立性を欠いていたからであると指摘してくれました。

わたしは後で先生に，『リアホナ』のサイトを紹介し，そこにファウスト管長の説教や，先生にとっても有用と思われるほかの内容が掲載されていることを伝えました。モルモン書も渡して，読んでくれるようにお願いし，後で話し合いたいと伝えました。

わたしの発表から影響を受けた学生たちもいると聞き，感謝しました。その年の間中，わたしの発表が彼らの生活に変化をもたらしていることが，はっきりとわかりました。学生の一人は宣教師を家に招きさえしたのです。そのおかげで，わたしたちはイエス・キリストの福音について話し続けるというすばらしい機会を得ました。

クラスメートにわたしの信仰を分かち合う機会があったことに感謝しています。でも，それよりも，主はわたしたちの心からの祈りに，現代の預言者や使徒を通して答えてくださるということを学んだことに感謝しています。■

サラ・マグヌッセン・フォルテス（ブラジル，サンパウロ州）

**注**
1. ジェームズ・E・ファウスト「万物の回復」『リアホナ』2006年5月号，61－62，67－68参照

中央若い男性会長会
第二顧問
**エードリアン・オチョア**

# あなたがたは世の光である

帰還宣教師はよく，伝道は人生で最高の奉仕の機会であったと言います。それはなぜでしょうか。

それは，人が救い主のもとに来るのを見られるという喜びがあるからかもしれません（教義と聖約18：15参照）。求道者，改宗者，会員，同僚，伝道部会長たちと築いたきずなが関係しているからかもしれません。どちらも，伝道から得られることの一部でしょう。しかし，伝道が彼らの人生で最高の機会となったのは，彼らが感じる救い主の光，そして奉仕と証（あかし）を通して分かち合った光があったからなのだと思います。

わたしたちは，救い主が御自身を世の光であると言われたことを知っています（ヨハネ9：5；12：46参照）。しかし，山上の垂訓では，主に従う人々にも同様に宣言しておられます。

「あなたがたは，世の光である。山の上にある町は隠れることができない。

また，あかりをつけて，それを枡（ます）の下におく者はいない。むしろ燭台（しょくだい）の上において，家の中のすべてのものを照（てら）させるのである。

そのように，あなたがたの光を人々の前に輝かし，そして，人々があなたがたのよいおこないを見て，天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」（マタイ5：14－16）

救い主の光をわたしたち自身に受け，その光を分かち合うことは，わたしたちの生涯を通してできることです（3ニーファイ18：24参照）。そして，それは若いうちから始める必要があるのです。正式に宣教師に召されて伝道するときも，生涯を通して伝道の業に取り組むときも，わたしたちは，アルマや預言者ジョセフ・スミス，そして救い主から学ぶことができます。わたしは彼らをこの業の模範であると考えています。救い主の光を世に示す伝道の業の大切さを理解するうえで，この3人は，わたしに大きな影響を与えてくれています。

## アルマ――へりくだる

アルマの教えは，わたしが伝道に出ようと決意するうえで大きな助けとなりました。祖母のおかげで8歳のときにバプテスマを受けたものの，青少年のころはほとんど教会に集っていませんでした。ヤングアダルトのときに宣教師と出会い，教会について考えるようになり，聖文を学び始めました。アルマ書にある，やむを得ずへりくだることと進んでへりくだることについての考察が目に留まりました（アルマ32：13－15参照）。自分には欠点があるのでふさわしくないと思いながらも，伝道に出るには大きな変化が必要であると真剣に考えました。わたしはもう働いており、自分の会社を持っていました。結婚したいと思っていたガールフレンドも（それは今の妻なのですが）いました。そんなわたしが，すべてを投げ打って主に仕えることができるでしょうか。

わたしは独りになれる場所に行き，時間を十分に取って天の御父に祈り，語り合いました。へりくだることで，天の御父が確かにわたしに伝道に出るよう望んでおられることが分かりました。わたしは御言葉（みことば）に従うことに決め，その結果，アルマの約束が真実であることを知ったのです。「まことに，自ら進んで心からへりくだり，罪を悔い改め，最後まで堪え忍ぶ人は祝福を受ける。まことにこのような人は，非常に貧しいためにやむを得ずへりくだっている人々よりも，なおさら祝福を受ける。」（アルマ32：15）

わたしは26歳をすでに過ぎていましたが，ビショップと話をし，伝道に備える助けを受けました。書類を

フォトイラスト／マシュー・ライアー。「キリストとサマリヤの女」カール・ヘンリック・ブロック画，デンマーク，ヒレレズのフレデリクスボー城内にある国立歴史美術館の厚意により掲載，複写は禁じられています
「息子たちに教える息子アルマ」ダレル・トーマス画 © IRI．「リバティー監獄におけるジョセフ・スミス」グレッグ・K・オルセン画，複写は禁じられています

*伝道の業に従事するとき，わたしたちは，救い主とアルマ，ジョセフ・スミスの模範から霊感を受けることができます。*

提出して数か月待ちました。ようやく召しを受けたとき，専任宣教師として伝道することはできないものの，わたしの専門である広報の分野で奉仕することができると知らされました。とても有意義な機会でした。わたしは訓練を受け，メキシコで教会が政府から正式に認可された直後にメディアへの対応に当たりました。各ステークが広報担当スペシャリストを訓練し，政府当局者との関係を確立するのを助けました。この奉仕の機会は，言葉では言い表せない，思いもしなかった様々な方法でわたしを祝福してくれました。生活の多くの面で永続的に影響を与えてくれました。

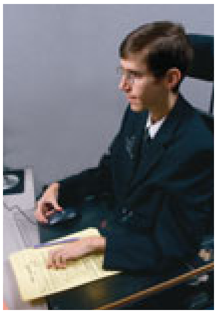
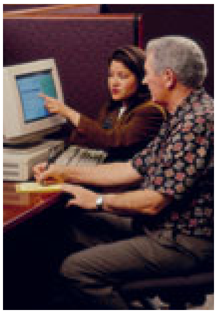
伝道は，その後の人生に備えるための唯一かつ重要な経験となるでしょう。ゴードン・B・ヒンクレー大管長（1910－2008年）は，将来宣教師となる人々にこう約束しました。「わたしはあなたが伝道地で過ごす時間は，献身的な働きのために用いられるならば，その投資に対しては，人生の中のほかのいかなる2年の歳月にも増して，大きな報いが得られることをお約束します。……忠実によく伝道を行うならば，さらに良い夫，良い父親，良い学生となり，職場においてもさらに良い働き手

## 様々な奉仕の機会

宣教師としての正式な奉仕の機会は，伝道活動に従事できる人のためだけにあるのではありません。ヤングアダルトの中には身体的，精神的，あるいは情緒的問題のために伝道活動ができない人々が大勢います。そのような若い男女は，教会奉仕宣教師として世界中の教会の組織ですばらしい貢献をすることができます。

教会奉仕宣教師は世界中で必要とされており，家族歴史センター，ビショップの倉，缶詰工場，職業支援センター，コミュニティーサービス団体，メディア媒体，その他の様々な教会事業で奉仕しています。伝道に出られる年齢の兄弟姉妹で伝道活動ができない人は，両親や指導者と相談し，奉仕宣教師として働くという選択肢を考えることができます。奉仕宣教師の場合は，割り当てや期間はその宣教師の能力によって異なりますが，それは地上に神の王国を建設するうえで確かな働きであり，奉仕であり，犠牲です。

教会奉仕伝道の詳細については，www.lds.org/service/missionary-service?lang=jpn を参照してください。

となります。」[1]　専任宣教師として奉仕する年齢にまだ達していない人は，将来奉仕できるように今，備えてください。どんな犠牲を払おうと，それよりははるかに勝る祝福を受けられることでしょう。

皆さんが伝道について考えるとき，チャレンジが与えられることがあるのを知っています。サタンは主の業が進むのを阻止しようとあらゆる手を尽くします。伝道に出るべきかどうか迷っているならば，へりくだり，ひざまずいて天の御父に尋ねるようお勧めします。御父はわたしに望んでおられることを知らせてくださいました。皆さんにも同じようにしてくださることを知っています。

### ジョセフ・スミス——永遠の観点から見る

わたしは，永遠の観点に焦点を当てることによって，主の僕として働く能力が高まることをジョセフ・スミスから学びました。以前は，いったいどのようにして，ジョセフは彼が受けた試練，特に迫害に耐えることができたのだろうかと考えたものです。しかし，ジョセフはとばりの向こうを目にしていたので，この死すべき世が永遠の旅路のほんの一部でしかないことを知っていたのだと分かるようになりました。彼が知っていたことを自分が知っていればどうだろうと考えたとき，現在の状況だけに焦点を当ててしまうと，視野が制限されてしまうことに気づきました。永遠の観点から見る姿勢を保つときに，人々を助け，救助に携わって，自分の知っている真理について証することがどれほど重要なのかを理解できるのです。

ジョセフのように永遠の観点から物事をとらえるようにするならば，わたしたちは，毎日の生活の中で，もっと自主的に，そして熱心に福音を分かち合うようになるのではないでしょうか。救い主の光を自分自身に受け，それを分かち合うことを，専任宣教師としての機会だけに限定する必要はありません。受容的な態度で心を開くならば，周囲の人々とキリストの光を分かち合い，教会員として自分がどのような人物であり，何を信じているかを知ってもらうことができます。生涯を通じて様々な土地に移り住み，多くの人々と親交を温めるときに，ほかの宗教を信仰する隣人やクラスメート，そして職場の同僚とも親しくなるようお勧めします。ソーシャルメディアやブログ，ビデオ共有サイトなど，インターネット上で福音を分かち合うようにというM・ラッセル・バラード長老の指示に従ってください。[2]

正式なレッスンを通して福音を教えることもできますが，義にかなった模範や自分の生き方を通して進んで証を分かち合うだけでも，福音に目を向けてもらえることがあります。皆さんが御霊を受けるにふさわしい生活をし，自らの光を放つことによって，人々は「あなたがたのよいおこないを見て，

左——フォトイラスト／クリスティーナ・スミスとマシュー・ライアー©IRI，右——フォトイラスト／クリス・ウィルズ©IRI，モンソン大管長の写真／クレーグ・ダイモンド©IRI

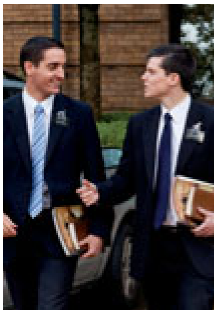
天にいますあなたがたの父をあがめるように」なるでしょう（マタイ5：16）。

**救い主——人に関心を示す**

最後に，あらゆる面でわたしたちの模範である救い主は，自分自身についてあまり思い煩わないように，そしてむしろほかの人々の救いに関心を向けるよう教えてくださいました。主はその全生涯を人々のためにささげられました。ほかの宗教を信じる人々に福音を分かち合うことについて，わたしたちは自分がどう思われだろうか，あるいはどんな反応が返ってくるだろうかと恐れてしまいます。専任宣教師として伝道する場合には，収入や学業，あるいは恋愛について心配しすぎることがよくあります。どれも大切で，良いものなのですが，これらは後になっても得られるのです。主御自身には「まくらする所が〔ありません〕」でした（マタイ8：20）。また，御自身に従う人々に「まず神の国……を求めなさい。そうすれば，これらのものは，すべて添えて与えられるであろう」と教えられました（マタイ6：33）。

わたしたちにとっても同じです。世の光である主に従い，その光を放とうと努力するとき，世に祝福がもたらされ，結果的にはわたしたち自身が祝福を受けるのです。わたしたちが皆，その光を隠すことなく，生涯を通じて輝かせ続けることができますように。■

注
1. ゴードン・B・ヒンクレー「伝道と神殿，そして管理の職」『聖徒の道』1996年1月号，59
2. M・ラッセル・バラード，“Sharing the Gospel Using the Internet,”『リアホナ』（英文），2008年6月号，N2参照



**預言者からの召しにこたえる**

総大会の第一部会が，預言者の心にかけている事柄を示しているとするならば，トーマス・S・モンソン大管長が伝道の業について考えているのは明らかです。

2011年4月に，大管長は世界中の宣教師と伝道部の数を報告し，このように言いました。「伝道活動は神の王国にとって欠かせないものです。もし可能であれば，教会の中央宣教師基金に献金することを考えるよう提案します。」[1]

2010年10月に，大管長はこう述べています。

「預言者たちが長年教えてきたことを繰り返します。ふさわしく，能力があるすべての若い男性は伝道に出る準備をするべきです。宣教師として奉仕することは神権の義務です。非常に多くのものを受けているわたしたちに，主が望んでおられる務めなのです。若い男性の皆さん，わたしは皆さんに宣教師として奉仕する準備をするよう勧告します。いつも清く純粋で，主を代表するにふさわしくあってください。 健康と体力を維持してください。聖文を研究してください。セミナリーやインスティテュートがある地域では，それに出席してください。宣教師の手引きである『わたしの福音を宣べ伝えなさい』に精通してください。

若い姉妹の皆さん。皆さんには専任宣教師として奉仕するという若い男性と同じ神権の責任はありませんが，宣教師として価値ある貢献ができます。皆さんの奉仕を歓迎します。」[2]

2009年10月には，「教会が限られた範囲でしか影響力を及ぼすことのできない地域，現在のところ福音を自由に伝える許可が下りていない地域のために，これからも信仰をもって祈りをささげてください。そうするならば，奇跡が起こるに違いありません。」[3]と大管長は言っています。

注
1. トーマス・S・モンソン「再び大会に集い」『リアホナ』2011年5月号，6
2. トーマス・S・モンソン大管長「再びともに集い」『リアホナ』2010年11月号，5－6
3. トーマス・S・モンソン「大会へようこそ」『リアホナ』2009年11月号，5－6

# そこが知りたい

どうして
わたしたちの教会は
**キリスト教諸国に**
**宣教師を**送るのか
と尋ねられたら，
どう答えればよいでしょうか。

わたしたちの教会の会員でない多くの人々にとって「伝道」とは，はるかかなたの地へ行って，例えばキリスト教徒でない人々にキリスト教について教えたり，そこで人道支援活動を行ったりすることのように考えられています。ですから，わたしたちの教会が近隣諸国で「伝道」していることを知ると不思議に思うかもしれません。

宣教師は世界中の人に伝えるべきメッセージを携えているからこそ，全世界に送られるのです。わたしたちは，イエス・キリストの完全な福音が回復されたことを信じています。その中にはキリストの教会と，バプテスマなどの儀式を執行するために必要な神権の権能も含まれています。回復された完全な福音があるのはこの教会だけです。キリスト教の伝統が定着している国も含め，すべての人がこのメッセージを聞く必要があるので，すべての人のもとに宣教師が送られるのです。■

フォトイラスト／スウェイ・チャベス

## 霊的な経験を分かち合うことを避けた方がよいのはどんな場合でしょうか。

霊的な経験を聞く心のゆとりがある人にそういう話をするのは，相手の信仰と証(あかし)を築くすばらしい方法です。例えば，祈りの答えについて話すようにという促しを感じるなら，相手は自分の祈りが聞き届けられるという信仰が深まるでしょう。しかし，あなたの経験がまれなもの，あるいは個人的なことに深くかかわる霊的なものであれば，聖霊の勧めがないかぎり控える方が賢明と言えます。

十二使徒定員会会長であるボイド・K・パッカー会長は，次のように述べています。

「霊的に強い印象を残す出来事は，そう何度もあるわけではありません。多くの場合，霊的な経験は，わたしたちを教え導き，指示を与え，誤りを正すために与えられます。……

わたしはまた，特に霊的な体験を四六時中話すのは賢明なことではないと信じています。そういう体験は慎重に扱い，ほかの人々の祝福のために用いるようにと，御霊(みたま)自身のささやきがあったときだけに話すべきものです。……

わたしたちはこれらのことを心に留め，思い巡らす必要があります。」[1] ■

注

1. ボイド・K・パッカー「主のともしび」『聖徒の道』1983年10月号，40

---

## 時々神殿のガーメントについて尋ねられることがあり，時には敬意を欠いた言い方をする人もいます。そのような人には何と言えばよいでしょう。

まず初めに，神殿のガーメントについて敬意を欠いた言い方をする人がいる場合，もっと言葉遣いに配慮してもらえるように誠意をもって頼むことはとてもふさわしいことです。ガーメントはわたしたちにとって神聖なものだからです。

また，ほかの多くの宗教の会員や聖職者が，個人的な信仰や公式の職務を表すために特定の衣服を身に着けていることを挙げてもよいでしょう。そのように，わたしたちの宗教的な慣習として，特別な衣服を着ることはそれほど特殊ではないのです。

神殿のガーメントの重要性を説明するために，それは神殿の特別な儀式の一部として教会の成人会員に与えられた控えめでつつましい下着である，と言うこともできます。これらの儀式で，わたしたちはイエス・キリストが望んでおられるような生き方をしようと決意します。そして，ガーメントを身に着けることで，この個人的で霊的な決意をいつも思い出すことができるのです。このようにして，ガーメントはわたしたちを誘惑と悪から守る助けとなっているのです。■

十二使徒定員会
**M・ラッセル・バラード長老**

# 生活のバランスを保つ

*これから挙げる８つの提案は，重圧を感じることなく人生の多くの困難に立ち向かう助けとなるものです。*

日常生活の複雑で多様な困難に対処すること（これはたやすいことではありませんが），それがわたしたちの求めているバランスと調和を狂わせることがあります。多くの善良な人々は，一生懸命にバランスを保とうとしていますが，時折重圧を感じてくじけてしまいます。

人生で求められる事柄にバランスよく応じたいと考えている人々に役立つようにと願いつつ，幾つかの提案をしたいと思います。ここで提案することは，非常に基本的な事柄です。したがって，注意していないと，大切な概念を見逃しかねません。生活の中にそれらを取り入れるには，強い決意と自己訓練が必要です。

**1．優先順位を定める**

自分の人生について考え，優先順位を定めてください。定期的に静かな時間を見つけ，自分はどこへ行こうとしているのか，またそこへ行き着くためには何をしなければならないかを深く考えてください。わたしたちの模範であられるイエスは，しばしば「寂しい所に退いて祈っておられ」ました（ルカ５：16）。わたしたちも霊的な活力を取り戻すため，救い主が行われたと同様のことを時折行う必要があります。

毎日達成したいと思うことを書き留めてください。日々のスケジュールを書き留めるとき，まず主と交わした神聖な聖約を心に留めてください。

**2．達成可能な目標を定める**

達成可能な短期間の目標を定めてください。多すぎず少なすぎず，高すぎず低すぎない，よくバランスの取れた目標を定めます。自分が達成可能な目標を書き留めて，重要なものから順次努力していくのです。目標設定に当たっては，神の導きを祈り求めてください。

**3．賢明に予算を立てる**

人生ではだれもが経済的な問題に直面します。賢明に予算を立てることによって，真に必要なものを確認し，必要なものと欲しいものを注意深く区別してください。預言者ヤコブは彼の民にこう言っています。「それゆえ，価値のないものに金を使ってはならない。満足を得られないものに労力を費やしてはならない。」（２ニーファイ９：51）

常に完全な什分の一を納めるようにしてください。

**4．人間関係を築く**

両親や親戚，友人と親密な関係を築いてください。このような人々は，皆さんが生活のバランスを保つ手助けをしてくれます。率直かつ誠実にコミュニケーションを図ることによって，家族や友人と良い関係を築いてください。

良い家族関係は，優しさと愛と思いやりのあるコミュニケーションによって保つことができます。（相手に）ちょっと視線を向ける，ウィンクする，うなずく，あるいは体に触れるなどの行為が，しばしば言葉以上のものを伝えるということを覚えておいてください。ユーモアのセンスやよく耳を傾けることも，良いコミュニケーションにとってきわめて大切な要素です。

**5．聖文を研究する**

聖文を調べてください。聖文はわたしたちが主の御霊を受け続けるためになければならない最も必要な

イラスト／ケアリー・ヘンリー

ものの一つです。わたしがイエスはキリストであるという確かな知識を得た方法の一つは，聖文の研究でした。エズラ・タフト・ベンソン大管長（1899－1994年）とゴードン・B・ヒンクレー大管長（1910－2008年）は，モルモン書の研究を日々の習慣にし，それを生涯継続するようにと教会員に呼びかけました。

使徒パウロがテモテに与えた忠告は，わたしたち各人にとっても良い忠告です。彼はこう書き送っています。「聖書は，すべて神の霊感を受けて書かれたものであって，人を教え，戒め，正しくし，義に導くのに有益である。」（2テモテ3：16）

**6. 健康に気を配る**

わたしを含む多くの人が，十分な休養や運動，リラックスする時間を取れないでいます。健康でバランスの取れた生活をしたいと思うならば，日々のスケジュールにこれらを取り入れるようにしなければなりません。肉体的な健康があってこそ，威厳や自尊心が高められるのです。

**7. 福音に従って生活する**

預言者たちは，家族は互いに福音を教え合うように，できれば毎週の家庭の夕べでそうするようにと繰り返し教えてきました。十分に注意していないと，この家族の習慣は次第にわたしたちから離れていってしまいます。家族を永遠の命へと導く「王国の教義を教え〔合う〕」（教義と聖約88：77）この特別な機会を失ってはなりません。

サタンは常にわたしたちの証（あかし）を打ち砕こうとしています。しかし，わたしたちが福音を研究し，戒めに従って生活していれば，サタンはわたしたちの抗する力以上の力をもってわたした

ちを誘惑したり，妨害したりすることはできないのです。

### 8. しばしば祈る

最後の提案は，個人で，また家族でしばしば祈ることです。絶えず心から祈ることによって，毎日正しいことは何かを知って適切な判断を下すことができます。

預言者アルマは，祈りの大切さを次のような言葉で要約しています。「あなたがたは主の御前（みまえ）にへりくだり，主の聖なる御名（みな）を呼び，自分が耐えられないような誘惑を受けないように，目を覚ましていて絶えず祈りなさい。そのようにして，聖なる御霊の導きを得て，謙遜（けんそん），柔和，従順になり，忍耐強くなり，愛に富み，限りなく寛容になって〔ほしい。〕」（アルマ13：28）霊的に調和の取れた状態であれば，生活のあらゆる面でもっと楽にバランスを保てるということが分かります。

### 集中して最善を尽くす

これ以外にも提案したいことはあります。しかし，少数の基本的な目標に集中するとき，人生でわたしたちに求められる多くの事柄にもっと対処しやすくなると，わたしは信じています。覚えておいてください。何事も多すぎると，バランスを失ってしまいます。同時に重視するべきものが少なすぎても同じことです。ベニヤミン王はこう勧告しています。「これらのことはすべて，賢明に秩序正しく行うようにしなさい。」（モーサヤ4：27）

わたしたちの目指している方向と目標が明確でないと，しばしば，費やす時間と労力が無駄になり，生活のバランスが失われます。バランスの取れていない生活は，空気圧がばらばらな車のタイヤに似ています。そのような車は操作が不安定で，安全性に欠けます。タイヤのバランスが完全な車は，走りが滑らかで乗り心地も快適です。人生についても同じことが言えます。人生のバランスを保つように心がけていれば，この世での生活はもっと順調になります。わたしたちの主要な目標は，「不死不滅と永遠の命」を求めることでなければなりません（モーセ1：39）。これがわたしたちの目標であるとしたら，その目標に到達するのに役立たない考えや感情，エネルギーを要求して消費させる事柄を，なぜ自分の生活から取り除かないのでしょうか。

少し前のことですが，わたしの子供の一人がこう言いました。「お父さん，わたしはいつかそれができるかしら。」わたしが彼女にした返答を，皆さんにも伝えたいと思います。毎日，自分ができることに最善を尽くしてください。基本的な事柄を行ってください。そうすれば，気づかないうちに，皆さんの生活は霊的な理解力に満たされ，自分は天の御父から愛されているという確信が与えられるでしょう。このことが分かると，人生は目的のある意義深いものとなり，バランスを保ちやすくなります。■

*この話は1987年4月の総大会での説教をもとに書かれました。*

***少数の基本的な目標に集中するとき，人生でわたしたちに求められる多くの事柄にもっと対処しやすくなります。***

写真／スウェイ・チャベス。イラスト／スコット・グリアー

# 時間を賢明に使いましょう

*「自分の意志でたくさんの善いことを行う選択をしてください」*

（『若人の強さのために』〔2011 年〕，3）

# 選択の自由と責任

七十人
**シェーン・M・ボーエン長老**

ある年老いたチェロキー・インディアンが，孫に人生について教える話があります。老人は孫に「わたしの中で戦いが起きている」と語ります。

「それは悲惨な戦いで，2頭のオオカミの戦いだ。1頭は悪いオオカミで，怒り，ねたみ，悲しみ，後悔，貪欲，傲慢，自己憐憫，罪悪感，反抗心，劣等感，偽り，誤った誇り，優越感，そしてうぬぼれを表している。」

そしてこう続けます。「もう1頭は良いオオカミでな，喜び，平安，愛，希望，平静，謙遜，優しさ，善行，共感，寛容，真理，思いやり，そして信仰を表す。同じ戦いがお前の心の中でも，みんなの心の中でも起きているのだ。」

孫はしばらく考えて，祖父にこう尋ねます。「どっちのオオカミが勝つの？」

年老いたチェロキーは一言答えます。「お前が養い育てる方だよ。」

**選択の自由と前世**

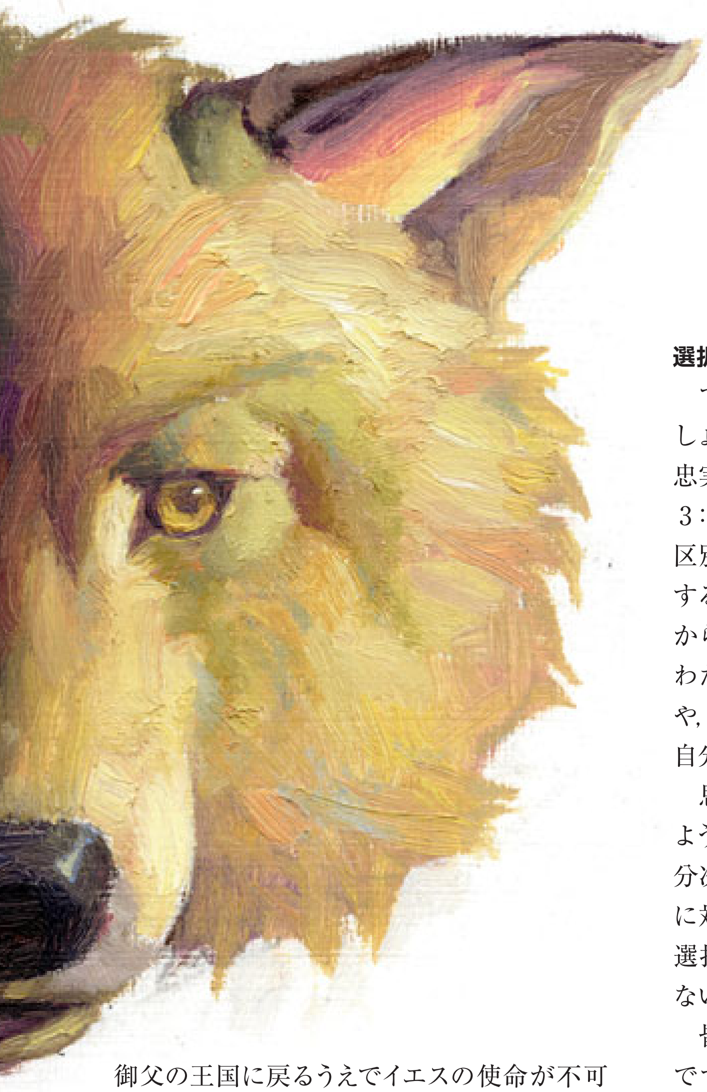
はるか昔，まだわたしたち全員が天父の御前にいたころ，大会議が開かれました。その会議の中で，御父は，御自分が享受しておられるのと同じ喜びや幸福をわたしたちにも味わってほしいという願いから，御自分の計画を提案されました。わたしたちがこの地上に来て肉体を得，人生の苦楽を経験するという計画です。わたしたちは戒めを守って御父のようになることも，戒めを守らないで約束の喜びや祝福を拒むことも選べました。

御父の計画の中心は，わたしたちが自由に選ぶという点にありました。この賜物は選択の自由と呼ばれ，選択する力です。選択の自由には必ず責任が伴います。わたしたちはそれぞれ自分の選びに対して責任があります。

天の御父が計画をだれによって実行しようかとお尋ねになったとき，ルシフェルは自分の提示する条件に従って全人類を贖う計画を提案しました。その計画では，選択の自由は与えられず，あらゆる栄光が彼に帰することになっていました。これは，神の永遠の幸福の計画を損なうものでした。

イエス・キリストは，御自身が御父の計画にある救い主になると申し出ました。御父の計画に従うことを選ばれたのです。わたしたちは長兄であるイエス・キリストを信じました。

イラスト／アレン・ガーンズ



御父の王国に戻るうえでイエスの使命が不可欠であることを知っていたからです。

さて，ルシフェルはどうなったのでしょうか。御父はこう言われました。

「あのサタンはわたしに背いて，主なる神であるわたしが与えた，人の選択の自由を損なおうとしたので，またわたしの力を自分に与えるように求めたので，わたしは独り子の力によって彼を投げ落とさせた。

そして，彼はサタン，すなわち，あらゆる偽りの父である悪魔となって，人々を欺き，惑わし，またまことに，わたしの声を聴こうとしないすべての者を自分の意のままにとりこにする者となった。」（モーセ4：3－4）

選択の自由が永遠の原則であり，天の御父でもそれに反することはできないため，御父は御自分の子供たちのうち，3分の1を失いました。彼らがサタンに従うことを選んだからです。

**選択の自由と現世**

では，この地上における人生の目的とは何でしょうか。一つの大切な目的は，わたしたちの忠実さを立証することにあります（アブラハム3：24－25参照）。わたしたちには善悪を区別する能力があります。「思いのままに行動することができ，強いられ……ない」力を神から与えられています（2ニーファイ2：26）。わたしたちは最終的に，自分が従った戒めや，受けた儀式，そして守った聖約に応じて，自分の望む王国を受けることになるのです。

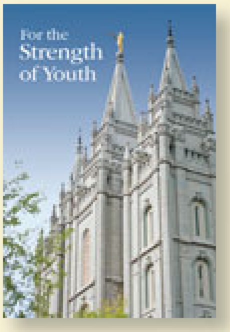
思慮深い，年老いたチェロキーが説明したように，どちらのオオカミを養い育てるかは自分次第です。人には選択の自由があり，選択に対する責任は本人にあります。人は自分の選択の結果を負って生きていかなければならないのです。

皆さんは気高い生得権を受け継いだ若者です。完全な福音がある時代にこの地上に送られてきました。皆さんはバプテスマと確認を受けているので，皆さんが望むなら聖霊を絶えず伴侶（はんりょ）とすることができます。皆さんはバプテスマの聖約を交わしました。若い男性はさらに，神権の聖約も交わしています。

皆さんには選択の自由があり，自らを清くふさわしく保ち，神の聖なる神殿に入って御父のみもとに帰るために必要な儀式を受けることで永遠の命を選ぶことができます。永遠の命の祝福を選んで，神がなされているのと同じ生活を，家族とともに永遠にすることができます。皆さんは，御父が持っておられるすべてを受け継ぐ可能性を秘めています。それを選ぶのは皆さんです。

神が与えてくださった選択の自由を賢明に行使しましょう。■

*今後も，新しくなった『若人の強さのために』の標準に関する記事を掲載します。*




**選択の自由に関する重要な考え方**

「自分の人生を自分で方向づける権利は，神があなたに授けてくださった偉大な賜物（たまもの）の一つです。……

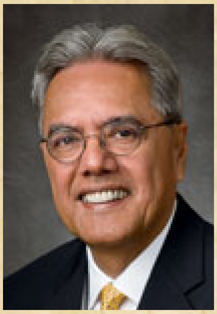
あなたは自分の選びに対して責任を取らなければなりません。……

どのような行動を取るか自由に選ぶことはできますが，その行動の結果を自由に選ぶことはできません。」

**『若人の強さのために』（2011年），2**

# 模　範
## による祝福

*友人たちがわたしに影響を与えたように，*
*皆さんも自分の生き方を通じて，友人の生活に福音の光をもたらすことができます。*



七十人
O・ビンセント・ハレック長老

最近，わたしは高校時代の友人を訪ねました。わたしたちは出会ったときのことや，福音に従って生活することで得ている喜び，そして友人が自分の人生に与える影響について話しました。実は，わたしが教会に入ったのも友人の模範のおかげです。

わたしがアメリカ領サモアを出て合衆国に初めて行ったのは，10 歳のときでした。子供たちには自分よりも高い教育を受ける機会を与えたいとわたしの父が望んだからです。最初は，ワシントン州シアトルでおじとおばと一緒に生活しました。14 歳になると，わたしはカリフォルニア州へ引っ越しました。当時一緒に住んだ祖母は，カリフォルニア州ロサンゼルス神殿の神殿ワーカーでしたが，わたしは教会員ではありませんでした。

高校 2 年生のとき，わたしは生徒会活動にかかわるようになり，生徒会のメンバーの中に，ほかの生徒とは明らかに異なる生徒がいることに気づきました。彼らがほかの生徒に敬意を示し，言葉遣いや服装がきちんとしていて，威厳と光に満ちていることがわたしの目に留まったのです。わたしたちは友達になり，彼らはミューチャルへ一緒に行こうと誘ってくれました。わたしはミューチャルの楽しくて健全な活動や，その場で感じる御霊を気に入り，定期的に出席するようになりました。数週間もたたないうちに，友人たちはわたしに宣教師とモルモン書を紹介してくれました。間もなくわたしはバプテスマを受け，一生涯にわたるモルモン書の研究が始まりました。

友人たちはテモテへの第一の手紙第 4 章 12 節に書かれている勧告に従っていました。「言葉にも，行状にも，愛にも，信仰にも，純潔にも，信者の模範になりなさい。」わたしの友人たちのように，わたしたちも日々福音に従って生活することで良い影響を与えることができます。わたしたちの生活が自分の標準や信仰を反映したものであれば，福音を受け入れる備えのできている人々はそれに気づき，もっと知りたいと思うようになることでしょう。

例えば，モルモン書の中のアルマの物語を思い出してみましょう。アルマはノア王の宮廷で祭司として不自由のない生活を送っていました。ところがアビナダイが証をしたとき，アルマはその言葉を信じ，自分の身に危険が及ぶのも顧みずにアビナダイの言葉を記録し，ほかの人々に救い主について教えたのです（モーサヤ 17：2 – 4 参照）。

「さて，多くの日の後，アルマの言葉を聞くためにモルモンの地に集まった人々は，相当な数に上った。まことに，彼の言葉を信じた人々は皆，彼の語ることを聞くために集まった。そこで彼は，これらの人々を教え，悔い改めと贖いと主を信じる信仰とを説いた。」（モーサヤ 18：7；1 – 6 節も参照）

後に，息子アルマが教会に対して様々な問題を起こしたとき，一人の天使がアルマの祈りにこたえました。「主は，御自分の民の祈りと，御自分の僕であり，またあなたの父であるアルマの祈りを聞かれた。あなたの父が，あなたが真理の知識に導かれるように，深い信仰をもってあなたのことを祈ってきたからで

左――「ノア王の前に立つアビナダイ」アーノルド・フライバーグ画 © IRI 1951年。右――「モルモンの泉でバプテスマを施すアルマ」アーノルド・フライバーグ画 © IRI 1951年

ある。」（モーサヤ27：14）　息子アルマと友人たちは悔い改めて，偉大な宣教師となり，その良い模範によって数千という人々の人生に影響を及ぼしました。

***息子アルマと友人たちは偉大な宣教師となり，その良い模範によって数千という人々の人生に影響を及ぼしました。***

「このようにして，彼らは神の手に使われる者となって多くの人を真理の知識に導き，まことに，贖い主について知らせた。

何と彼らは祝福されていることか。彼らは平和を告げて広め，善のよきおとずれを告げて広め，主が統治しておられることを民に告げ知らせたからである。」（モーサヤ27：36－37）

わたしの友人たちは，伝道に出ることを選ぶことでもわたしに良い模範を示してくれました。そのおかげで，いささかの反対はあったものの，わたしも伝道に出たいと決意できたのです。その決意は，その後の人生を形造ってきました。わたしがサモア・アピア伝道部で奉仕をしていたころは宣教師たちが神権指導者の責任の大半を担っていて，島々の教会が強められる必要があることが分かりました。そこで，わたしも自分の責任を果たすこと，すなわち伝道を終えて学校を卒業したらサモアに戻ることを決意しました。

大学を卒業したわたしは，妻と一緒にサモアに戻りました。そこでわたしたちは子供を育て，教会や地域社会を強めるために働いたのです。父は教会員ではありませんでしたが，地域のビジネスや地域活動には積極的にかかわっていました。父は「やる価値のあるものなら，すぐにやれ」という言葉をモットーとしていました。自分も自分の兄弟姉妹も福音を見いだし，最善を尽くして福音に従った生活をしようとしていたため，父もわたしたちの生活が良い方に変わってきていることに気づいたのです。2000年，ゴードン・B・ヒンクレー大管長（1910－2008年）が，フィジー・スバ神殿の奉献式からの帰りに父の家に泊まることになりました。その滞在の間，御霊が父の心に触れ，わたしは父にバプテスマを施す特権に恵まれました。父が82歳のときのことでした。父は福音に大いなる喜びを見いだし，晩年は福音を恥とすることなく，大胆にほかの人々に紹介したのでした。

わたしは信者の模範になることの重要性も，また福音が自分やほかの人々の生活にもたらす幸福についても知っています。友人たちの良い模範や預言者の愛があったからこそ，わたしも家族も，福音のもたらす喜びの祝福を受けたのです。

毎日，わたしたちは自分の行動によってほかの人々に影響を与えています。ほかの人々に手を差し伸べて，次の聖句の真理について分かち合い，彼らの生活に幸福がもたらされるようにしましょう。「覚えておきなさい。あなたたちは，神の御子でありキリストである贖い主の岩の上に基を築かなければならないことを覚えておきなさい。そうすれば，悪魔が大風を，まことに旋風の中に悪魔の矢を送るときにも，まことに悪魔の雹と大嵐があなたたちを打つときにも，それが不幸と無窮の苦悩の淵にあなたたちを引きずり落とすことはない。なぜならば，あなたたちは堅固な基であるその岩の上に建てられており，人はその基の上に築くならば，倒れることなどあり得ないからである。」（ヒラマン5：12）■

イラスト／ジェリー・トンプソン© IRI

# 最強の軍隊

*わたしは軍隊の将校になるつもりでした。しかし，将来について考えたとき，母の次のような質問を思い出しました。「いつ専任宣教師になるつもりなの？」*

**H・ダニエル・ウォルケ・カナレス**

小さいころから，服役したことのある教会の指導者の話に引きつけられました。その多くが戦中の英雄で，母国では武勇と謙虚さの偉大なる模範となっていました。わたしが自国の軍隊に入ろうと思ったのは，彼らの経験談に啓発されたからでした。

13歳のとき，厳しい軍の規律と歩兵訓練で知られている学校に入学しました。カリキュラムは密度の濃いものでした。一日の終わりには疲れ切ってしまい，聖典学習やセミナリーの出席は不可能であると思えることがよくありました。

2年生になるまでに，わたしは人生の計画を立てました。それは18歳で学校を卒業した後そのまま士官学校に進み，4年後の卒業時にはグアテマラ軍隊の将校になるというものでした。わたしの望みや夢は実現しそうでした。

ある日，母に自分のライフプランを告げると，母は「いつ専任宣教師になるつもりなの？」と聞いてきました。その日から，自分の将来について考える度，わたしの心の中で母の質問が引っかかりました。

まだ厳密なカリキュラムがあったのですが，自分の霊的な訓練にももっと関心を示すようになりました。わたしはセミナリーに参加し，専任宣教師とともに働き，教会の活動に参加するようになりました。専任宣教師として奉仕している兄のアドバイスに従って，モルモン書も読み始めました。

落下傘部隊員になるための訓練をしているとき，毎日とても緊迫感のある訓練をしていたので，兵舎にはほとんど這（は）って戻るような状態でした。しかし，必ずモルモン書を読む気力を見いだしていました。聖文を毎日読むことで霊は強められ，訓練を続ける力となりました。

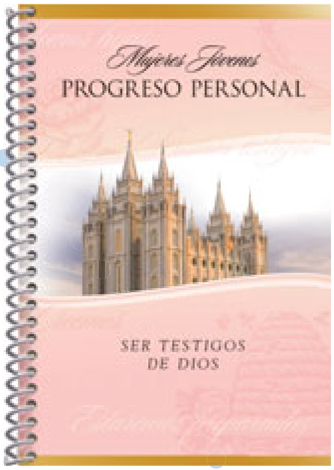
ある晩，友達の何人かがわたしのベッドの周りに集まって，モルモン書や知恵の言葉について幾つか質問をしてきました。それはモルモン書に対する堅固で確固とした証（あかし）を通して，真理を守り，自由をもたらす最も優れた兵士となる機会となりました。

19歳になったとき，わたしは再び軍隊に入隊しました―あらゆる軍隊の中で最強である，神の軍にです。メキシコ，プエブラ伝道部部隊のシオンの勇敢な長老や姉妹たちとともに肩を並べ，わたしは専任宣教師になるという特権にあずかりました。神の武具を身に着け，わたしたちは勇気と強さをもって福音を宣言し，自由のために戦いました。

わたしたちは暗闇の大群と闘っていますが，勝利は神のものです。わたしは王のための士官兵，勇敢な軍人であり続けたいと思っています。わたしたちには強力な武器があります。それはモルモン書，聖霊，そして完全な福音です。わたしたちは生ける預言者によって勝利へと導かれています。訓練し，救い主イエス・キリストの訪れに備えるなら，主は日の栄えの栄光の冠をわたしたちに与えてくださるでしょう。■

イラスト／スコット・グリアー

# わたしたちのスペース




## 「成長するわたし」の祈り

アマリア・カミラ・ウィルト

両親はこれまでずっと祈るようにと教えてくれていましたが，成長するに従って，個人の祈りは夜だけになりました。若い女性になるまではそれで十分だと思っていました。

『成長するわたし』の冊子をもらったとき，すべての徳質に目を通してみました。その中で特にわたしの注意を引いた箇所がありました。「信仰　徳質の必修体験」のところに「朝の祈りと夜の祈りを定期的に行う」必要があると書かれているのです。「どうして朝も祈る必要があるのかしら」と思いました。「わたしには無理だわ。」

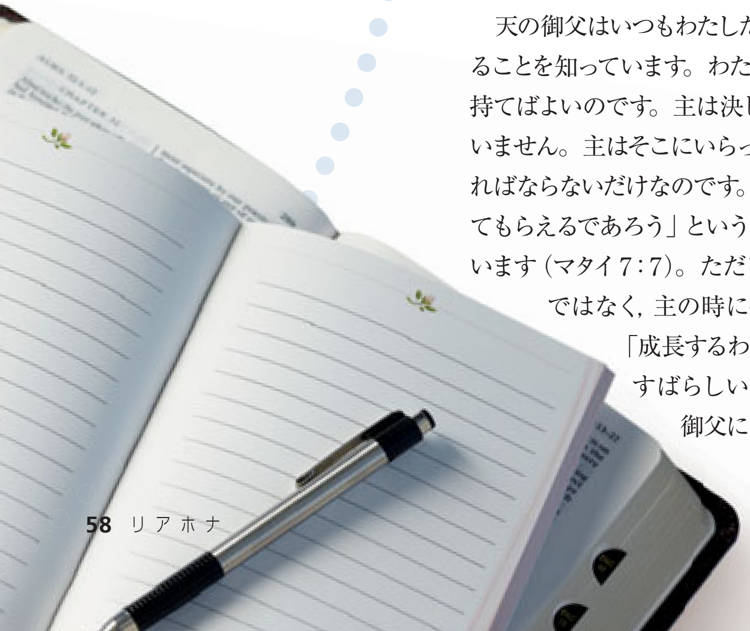
時がたっても，わたしはその目標を達成していませんでした。でもわたしはたとえそれが難しくても，主を信頼して行おうと決めました。

最初は何も変わっていないように思いました。しかし，わたしの中で何かが変わり始めました。わたしがすることすべてにおいて自信が持てるようになってきたのです。家族とのささいなけんかがなくなりました。教会に行くために早く起きたとき，疲れを感じませんでした。その代わり，教会に行きたいという気持ちが強くなったのです。

自分がしなくてはならないことをすべて成し遂げるためには，十分な時間がないと思える日がありました。その日，目が覚めてから―確信はありませんでしたが―何か変化があるようにと祈りました。その日，びっくりするようなことが起こりました。しなければならないことをすべてやり遂げることができたのです。完全に主に頼らなかった自分を恥ずかしく思いましたが，主がわたしの祈りを聞いてくださったことがとてもうれしかったです。

今では毎朝毎晩お祈りしています。そしてわたしの生活はほんとうに変わりました。

天の御父はいつもわたしたちの祈りを聞き，こたえてくださることを知っています。わたしたちはただ天の御父に信仰を持てばよいのです。主は決してわたしたちを見捨てたりなさいません。主はそこにいらっしゃいます。主に立ち返らなければならないだけなのです。「門をたたけ，そうすれば，あけてもらえるであろう」という約束が真実であることを知っています（マタイ7：7）。ただひざまずいて，祈り，自分の時にではなく，主の時に信仰を持つ必要があるのです。「成長するわたし」のプログラムや祈りというすばらしい贈り物を与えてくださった天の御父に感謝しています。



## わたしの好きな聖句

**教義と聖約64：10**

わたしたちは皆間違いを犯すので，この聖文が好きです。イエス・キリストを除いて，完全な人はだれもいません。したがって，間違いを犯すときにお互いを赦(ゆる)し合うことを学ぶべきです。

セドリック・G，16歳
（フィリピン，ルソン）

## 体験談をお寄せください

『若人の強さのために』に書かれている標準に従うことで得た経験がありますか。

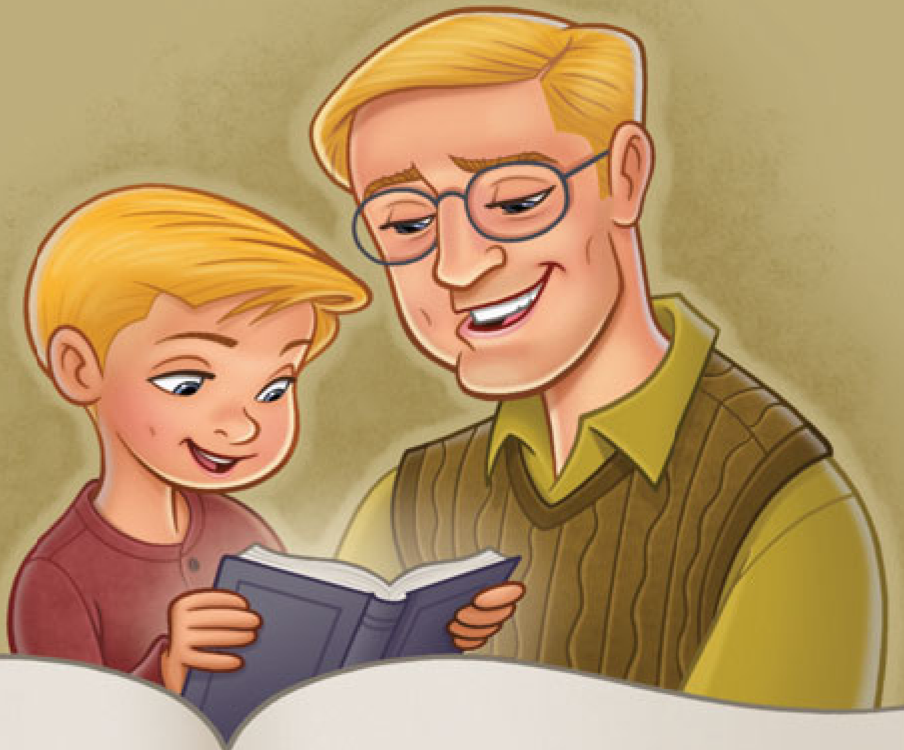
- 音楽とダンス
- 身体の健康
- 悔い改め
- 安息日を守る

タイトルを『若人の強さのために』として，体験談を liahona.lds.org にお寄せください。または liahona@ldschurch.org に電子メールで送ってくださってもけっこうです。電子メールの場合は，氏名，生年月日，所属ワード／支部，ステーク／地方部，および保護者の同意文（電子メール可）を添えてください。

本の写真／ロバート・ケーシー，コーディ・ベル

七十人
ラリー・R・ローレンス長老

*「わたしニーファイは善い両親から生まれたので，父が学んだすべてのことの中からいくらかの教えを受けた。」（1ニーファイ1：1）*



# 読み方を習う

6才のとき，わたしは読み方を習うのに苦労していました。先生はもう一度1年生をやり直す必要があると言いました。父はこれを聞いて心配し，それから毎晩夕食後，わたしと一緒に読み方の練習をしてくれました。わたしがあきないように教材でゲームを作ってくれました。間もなく，見れば単語が分かるようになってきました。父はわたしにごほうびをくれ，はげましてくれました。わたしと父は何時間も一緒に読み方の練習をしました。そのおかげでだんだん読む力がついてきました。

先生はわたしを2年生に進級させることにしました。父はわたしをがんばったねとほめてくれました。また，いつもわたしが学校で学び成長することに関心を寄せてくれました。クリスマスにはわたしが喜びそうな本を買ってくれました。

高校を卒業してから数か月後，父はがんでなくなりました。わたしが大学や医学部を卒業した姿を見てもらえませんでしたが，生前，わたしが読書を大好きになったことを父は知っていました。父はそのことに大満足でした。

家族もわたしも教会の会員ではありませんでした。医学生だったある日，わたしは *A Marvelous Work and a Wonder*（『不思議な驚くべきわざ』）という本を借りました。リグランド・リチャーズ長老という十二使徒が書いた本です。その本には，末日聖徒イエス・キリスト教会のことについて書かれていました。わたしはその本を何度も何度も読みました。この本を研究し，いのってみました。この本のおかげでわたしは準備され，数か月後にバプテスマを受けたのです。

バプテスマを受けた後，神殿に行って，父のために身代わりのバプテスマを受けることができるのだと知りました。父のおかげでわたしの人生は変わりました。父がわたしにしてくれたあらゆることに感謝を示すために，やっと何か特別なことをすることができました。

わたしは今も読むことが大好きです。わたしが聖文を読んだり預言者の言葉を読むたびに，父がくれたおくりものは毎日わたしの生活を祝福してくれています。■

イラスト／ジェレド・ベックストランド

# お友達

## 宣教師

ジェーン・マクブライド・チョート

実話をもとに書かれました。

*「キリストのもとに来るように*
*すべての人を招〔く〕」*
*（教義と聖約 20：59）*

アレックスが友人のジェークに，土曜日に自分の家に来て遊ばないかと聞きました。二人がレーシングカーで楽しく遊んでいるとき，かべにかかっている写真がジェークの目に留まりました。

「あれはだれ？」と，ジェークがトーマス・S・モンソン大管長の写真を指さして言いました。

「モンソン大管長だよ」とアレックスは答えました。

ジェークは何も言いません。

アレックスは続けます。「ほら，ぼくたちの教会の預言者だよ。」

ジェークははずかしそうに「ぼくたちはもう教会へは行っていないから」と言いました。

「どうして行かなくなったの」とアレックスがたずねます。

ジェークはかたをすくめて言いました。「分かんない。」

「日曜日，ぼくと一緒に行かない？初等協会に一緒に行こう。すごくいい先生なんだ」とアレックスが言いました。

イラスト／ランス・フライ

ジェークは目をかがやかせながら，「お母さんに聞いてみなきゃいけないけど，いいって言うと思うよ」と，言いました。

アレックスは昼御飯のとき，お母さんに聞きました。「あしたの初等協会にジェークも一緒に行ってもいい?」

「ジェークのお母さんに聞いてみなきゃね」とお母さんは言いました。「もしいいって言ったら，もちろん一緒に行けるわよ。」

それからしばらくして，ジェークのお母さんがジェークをむかえに来ました。

「あしたジェークと初等協会に行ってもいいですか」とアレックスが聞きます。

「お母さん，いい?」とジェークも言います。「アレックスがね，初等協会はすごく楽しいって言うんだ。お話を聞いたり，歌を歌ったり，聖典に出てくる人たちのことも勉強したりするんだって。」

「どうかしらね。もうしばらく教会に行ってないから」とジェークのお母さんは困った顔でそう言いました。

「お母さん，お願い。ぼく行きたいんだ」とジェークが言います。

「ジェークが一緒に行けたらうれしいわ」とアレックスのお母さんが言いました。

「ほんとうに行きたいの?」とジェークのお母さんが聞きます。

「もちろんだよ」とジェークが答えました。

「なら，いいんじゃないかしら。」ジェークのお母さんは言いました。

ジェークはお母さんをきゅっとだきしめると，「ありがとう」と言いました。

日曜日の朝，アレックスの家族がジェークをむかえに行きました。ジェークはきちんと教会用の服を着ていました。聖餐会の後，二人は初等協会へ行きました。教室に入ると先生が言いました。「ジェーク，来てくれてとてもうれしいわ。」

教会の後，アレックスの家族はジェークを家に送りました。

「教会に連れて行ってくれてありがとう。」ジェークが言います。

アレックスのお母さんはほほえんで言いました。「どういたしまして。また一緒に行けたらうれしいわね。」

その晩，夕食の席でアレックスが言いました。「次の日曜日もジェークを教会にさそってもいいかな。」

お母さんはうなずいて言いました。「お母さんもアレックスを見習って，ジェークのお母さんに一緒に教会に行かないかってさそってみるわね。」

「アレックスはいい宣教師だな」とお父さんが言いました。

アレックスはおどろいて言いました。「ぼくはただジェークの友達ってだけだよ。」

するとお母さんが言いました。「宣教師ってそういうことなのよ。良い友達になるっていうことなの。」■

「わたしたちが気にかけ，愛している人々と，自然に，また普通に福音を分かち合うわざは，生涯のわざであり，喜びです。」

**七十人　デビット・F・エバンズ長老**
**「その価値があったでしょうか」**
**『リアホナ』2012年5月号，107**

# わたしたちのページ

ニコラス・M，5才（コロンビア）

せいさんかいの　はっぴょうの　じゅんびをする　子どもたち，
メキシコ・グアダラハラ・ミラドールステーク，　ラ・ウエルタワード。

「えいえんの　かぞく」
ニコル・M，
5才（ブラジル）

「そうぞう」
メラニー・M，
6才（ブラジル）

「しれいかんモロナイ」
エズラ・B，9才（フィリピン）

グアテマラに　すむ　5才の　アロンドラ・Eは
しょとうきょうかいが　大すきです。
「かみの子です」という　さんびかが　大すきです。
アロンドラは　天の　お父さまに　あいされていることと，
教会が　しんじつであることを　知っています。
『リアホナ』の　子どもの　ページも　大すきです。

# 総大会を指折り数える

下にある細長い紙を切り取って，はしをのり付けしてくさりを作ることで，みなさんも総大会の準備ができます。総大会の2週間前から毎日，くさりから一つの輪を取って，そこに書かれてあることを行います。くさりが短くなるにつれ，総大会は近づきます。

1. リーハイが利用したリアホナ（羅針盤）について読んでみましょう（1ニーファイ16：10，28，29，アルマ37：38－40参照）。預言者の言葉は，今日の家族にとって，リアホナとどんな点で似ていますか。
2. 預言者と使徒の写真を『リアホナ』5月号または11月号，あるいはlds.org/church/leadersから見つけて，名前を覚えましょう。
3. 初等協会で預言者についてお話しするようにたのまれた，と想像してみてください。何を話しますか。
4. 賛美歌「感謝を神に捧げん」を歌いましょう（『賛美歌』11番）。
5. 総大会でほかに福音のどんな教えを学びたいですか。何をききたいかを箇条書きにしておきましょう。
6. 総大会の間，集中してみたまの導きを受けられるようにいのりましょう。お話をする教会の指導者たちのためにいのることもできます。
7. なぜ総大会を楽しみにしているかを，両親や家族に話しましょう。
8. ベニヤミン王がたみに語ったことを読みましょう（モーサヤ2：1，5，9，41参照）。この集会と総大会はどこが似ていますか。
9. 聖典に出てくる好きな預言者の顔をかきましょう。
10. 総大会でのお話を書きとめたり，絵をかいたりするための日記を作りましょう。lds.org/general-conference/childrenから総大会ノートを印刷することもできます。
11. 「預言者にしたがおう」を歌いましょう（『子供の歌集』58－59）。
12. 4ニーファイ1：12－13，16の義にかなったニーファイ人について読みましょう。かれらはともに集ったとき何をしましたか。
13. 今月号の60ページにある「お友達宣教師」のお話を読みましょう。
14. 「生ける預言者と使徒の言葉に耳をかたむけ，その勧告に従うなら，みなさんは道に迷うことはないでしょう」というM・ラッセル・バラード長老の教えについて話し合ってみましょう（「彼の言葉を受け入れなければならない」『リアホナ』2001年7月号，81）。

イラスト／ブラッド・テアー

今月の　しょとうきょうかいの　テーマについて　もっと　学ぶために
この　レッスンと　かつどうを　つかうと　よいでしょう。

# じっかいは かみと　その子どもたちを あいすることを　教えてくれます

いそがしい　一日でした！　お友だちが，　あなたの　しゅくだいを　うつしても　いいかと　聞いて　きました。　あなたは　正直で　いたいので　それは　できないけれど　しゅくだいするのを　手つだうよ，と言いました。

学校からの　帰り道，　きんじょの　人が　にわで　とれた　やさいを　大きな　かごに　入れて，　それを　もち上げるのに　くろうしているのを　見かけました。　早く　家に　帰りたかったのですが，　かけよって，　かごを　家の　中に　はこぶのを　手つだいました。

夕ごはんの　後で　お父さんが　算数の　しゅくだいを　するように　言いました。　算数は　むずかしくて　やりたくなかったけれど，　お父さんに　したがおうと　きめました。

ねる前に　つかれていたけれど，　ひざまずいて　天の　お父さまに　しゅくふくを　かんしゃしました。

このような　よい　けつだんを　すると，　じっかいに　したがっている　ことに　なると　知っていましたか。　エジプトから　のがれた　イスラエル人には，　しゅの　みちびきが　ひつようでした。　しゅは　よげんしゃモーセを　通して，　正しい　生活を　するのに　ひつような　10の　大切な　いましめを　おあたえに　なりました。

**歌と　せいく**

- 「いましめをまもる人を」『子供の歌集』68－69
- 教義と聖約42：29

じっかいという　その　いましめは，　かみを　うやまい，　正直で　あるように，　また，　りょうしんを　うやまい，　あんそく日を　きよく　たもち，　よい　となり人で　あるように　教えています。　これらの　りっぽうは　何千年前と　同じように　今でも　大切です。　しゅの　いましめに　したがうとき，　かみを　あいし，　うやまうと　同時に　まわりの　人を　あいし　親切に　することも　学びます。■

イラスト／スコット・グリアー

**じぶんでやってみよう**

じっかいは　出エジプト記　だい20しょうに　あります。　10　ぜんぶを　数えられますか。　えんぴつで　ぜんぶに　しるしを　つけても　いいでしょう。

## CTRのかつどう――いましめを　まもって　生活する

じっかいは　その　ないようから，つぎの　3つの　グループに　分けることが　できます。（1）かみを　あがめる，（2）りょうしんや　かぞくを　うやまう，（3）ほかの　人を　うやまう。

下にある　3つの　ラベルを　切りとりましょう。びんや　ふくろに　はったり，つくえに　おいたりしても　よいでしょう。1週間の　中で　かぞくじしんが　いましめに　したがって　した　よい　行いや，ほかの　人が　した　よい　行いを　かぞくに　書いて　もらいましょう。たとえば，おいのりのとき　けいけんに　したことや，おにいさんが　ごはんの　したくを　手つだったことなどを　書いては　どうでしょうか。

書いて　もらったことを　読み上げ，それが，3つの　うち　どの　グループに　当てはまるかを　かぞくで　えらびましょう。そして　その　紙を，じゅんびしておいた　びんや　ふくろに　入れたり，つくえに　ある　ラベルの　となりに　おいたりしましょう。　ほかの　紙に　書かれたことも　読み上げて，正しく　グループ分けを　しましょう。2つ　いじょうの　グループに　当てはまる　ものも　あるでしょう。

**かみを　あがめる**

**りょうしんと　かぞくを　うやまう**

**ほかの　人を　うやまう**

教会機関誌
チャド・E・ファレス

# こんにちは！ ウクライナのキエフに住んでいる，ティモフェイです。

学校で３人の友達に
神様を信じているかどうか
聞いてみました。
みんな信じていると
答えていました。
自分も信じていると
伝えました。
友達を神殿の
オープンハウスに
招待したら，
「分かった。行くね」と
言ってくれ
ました。

6才のティモフェイは，ウクライナの首都キエフに住んでいます。キエフはウクライナで最初の神殿が建った所です。ティモフェイは新しい神殿やほかのいろいろなことでわくわくしています。前歯が２本ぬけたときは特にうれしかったです。１本はお父さんがおばあちゃんの家でぬいてくれて，もう１本は，自然にぬけました。

写真／チャド・E・ファレス

今年は空手を習い始めました。
お父さんとお兄ちゃんたちも
空手を習っているからです。
強くこぶしをつき出すことや，
自分の身を守ること，
それに重い物を持ち上げる方法を
教えてもらいました。

お兄ちゃんとぼくは
ブロックで
家や車，小さな人を
作るのが好きです。

お兄ちゃんたちは
神殿のオープンハウスで
奉仕をしました。
ぼくも神殿で奉仕がしたかったけれど，
子供なのでできませんでした。
みんなと一緒に
２回神殿の中に入りました。
すばらしかったです。

夏の間，２人のお兄ちゃんが
サッカーを教えてくれました。
フィールドを走ったり，
ゴールを守ったりすることを教わりました。
お兄ちゃんたちは大きいけれど，
ぼくはお兄ちゃんやその友達と
一緒に遊びます。

ぼくはミニカーが好きです。
金属でできているので，
こわれたり曲がったりしません。
ずっと前から持っているけれど，
ほとんど傷もありません。

夜はおもちゃと一緒にねるのが好きです。
お兄ちゃんたちがねた後も，
ぼくは少しだけ自分のおもちゃで
遊びます。

# ニーファイ人をおとずれられたイエス様

ダイアン・L・マンガム

ニーファイの地は3日間深い暗やみでおおわれ，太陽の光は一筋も見えず，星のまたたきもありませんでした。辺りは真っ暗で，ろうそくの光一つありませんでした。

おびえるニーファイ人の耳には雷鳴が聞こえてきました。おそろしいあらしの気配もして，地震で地がゆれ動くのも分かりました。暗やみの中で多くの人々が泣きさけび，うめき声を上げていました。預言者ニーファイの教えに従いくい改めておけばよかったと，人々は後悔しました。

すると突然この地の全面で次のような声が聞こえました。「見よ，わたしは神の子イエス・キリストである。わたしは天地とその中にある万物を創造した。わたしは初めから父とともにいた。」

イエス様は，ご自分がこの世を罪から救うために地上に来たと言われました。主はその命を投げ出し，今や復活されたのです。そしてくい改めて救いを得るようにと，すべての人を招かれました。

イエス様の声を聞いておどろいたニーファイ人は，長い間静かにすわりこんで，自分たちが耳にしたことについて思いをめぐらしていました。

朝になると光がもどって来たので，人々は喜びました。多くの人々がバウンティフルの地にある神殿の周りに集まり，自分たちの身の回りに起こった不思議な出来事について話し合っていました。すると天から静かな声が聞こえてきたではありませんか。その声は，かれらの心を燃え上がらせましたが，その言葉の意味を理解することはできませんでした。

再びその声が聞こえてきましたが，かれらはまだその言葉を理解できませんでした。

3度目にその声がしてこのように言いました。「わたしの愛する子を見なさい。わたしの心にかなう者である。わたしはかれによって，わたしの名に栄光を加えた。かれに聞きなさい。」

人々が空を見上げると，天からイエス

## めんどりがひなを集めるように

イエス様はニーファイ人たちに，めんどりが羽の下にひなを集めて守るように，ご自分もかれらを集めようとしたことをお伝えになりました。そして，すべての人を愛しており，かれらを見守り，保護したいと思っていると言われたのです。

「あなたが知ることができるように」ゲリー・カップ画 ©2004年，複写を禁ずる フォトイラスト／ジェド・A・クラーク

様がくだって，自分たちのすぐそばにお立ちになりました。ニーファイ人たちは地にひれふしました。イエス様が十字架にかけられ，復活した後自分たちのところに来られる，という預言者たちの言葉を思い出したからです。

イエス様は，エルサレムで十字架にくぎで打ちつけられたときの傷あとが分かるように，すべての人にご自分の両手，両足にふれることをお許しになりました。自分の目で見，くぎのあとにふれた人々はみな，そのお方が復活された救い主であられることを知り，「ホサナ」とさけんで，主を礼拝しました。

イエス様は，預言者ニーファイにご自分のもとに進み出るように命じられました。そしてニーファイと11人のただしい人々に，ご自分が天にもどった後，人々を教え導きバプテスマをほどこす権能をおあたえになりました。この12人は，新世界におけるイエス・キリストの教会の弟子となったのです。■

*第三ニーファイ第8－12章から。*

## ニーファイ

モルモン書の中にはニーファイという名前の預言者が4人登場します。復活されたイエス様に会い，弟子となったニーファイは，リーハイのむすこのニーファイから600年後の人です。

# おうちで　ひらいた しょとうきょうかい

トライン・パクストン

じつわを　もとに　かかれました。

1. にちようびの　あさ　ごはんを　たべようとした　ソフィーは　ぐあいが　よく　ありませんでした。

2. すると，　ソフィーは　なきだして　しまいました。

3. かなしくなって　じぶんの　へやに　もどった　ソフィーは，あたまから　もうふを　かぶりました。　すると，　いい　かんが　えが　うかんできたでは　ありませんか。

4. ソフィーの　きょうだいたちが　きょうかいに　いく　じゅんびを　している　あいだに，　ソフィーも　にちようびに　きていく　ふくに　きがえました。　そして，　にんぎょうや　ぬいぐるみも　きれいに　おめかしして，　おうちの　しょとうきょうかいに　しゅっせき　できるように　してあげました。

イラスト／スコット・ペック

5. かぞくが　きょうかいに　でかけたあと，ソフィーは　おかあさんと，かぞくが　よく　あつまる　へやで　しょとうきょうかいを　ひらく　じゅんびを　しました。かべに　テープで　イエスさまの　えを　はり，ほんだなから『こどもの　かしゅう』を　もってきました。それから，クレヨンと　せいてんも　じゅんびしました。

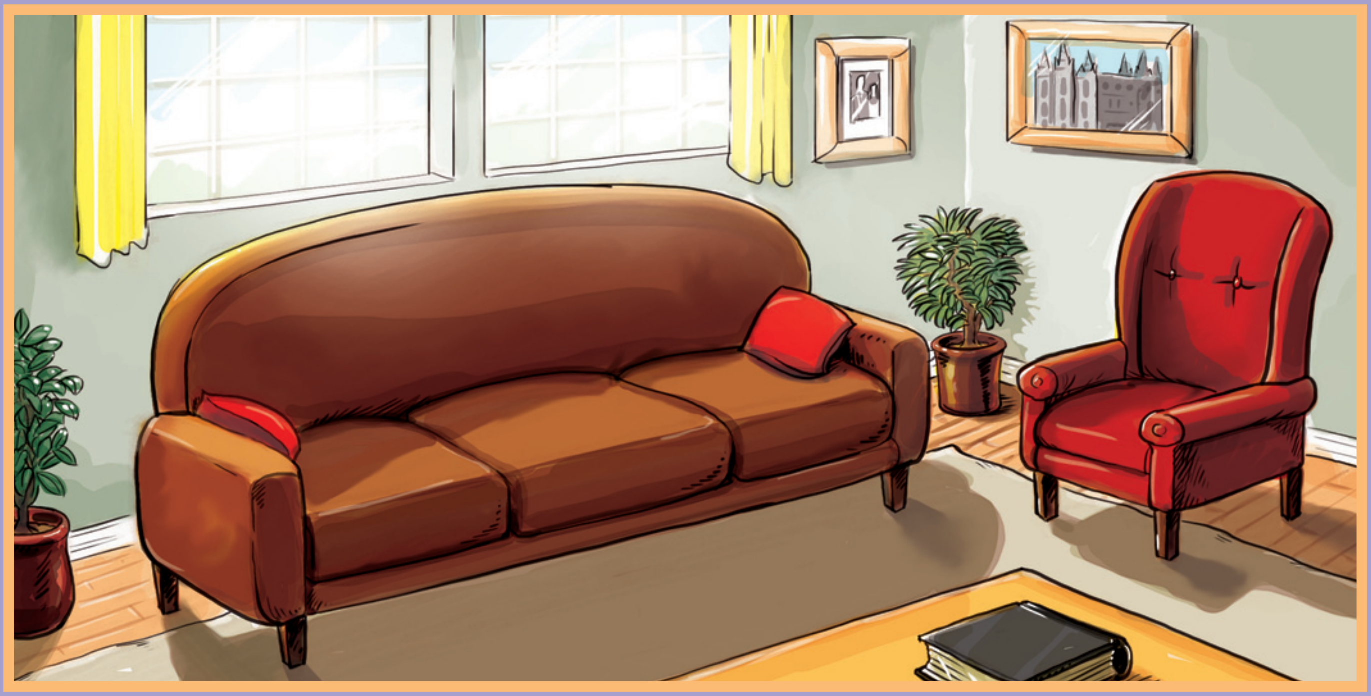
6. ソフィーは　にんぎょうや　ぬいぐるみと　いっしょに　ソファーに　すわりました。おかあさんが　かいかいの　おいのりを　してくれました。それから　ふたりで「かみのこです」と「しんでんに　いきたいな」を　うたいました。

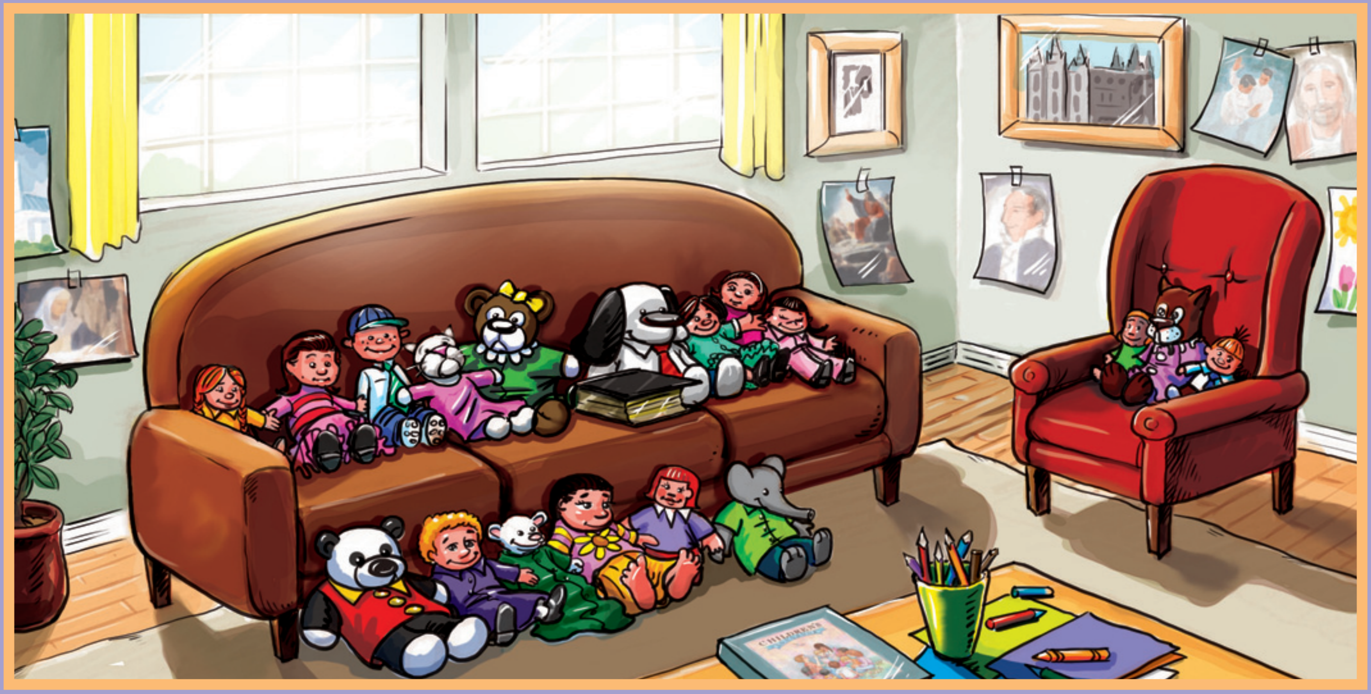
7. おうちで　しょとうきょうかいが　ひらけて，ソフィーは　うれしくて　たまりませんでした。にんぎょうや　ぬいぐるみも　しずかに　すわって　いました。

8. しょとうきょかいが　おわると，おひるねを　するようにといって，おかあさんは　ソフィーを　ベッドに　ねかせて　くれました。

## おなじものは　どれかな？

ソフィーが　びょうきで　しょとうきょうかいに　いけないときに，　ソフィーと　おかあさんは　へやで　しょとうきょうかいに　にたことを　することにしました。ふたつの　えの　どちらにも　あるものを　みつけてください。





イラスト／スコット・ペック

イラスト／バル・チャドウィック・バグレー

バル・チャドウィック・バグレー

この ちょうろうは， せんきょうしとして 天の お父さまに つかえて， 家に 帰って 来た ところです。絵の 中から つぎの ものを 見つけてください。やきゅうの ボール， 本， おわん， ちょうちょ， 車， クレヨン， カップ， ほねつきの肉， ふうとう， フォーク， ゴルフクラブ， かなづち， たこあげようのたこ， ナイフ， はしご， 絵ふで， えんぴつ， 紙， ものさし， ねじまわし， いっそくのくつした， スプーン， テント， ハブラシ， かさ， 一切れのすいか。

# 教会の**ニュース**

*教会のニュースおよび出来事についてもっとお知りになりたい方は news.lds.org にアクセスしてください。*

写真／エボン・イニア・タウファガ

## 世界中の扶助協会の姉妹たちが祝う創立170周年記念

教会のニュースと出来事
**ロク・イー・チャン**

扶助協会の創立170周年を記念して，世界中の姉妹たちが奉仕活動や，扶助協会での他の活動に活発に参加している。

2月に中央扶助協会会長会は全世界の姉妹たちへ向けてメッセージを送り，創立を記念するための8つの継続的な活動の例を紹介し，参加するよう招いた。そして2012年3月17日の土曜日に創立記念集会が行われた。これらの活動は地元の神権指導者の管理の下で計画することができる。

世界中の姉妹たちがその招きに応じた。以下に挙げるのは，全世界の教会で行われた様々な記念行事のハイライトである。

### ドミニカ共和国

ドミニカ共和国ラベガ地方部プリマベーラ第一支部の姉妹たちは，3月17日に行われた支部の記念行事において，初期の末日聖徒の女性たちの無私の心と，脈々と受け継がれてきた彼女たちの遺産について再確認した。

参加した姉妹たちはそれぞれ開拓者の衣装を身に着け，扶助協会に関するメッセージを分かち合った。扶助協会会長会第一顧問マリア・エレナ・ピカルド・デ・ゴメス姉妹は，現代の預言者が教えるように，困難な時代に備えるという責任について，参加した姉妹たちと再確認した。さらに「プリマベーラ第一支部の扶助協会が持つ大きな力は，お互いが非常に異なっているにもかかわらず，同じ福音の下で一致しているところから来るのです」と付け加えた。

### フィジー

「地域社会の中で扶助協会の奉仕活動を行ってください」という中央扶助協会会長会の勧めに従って，フィジー・スバ北ステークのサマブラワードの扶助協会は「違いを生み出す――愛はいつまでも絶えることがない」という継続的な活動を立ち上げた。ワードの姉妹たちは2012年の9月末までに全部で170回，すべて別々の人に対して奉仕や愛，親切な行いをするという目標を立てた。

またそのワードでは，エマ・スミスから続く歴代の中央扶助協会会長の生涯と貢献について，姉妹たちがさらによく理解し感謝するための活動を行った。

### 香港（ホンコン）

香港では，新界（しんかい）ステークの姉妹たちが扶助協会の創立を記念するに当たり，自分たちの個人的な歴史と扶助協会の歴史を振り返った。

姉妹たちは「恵みを追い求めて」と題した展示会を企画し，過去の宣教師の写真，家族の記録，絵画などのほかに，赤い紙の袋で作ったちょうちんやクジャク，ししゅう，キーホールダーや財布など，過去の扶助協会の活動で制作した手工芸品を展示した。

### ケニア

ケニア・ナイロビ伝道部バンブリ支部の扶助協会の姉妹たちは，ある活動に使うためにとっておいたお金を寄付し，支部で必要な台所用品や他の必需品の購入代金に充てた。地元の集会所を隅々まで清掃した後にワードの姉妹たちが集まり，『わたしの王国の娘――扶助協会の歴史と業』を用いて話し合いながら，1842年の扶助協会の創設について思いをはせた。

「この扶助協会という世界的な規模の組織の一員であると思うと特別な気持ちがします。〔扶助協会〕は人によるのではなく神によって定められた組織であると確信しています。」扶助協会会長会第二顧問のアイリーン・キオイ姉妹は語る。

モンバサ支部の姉妹たちは『わたしの王国の娘』と新約聖書からイエス・キリストの女性の弟子たちについて研究した。支部の扶助協会会長である

助協会の歴史についての展示を行い，そこでは姉妹たちがこれまで行ってきた奉仕活動の写真を集めた特別なアルバムも展示された。

扶助協会会長会の第一顧問であるマリア・ペレス・サンチェス姉妹は次のように語っている。「この組織の創立記念に参加できたおかげで，わたしたちのために多くの犠牲を払った開拓者の女性たちをより身近に感じます。そして現在，わたしたちは彼女たちが担ったこの業を続けて推し進めることができます。」

***フィジー・スバ北ステークサマブラワードの扶助協会では，エマ・スミスから続く歴代の中央扶助協会会長の生涯と貢献について，姉妹たちがさらによく理解し感謝するための活動を行った。***

ジャエル・ムワンブレ姉妹は次のように語っている。「モンバサ支部の扶助協会にとって今回が初めての創立記念です。わたしたち全員が心を新たにして，扶助協会での責任に献身できるように望んでいます。今日（きょう）からは皆が互いに気遣い，教会の集会に出席し，困っている人たちを助けられるように願っています。」

**マーシャル諸島共和国**

3月17日土曜日の午前4時30分，マーシャル諸島マジュロステークのアジェルタケ支部，ラウラワードおよびロングアイランドマジュロワードの数百名の姉妹たちは，マジュロアトル近郊の街，ライロクに集まった。それはデラップ集会所までの1時間半の道のりを歩くことにより忍耐の徳を示すためである。その後姉妹たちは同じように集会所まで歩いてきたデラップワードおよびリタワードの姉妹たちと合流し，ディボーショナルを行った後に朝食を取った。そしてスキット（短い劇）とダンスの発表が行われた後に，ステーク会長の話を聞いた。

**スペイン**

スペイン・セビーリャステークのドスエルマナスワードでは，ワードの扶

**アメリカ合衆国**

マサチューセッツ州スプリングフィールドステークのガードナーワードでは，3月15日に扶助協会の姉妹たちが夕食会を行い扶助協会創立170周年を祝った。この夜の集会では4人の姉妹たちが自分の生活に良い影響を与えた一人の女性について話をした。各話者は自分の話をより分かりやすくするために簡単な視覚資料も持参した。

「この活動は女性の強さと価値をさらに高め，そしてわたしたちもお互いの強さや共通点や価値に目を向けるように促されました。」扶助協会会長のジェニファー・ウィットコム姉妹はこう語る。

創立記念祭そのものは終わったが，姉妹たちが奉仕活動やそのほかの記念行事に参加するようにとの招きは2012年末まで継続する。■

# ヘルピングハンズプログラム，ブラジル・アマパーでの伝道活動と新ステーク設立への道を開く

**ミッシェル・サー（ファビアノ・カバルヘイロ長老協力）**

2012年3月10日の土曜日，21人がバプテスマの水に入った。これはここ近年ブラジル・ベレン伝道部管轄内のパラーおよびアマパー両州で同じ日にバプテスマの儀式を受けた最多人数であり，彼らは聖徒たちと同じ「国籍の者」になり（エペソ2：19），「新しいいのち（で）」歩み始めた（ローマ6：4）。

そのバプテスマはマカパ地方部がステークになるという発表の直後に行われ，マカパ地方部は4月14日および15日にステークとなった。

指導者と会員，宣教師が力を結束して取り組み，このような成長を遂げることができた。ヘルピングハンズプログラムの働きも近年の伝道活動の強力な手段となっている。

「アマパー州内で過去2年間に行われたヘルピングハンズの活動のおかげで，それまでよく知られていなかった教会が人々に知られるようになり，政府高官や報道機関，そして社会全体がこの驚くべきプログラムやそれを推進している教会について知りたいと望むようになったのです。」ブラジル・ベレン伝道部会長から最近解任されたホセ・クラウディオ・ファータド・カンポス兄弟はこう語る。

実際に，このプロジェクトが州において行った多大な貢献により，州政府高官によりこの地区に新しい3つの休日を制定するという法案が提出された。それらは4月6日が末日聖徒イエス・キリスト教会の日，7月30日がヘルピングハンズ連帯運動の日，9月23日が「家族――世界への宣言」の日と定める法案である。それに加え，教会への感謝の決議が七十人でブラジル地域会長会第二顧問のジャイロ・マサガルディ長老の出席のもとで採択された。

「ヘルピングハンズプロジェクトによって，教会はアマパーの人々の間で大きな信頼を得てきました。わたしたちの宣教師が自己紹介するとき，人々はテレビやラジオや新聞でよく見かけるので教会についてはすでに知っていると言います。彼らは教会のすばらしさを聞いており，伝道活動はますます受け入れられています。」 カンポス兄弟はこのように語る。

***ブラジル・マカパでは，2012年3月10日土曜日に21人がバプテスマの水に入り，およそ1か月後にブラジル・マカパ地方部はステークとなった。その新しい会員がブラジル・ベレン伝道部の宣教師とともにこの写真に写っている。看板には「Estaca Macapá」（ポルトガル語で「マカパステーク」）と書かれている。地元の指導者や会員はこの地域の教会の発展と強さはヘルピングハンズプログラムによるところが大きいと考えている。***

写真／ミッシェル・サー

*ミッシェル・サーはブラジル・マカパステーク広報ディレクター補佐で，ファビアノ・カバルヘイロ長老はブラジル・ベレン伝道部の専任宣教師である。*■

# ハワイ州，アイダホ州，ユタ州の大学の卒業式で式辞を述べる教会の指導者

4月，教会の指導者たちがハワイ州，アイダホ州，ユタ州にある教会が運営する学校を訪れ，卒業生への心添えの言葉を述べた。

2012年4月7日，ブリガム・ヤング大学アイダホ校では，十二使徒定員会のM・ラッセル・バラード長老が学生に「恐れを信仰に置き換える」よう勧めた。

「わたしたちは発展と繁栄，豊かさという新たな時代の始まりに立っていると信じています。主の再臨を待ち望みながら，皆さんは自分の人生をささげ，自分の時間と才能をイエス・キリスト教会の建設に奉献するように，自分自身と天の御父に対して決意してください。」 バラード長老はこのように語った。

2012年4月13日，十二使徒定員会のD・トッド・クリストファーソン長老はユタ州ソルトレーク・シティーのLDSビジネスカレッジを訪れ，アメリカ合衆国の50州すべてと67か国から来た卒業生に式辞を述べた。

クリストファーソン長老は卒業生が生涯を通じて奉仕する必要があることを強調し，次のように語った。「奉仕は，世界の様々な社会でますます影響力を強めている利己心と権利ばかりを主張したがる傾向を防いでくれます。皆さんの奉仕は人々を祝福しますが，それはまた皆さんを守ってくれます。」

翌日，中央若い女性会長のイレイン・S・ダルトン姉妹がBYUハワイ校の学生に次のような勧めの言葉を述べた。「自分が何者なのか忘れないでください。熱心に働いてください。逆境に備えて訓練してください。大きな夢を抱いてください。勝者は必ずしも最初に決まるわけではないのです。

信仰と人生のマラソンを駆け抜けてください。上り坂が現れても落胆せず，逆境の中にある機会に目を向けてください。しっかりとした足取りで，決して独りではないという確かな知識をもって進んでください。わたしが心から信じていることは，御霊に導かれた一人の徳高い若い男性や一人の徳高い若い女性が世界を変えられるということです。」

2012年4月19日，ユタ州プロボにあるBYUの卒業生は十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老のメッセージを聞いた。オークス長老は世の中が抱える問題について語ったが，卒業生には信仰をもって将来に目を向けるように語った。

写真／BYUプロボ校の厚意による

***2012年4月19日，アメリカ合衆国ユタ州プロボのブリガム・ヤング大学の卒業生は，十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老の話に耳を傾けた。***

「人々は意気消沈していますが，勇気を出してください。いつでも困難なときはあるのです。皆さんの先駆者であるわたしたちの世代も手ごわい問題を乗り越えてきたのですから，皆さんにも乗り越えられます。わたしたちには救い主がついていて，これまで何をするべきか教えてこられたのですから。」

*この話や教会指導者の他のメッセージについてさらに知りたい方はprophets.lds.orgにアクセスして「現代の預言者と使徒の言葉」のページに進んでください。*■

### LDSマップ最新版により会員が教会の場所を見つけるのがさらに容易になる

LDSマップ最新版は様々な新しい機能を搭載し，会員がステークの会員や集会所，神殿，他の教会施設を見つけるのがさらに容易になる。

新しいLDSマップにアクセスするには，**LDS.org > Tools > Maps** と進む。中国語，チェコ語，デンマーク語，オランダ語，英語，フィンランド語，フランス語，ドイツ語，イタリア語，日本語，韓国語，ノルウェー語，ポルトガル語，ロシア語，スペイン語，スウェーデン語の16の言語で利用できる。

新たな機能には，世帯ごとの表示や地図のタイプを選択して表示する機能，iPadなどのタブレット型携帯端末向けの改善された機能，ユニット管轄地図，現在地確認機能，改善された印刷機能などが含まれる。

この最新版により，末日聖徒の礼拝所を検索し，車で行くルートを見て印刷したり，ソーシャルメディアを通じて地図にリンクをはって公開することもできる。さらにLDSアカウントでサインインすれば，会員は自分の地域やその周辺のワードやステークの情報を閲覧できる。

### 教会機関誌が会員による総大会の写真を募集

教会機関誌『リアホナ』および『エンサイン（*Ensign*）』では，会員が次回以降の総大会に参加し，大会直後に各自の地域から大会に関連する写真を投稿するように呼びかけている。投稿された写真は，5月号と11月号での掲載が検討される。

会員はLDS.orgにアクセスし **Menu > Magazines** へと進み（あるいは **lds.org/magazine** と入力して），教会機関誌のトップページの右の欄にある **Submit Your Material** をクリックすると，素早く容易に写真を投稿することができる。

『リアホナ』および『エンサイン（*Ensign*）』のページには「作品を投稿してください」という項目があり，そこで会員は写真投稿用のオンラインフォームにアクセスすることができる。

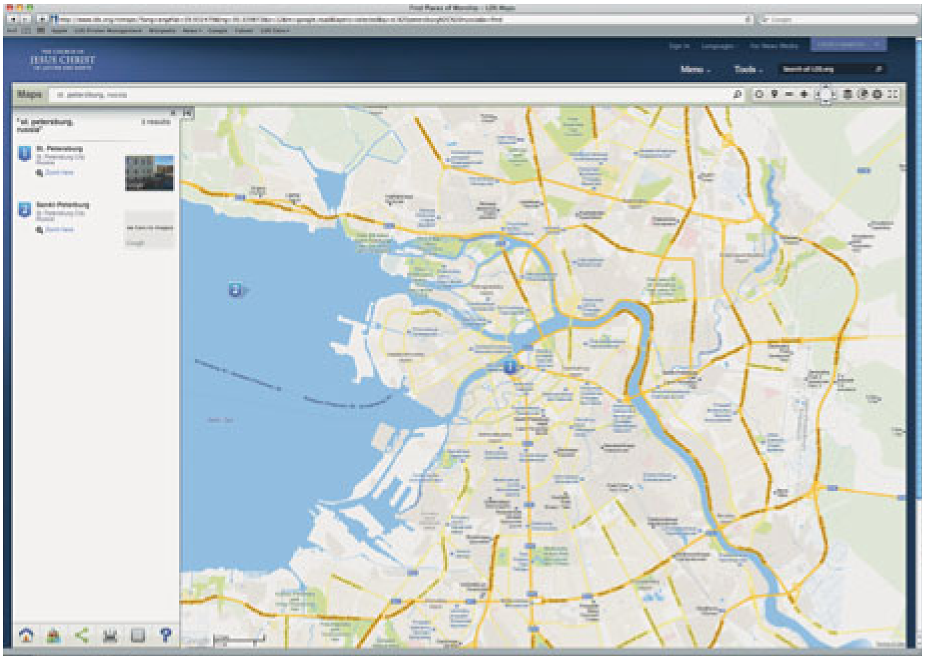
会員は画像を投稿する前に画像についての指針を確認する必要がある。「総大会の写真」に関する指針には写真の形式，品質，機関誌の編集部が求める内容，提出期限などが示されている。

### 『リアホナ』用の携帯アプリが公開される

教会は機関誌の内容を扱ったタブレット型携帯端末用の基本アプリを公開した。『LDSリアホナ』アプリには2011年10月号，2011年11月号および2012年5月号，つまりモルモン書特集号と最近行われた二つの大会号が収められている。

『LDSリアホナ』は英語，ポルトガル語，スペイン語で利用可能であり，これまでにない双方向機能により機関誌の記事を十二分に堪能できる。たとえば利用者は機関誌の音声ファイルを聞きながら記事を読むことも可能である。このアプリはアンドロイドとアップル用に設計されている。■

***新しいLDSマップには，世帯ごとの表示や地図のタイプを選択して表示する機能，iPadなどのタブレット型携帯端末向けの改善された機能，ユニット管轄地図，現在地確認機能，改善された印刷機能などが含まれる。***



## 読者からの便り

### 小さくて簡単なことによって

息子のテイラー（マルフォード長老）はタヒチのボラボラ島で伝道しています。彼は，最近ステーク会長がボラボラに来て，教会員が営む理容店へ散髪に行ったときのことについて宣教師たちに話したことを教えてくれました。ステーク会長は，その理容店では客が読む雑誌と一緒に『リアホナ』を置いていないのはなぜか尋ねました。その理容師の兄弟は，ステーク会長が次に来店するときには『リアホナ』を何冊か置いておくと約束しました。しかし，ステーク会長が次に訪れたときにはまだ『リアホナ』が置かれていませんでした。がっかりしたステーク会長は理容師の兄弟に理由を尋ねました。彼の説明によると，『リアホナ』を置いておくといつでも，それを読んだ人が彼にたくさんの質問をし，そしてその機関誌を持って行ってもよいかと尋ねるのです。その兄弟は上げられる機関誌がもうないと言いましたが，雑誌を持って行った人の多くが宣教師のレッスンを受けていると付け加えました。

教会員の医師や歯科医，理容師のすべてが待合室に教会機関誌を置いたならば，一体どんなことが起こるか想像できるでしょうか。教会は会員が行う小さくて簡単なことによって前進しているのです。

**バーデル・マルフォード（アメリカ合衆国ユタ州）**

*ご意見，ご感想を liahona@ldschurch.org までお寄せください。掲載されるお手紙は，紙面の都合上，あるいは明瞭な表現にするために編集されることがあります。*■

## 家庭の夕べのためのアイデア

*今月号には，家庭の夕べで活用できる記事や活動が載っています。以下に幾つか例を挙げます。*

**「キリストを信じる信仰を築く」** 12ページ——記事の最後の方でクリストファーソン長老は行動と力の原則となる信仰について語っています。自分たちが直面する問題とそれを克服するために定めた目標について家族で話し合ってください。今週取り組む目標を一つ選び，イエス・キリストの助けがあれば，わたしたちは主の御心と主の時に従ってすべてのことを成し遂げる力を得られるということを思い起こさせます。次回の家庭の夕べで，定めた目標に対して家族がどれほど進歩できたのか話し合ってもよいでしょう。

**「良い模範となって福音を伝える」** 16ページ——この記事にある話を家族で紹介するときには，福音を分かち合うことができる友人や家族について考えるように勧めてください。証を述べる機会が訪れたときに備えができているように，どうしたら友達になり，愛をもって耳を傾けられるのかについて話し合ってください。

**「『成長するわたし』の祈り」** 58ページ——朝晩祈るようになったアマリアの経験について読んでください。アミュレクがアルマ書第34章17－27節でどのように祈るべきか教えているところを読むとよいでしょう。いつどのように祈ったらよいかについて，これらの聖句から学べることを家族に尋ねるのもよいでしょう。祈りの力についてあなたの証を述べて終わります。

**「お友達宣教師」** 60ページ——記事を読んだ後，家族一人一人の友人が興味を示しそうな今後の教会の活動や集会のリストを作ってみてはどうでしょう。それらの活動の一つに友人を招く方法をロールプレイしてみるのもよいでしょう。特に教会員でない人にとって，真の友人になるとはどのようなことか話し合ってください。最後に友人と連絡を取って活動に招く計画を立てましょう。

### わたしたちは幸せな家族です

最も楽しい思い出として残っている家庭の夕べは困難なときに開いたものでした。経営方針の変更により，夫は職場で困難な状況に直面して気落ちしていました。

わたしたちはその週の家庭の夕べで彼をたたえようと決めました。家族の皆がそれぞれ彼に感謝の手紙を書いて，彼を愛している理由や彼のために願っていることを述べました。その後家族の大切な節目である記念日や結婚，結び固め，誕生，その他の出来事に撮った写真のアルバムを作りました。写真ごとにコメントを書き，どれも「だから幸せな家族」という言葉でコメントを結びました。その夕べの閉会に娘とわたしは同じような歌詞の初等協会の歌を歌いました（「幸せな家族」『子供の歌集』104参照）。

家庭の夕べの間，わたしたちに向けられる救い主の愛と家族が互いに対して抱いている愛を感じることができました。

家庭の夕べを開くという霊感された戒めに感謝しています。その戒めに従うことによってわたしたちは強められ，永遠の家族になるように備えられます。■

**ケニア・ドゥアルテ・ドス・サントス（ブラジル）**

# わたしには どんな価値が あるのだろうか

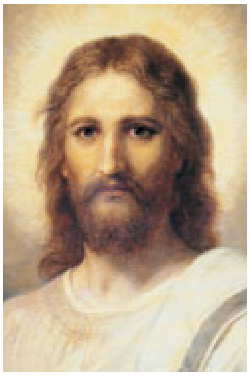
教会機関誌
**アダム・C・オルソン**

4年間テレビなしで過ごし，その後の6年間は中古のテレビで我慢していたわたしたち夫婦は，ついに新しいテレビを買うことにしました。費用のことを考えて，最終的に購入する前に，テレビの型や銘柄，特徴，値段を丹念に比較検討しました。おもしろいことに，この経験を通してわたしは，テレビを手に入れただけでなく，個人の価値を決めるうえで大切な一つの見識を得ることができました。

人の価値というものは，きょうだいや級友，同年代の仲間，あるいは同僚と比較することによって測られることを，わたしたちは経験を通して学びます。テレビを購入する際に比較することで価値を決めるのが妥当だとしたら，人生においてわたしたち自身もテレビと***同じような存在***だということになります。

他人と比較することで自分の価値を決めるとしたら，店にあるテレビをほかのテレビと見比べながらそれが26インチではなく40インチであればよかったものをと言うのと同じです。これはおかしな話です。なぜならテレビ画面を自分の思い通りに1インチ伸ばすことができないのと同様に「あなたがたの中のだれが，思い煩ったからといって，自分の背丈を一キュビト伸ばすこと」などできないからです（3ニーファイ13：27）。使徒パウロは，「彼らは仲間同志で互にはかり合ったり，互に比べ合ったりしているが，知恵のないしわざである」と警告しています（2コリント10：12）。

また，***その人から見たら***ほかの人と比べてあなたにはこんな価値があると思うなどとあなたに甘言する人の言葉に気を取られてはなりません。売り手はテレビの値段を操作することはできても，テレビの価値そのものを決めることはできないのです。



「キリストの面影」ハインリッヒ・ホフマン画，C・ハリソン・コンロイ社の厚意により掲載

*値段に見合う価値がその品物にあるかどうかを判断するのは，買い手です。*

大切な点は，値段を見て，その製品を評価し，値段に見合う価値があるかどうかを決断するのは買い手だということです。ところで，現世においてわたしたちの行く末を買い取ることのできる御方は御一方しかおられません。

わたしたちの救い主であるイエス・キリストは，「製品」であるわたしたちを，人類全体としてもまた個人としても値踏みされました。人類家族がかかわるであろう罪悪の深さを主は御存じでした。[1] またいずれ御自分が，途方もなく大きな恐ろしい代価を支払うことになることも理解しておられました。「その苦しみは，神であって，しかもすべての中で最も大いなる〔主御〕自身が，苦痛のためにおののき，あらゆる毛穴から血を流し，体と霊の両方に苦しみを受けたほどのもので」した（教義と聖約19：18）。

そしてすべてを御存じのうえで，***このわたしにそれだけの価値があると主は判断されたのです。***

他人と比較して自分がどれほど至らない人間だとわたし自身が思ったとしても，また，他人がわたしをどんなに過小評価したとしても，イエスは，大きな代価を支払うに値する価値がわたしにはあるとお認めになりました。

サタンは最も巧妙で邪悪な手口の一つとして，個人の価値を攻撃します。神の御子が，世の罪のためだけでなく***わたし自身***の罪のためにその命を投げ出されたと信じるのはとても大切なことです。もし「そうではない」とサタンに惑わされでもしたら，わたしは救い主の贖いの恵みを求めることもできず，主のみ前に戻ることもできなくなってしまいます。

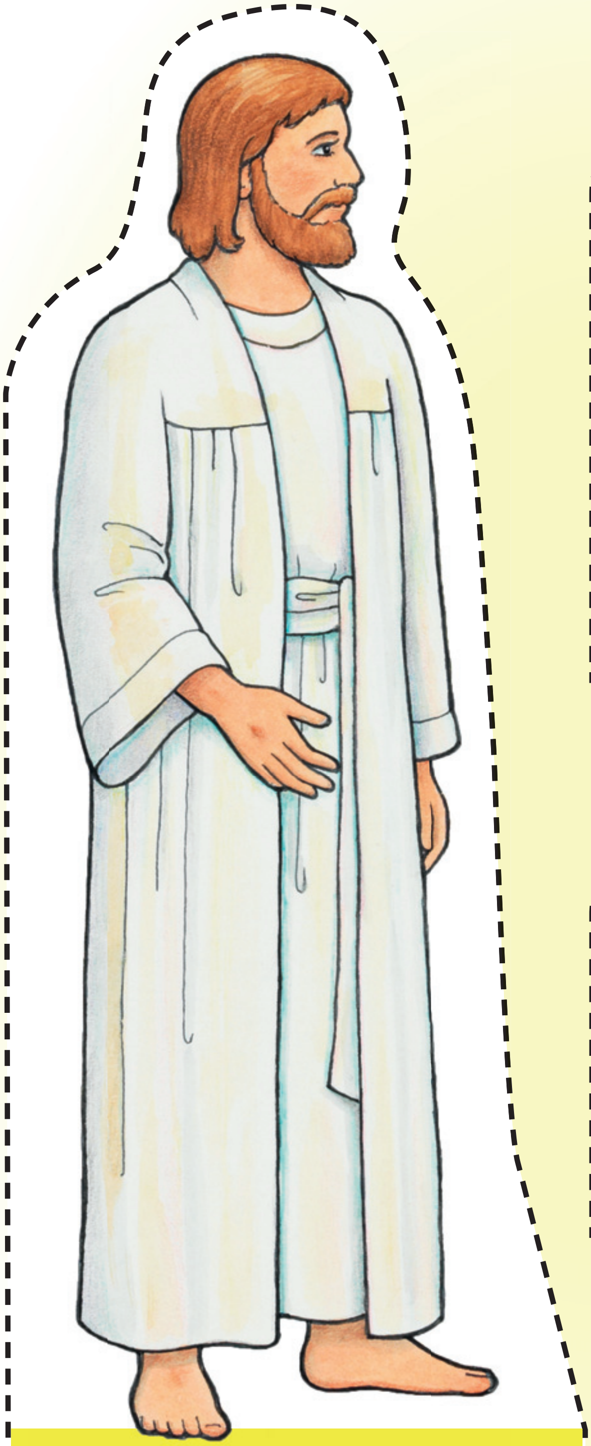
もし自分の価値に疑問を抱くことがあったら，買い手である主のもとへ行き，この世で唯一信頼できる製品評価をしていただきましょう。大管長会第一顧問のヘンリー・B・アイリング管長は，「わたしたち……を救い主が愛しておられ，その愛を感じられるという確信をもって祈ることができるのです。……主はすべての罪の代価を支払われるほど，人々を愛されました」と言っています。[2]

その愛を信じることによってわたしたちは，贖い主を通して自らの生活を改め，そのみもとに戻ることができるのです。■

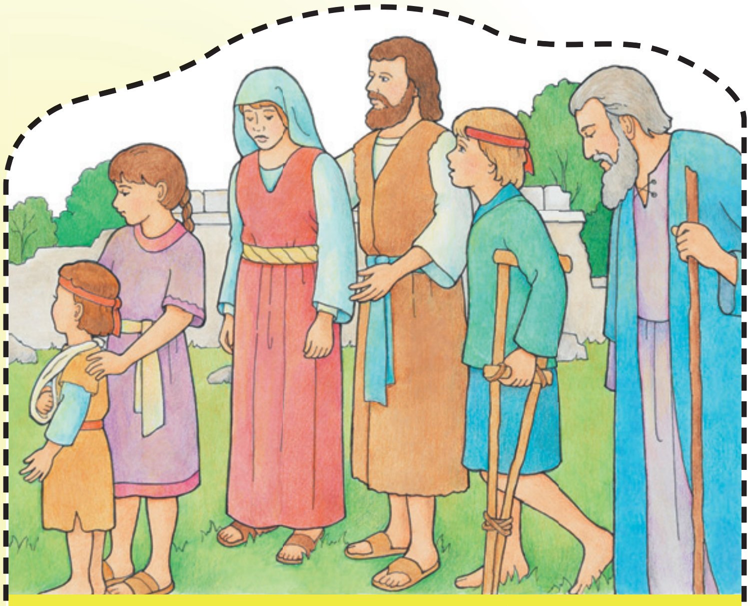
**注**

1.『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』406参照
2. ヘンリー・B・アイリング「子供および弟子として」『リアホナ』2003年5月号，31

# モルモン書に　出てくる　じんぶつなどの　絵



イエス・キリスト



びょうきの　ニーファイ人

火に　つつまれる　子どもたち

びょうにんを　いやし，子どもを
しゅくふくされる　イエスさま
第三ニーファイだい 17 しょう

今年の『リアホナ』には　モルモン書に　とうじょうする　じんぶつなどの　絵の　セットが　たくさん　もりこまれます。じょうぶで　つかいやすく　するために，それぞれの　絵を　切りぬき，ボール紙や　あつ紙，小さな　紙ぶくろ，または　工作用の　ぼうに，のりか　テープで　はってください。ふうとうや　ふくろに　それを　まとめて　しまっておきましょう。その　とき，その　じんぶつなどが　モルモン書の　どこに　出てくるか　分かるように　ラベルを　はっておくと　よいでしょう。

イラスト／ベス・M・ホイッタカー

リアホナ　2012年9月20日発行（毎月1回20日発行）　第14巻第9号　昭和42年12月18日第3種郵便物認可　ISSN 1344-8595

*福祉と人道支援プロジェクト，職業センター，*
*伝道本部，家族歴史センター，神殿，訪問者センター，*
*そのほかいろいろな場所でシニア宣教師に奉仕の機会が与えられています。*
*シニア世代の皆さんは，*
*預言者を通して主から召されるので心配する必要はありません。*
*主は，奉仕したいと願っている一人一人の宣教師のために*
*正しい機会を御存じなのです。*
*「シニア宣教師——預言者の呼びかけにこたえる」，20ページ参照。*

JAPANESE
4 02104 89300 5
10489 300

末日聖徒
イエス・キリスト
教会